

学 修 要 覧

(学部編)

2025年度入学生用

産業社会学部

立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類諸課題の解明に進進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

立命館大学学生育成目標

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めることを教育的使命としています。

立命館大学は、多様なバックグラウンドや個性を持つ学生達が、「Creating a Future Beyond Borders 自分を越える、未来をつくる」ことができる主体として学び成長していくことを、様々な部署が連携することによって教職協働で支援しています。正課・課外など学生生活全体を通じて、「学びのコミュニティ」の中で相互に学び合い、切磋琢磨し、学部卒業時に次のようなことができる学生の育成を目指しています。

- (1) 多様な価値を尊重し、他者との対話と協働を重視し、「平和と民主主義」の価値観に裏打ちされた自律的な思考と行動ができる
- (2) 幅広い教養と専門性を有し、グローバルとローカルの視点を備え、既存の枠組みや境界を超えた「自由」で「清新」な思考と行動で問題発見・解決ができる
- (3) 自己を理解し、自らの役割や課題を踏まえた責任ある思考と行動ができる
- (4) 「未来を信じ、未来に生きる」高い志を持ち、生涯にわたって学び、行動し続けることができる

2018年3月2日制定

学 修 要 覧

(学部編)

2025年度入学生用

産業社会学部

目 次

I. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標	
1. 人材育成の目的	2
2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）	2
3. 学位授与方針（ディプロマポリシー）	3
II. 産業社会学部での履修	
1. 産業社会学部の教育課程および卒業に必要な条件	6
2. 卒業見込証明書発行基準	8
3. 受講登録上限単位数	8
4. カリキュラム表	13
5. 教養科目	16
6. 外国語科目	28
7. 専門科目	34
8. 発展科目	48
III. ゼミナール・卒業研究	
	54
IV. 産業社会学部の特色ある学び	
1. 産業社会学部英語副専攻	60
2. 産業社会学部グローバルスタディプログラム	62
3. 産業社会学部ソーシャルデザインプログラム	64
4. ダブルメジャー履修制度	66
V. 学部横断プログラム	
1. 全学副専攻	70
2. 海外留学について	72
3. 大学間単位互換制度	74
4. 他学部受講	75
VI. 資格取得・キャリア形成	
1. 教職課程（現代社会専攻・メディア社会専攻・スポーツ社会専攻・人間福祉専攻）	78
2. 教職課程（子ども社会専攻）	96
3. 社会調査士課程	104
4. 社会福祉士課程（人間福祉専攻）	106
5. 立命館大学大学院 社会学研究科 応用社会学専攻	108
6. （任用資格）社会福祉主事	109
VII. 正課学修の援助制度（小集団教育推進補助費）	
	112
VIII. ハラスメントの防止	
	114
IX. カリキュラムマップ	
1. カリキュラムマップ	116
2. 科目ナンバリング	129

学修支援システム「manaba+R」は、2026年度に新システムに移行します。
この学修要覧上で「manaba+R」の各種ページを案内している内容等については、上記のシステム移行に伴い2026年度以降変更となりますのでご注意ください。

学部則については、ホームページ・manaba+Rに記載しています。

【WEBサイト】

学校法人立命館のホームページ→「情報公開」→「学校法人立命館情報公開のページ」
→「立命館大学」→「大学および学校の学則、学部則および研究科則」を確認

【manaba+R】

manaba+R →「産業社会学部生のページ」→「産業社会学部の履修」→「学部則」

I . 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

1. 人材育成の目的

産業社会学部は、社会諸科学に関する教育研究を通じて、①国内外の現代社会における諸問題に関する鋭い感受性を持ち、②学際性と専門性を兼ね備え、③積極的に社会に働きかけ、民主的な人間関係を育みながら社会問題を解決していくことができる人間を育成することを目的とする。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

1. 初年次教育 (1～2セメスター) の方針

1) <関心・意欲・態度>+<知識・理解>

本学部の人材育成ならびに学位授与方針からして、社会や社会問題への意識や関心、またそれらに取組む意欲の涵養が初年次教育で重要になる。社会で何が起きているのか、そして「問題」とされるものはいかにして問題なのか、また問題を解決するということはどういうことなのかを理解し、そのための基礎的知識を得ることは本学部における「主体的な学び」を獲得する上できわめて重要になる。初年次の講義科目である「入門社会学」をはじめとする学部基礎専門科目や専門導入科目において1回生の問題意識や意欲を喚起し、かつ社会的想像力を育む基礎的知識を獲得させる。

また、学際的で幅広い教養の獲得と興味関心を広げ、自らの学びや生き方をデザインする力を涵養する機会として、教養科目C群をはじめ教養科目A、D、E群の履修を推奨する他、サブゼミ等の時間を活用し、ピア・ラーニングを通して自らの学びや生き方を吟味、デザインする機会を創出する。

2) <関心・意欲・態度>+<思考・判断>

「入門社会学」をはじめとする学部基礎専門科目や専門導入科目で知り得た社会問題や社会事象について、さらに問題構造の理解を深め、適切な「問い」を設定し、適切な方法で探求する能力を、「基礎演習」で涵養する。「基礎演習」は、個人ワークとグループワークを相互に展開し、民主的な人間関係を育みながら新たな問題解決の可能性を探るプロセスとダイナミズムを学ぶ場となる。

3) <技能・表現>

「基礎演習」をはじめとする小集団授業では、問題理解や解決のために他者とやりとりする基礎的技能や表現力、情報収集力が不可欠となる。そうした能力、技術、作法を取得し向上させる場として、「情報リテラシーI」「外国語」科目を履修する。

2. 2回生次教育 (3～4セメスター) の方針

1、2回生次に学部基礎専門科目や専門導入科目を履修すると共に、2回生次から各専攻専門科目の履修が開始される。2回生は、3回生から始まるゼミナールクラスの選択をはじめ、自らの専門的な学びや卒業後の進路を検討し始める重要な時期となる。また、2回生次の小集団授業となるプロジェクトスタディは、1回生時の基礎演習やリテラシー科目で学んだことを「学びほぐす」機会となり、基礎演習やリテラシー科目で習得した問題理解や解決のために他者とやりとりする基礎的技能や表現力、情報収集力をさらに向上させることになる。

3. 高回生専門教育 (5～8セメスター) の方針

3回生からの学びは、必修化された卒業研究に着手するゼミナールが中心となる。専門科目の履修により<知識・理解>に関する能力を高めながら、ゼミナールでは、1、2回生で培った<関心・意欲・態度>、<思考・判断>に関する能力をさらに高めていく。4回生では「卒業研究」として、4年間の学びの集大成を行う。

3. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

産業社会学部は、社会諸科学に関する教育研究を通じて、①国内外の現代社会における諸問題に関する鋭い感受性を持ち、②学際性と専門性を兼ね備え、③積極的に社会に働きかけて社会問題を解決していくことができる人間を育成することを目的として、その卒業時点において学部学生が身につけておくべき最低限度の能力（教育目標）として下記を定めている。これらの能力の獲得は、本学部のカリキュラムが規定する所定単位の取得と卒業研究の合格により、その達成とみなし、学部卒業の際には学士（社会学）を授与する。

< 関心・意欲・態度 >

1. 現代社会における国内外の諸問題に鋭く関心を寄せることができる。
2. 異なる領域や文化をもつ多様な他者の意見に耳を傾けることができる。

< 思考・判断 >

3. 独自の研究テーマと適切な「問い」を設定できる。
4. 適切に設定した「問い」を適切な「方法」で探求することができる。

< 技能・表現 >

5. 日本語で論理的に記述し、的確に発表し、討議を行うことができる。
6. 少なくとも一つの外国語を適切に運用し、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
7. 情報機器を適切に運用することができる。

< 知識・理解 >

8. 社会学をはじめとする社会科学的な基礎知識を社会問題の解明や解決に活用することができる。
9. 学際的で幅広い教養を獲得し、社会問題の解明や解決に活用することができる。

Ⅱ．産業社会学部での履修

1. 産業社会学部の教育課程および卒業に必要な条件
2. 卒業見込証明書発行基準
3. 受講登録上限単位数

1. 産業社会学部の教育課程および卒業に必要な条件

1. 概要

卒業する（学士の学位を得る）ためには、4年以上在学し、かつ卒業に必要な単位を修得することが必要です。

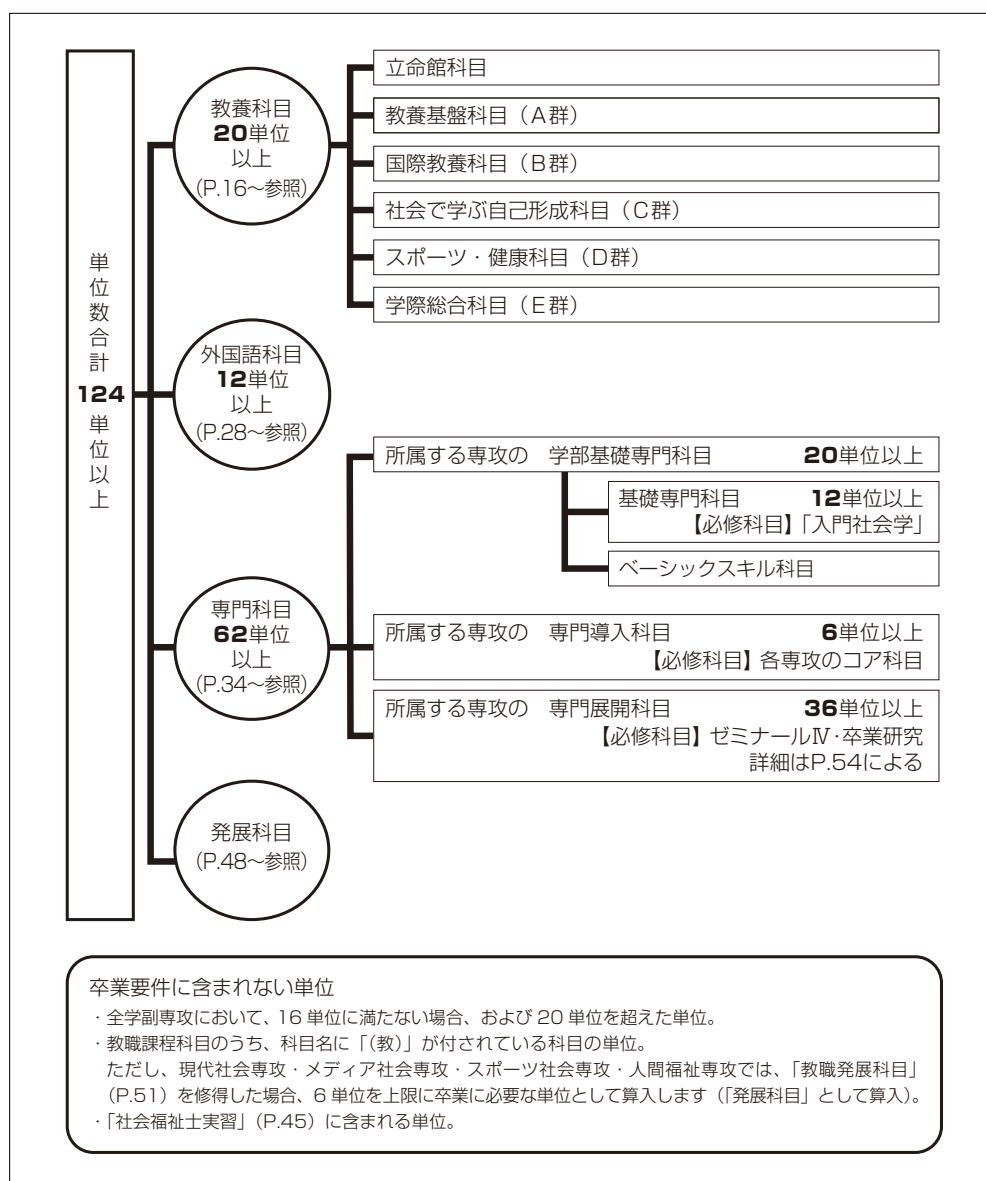
2. 教育課程

学部	学科	専攻	学位
産業社会学部	現代社会学科	現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 子ども社会専攻 人間福祉専攻	学士（社会学）

子ども社会専攻を除く、現代社会専攻、メディア社会専攻、スポーツ社会専攻、人間福祉専攻の各専攻に所属を転じることを「転専攻」として扱います。
転専攻先の専攻での募集がある場合に限り、1回生または2回生終了時点で一定の出願資格を満たした上で、転専攻の出願を行うことができます。出願後、選考の上、2回生または3回生の進級時の転専攻を許可することがあります（年度途中の転専攻はできません）。出願資格等、詳細については毎年度12月頃に配布する要項を参照してください。
なお、子ども社会専攻からの転出、子ども社会専攻への転入は、「学修要覧（全学部共通編）」に記載している「転籍」として扱います。

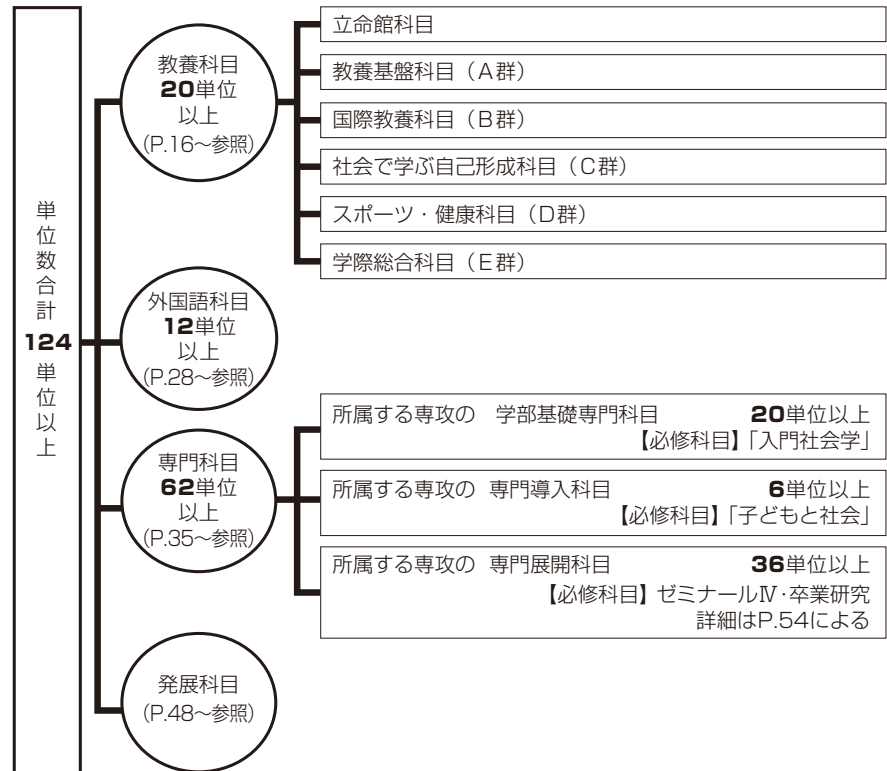
3. 卒業に必要な単位

現代社会専攻・メディア社会専攻・スポーツ社会専攻・人間福祉専攻



必修科目（卒業要件として、あるいはプログラム上・資格課程上で必ず単位を修得しなければならない特定の授業科目）・履修指定科目（カリキュラム上またはプログラム・資格課程上で必ず受講しなければならない授業科目）は、上図の各参照ページ、P.54～（Ⅲ. ゼミナール・卒業研究）、および各プログラム・資格課程のページで確認することができます。

子ども社会専攻



卒業要件に含まれない単位

- ・全学副専攻において、16 単位に満たない場合、および 20 単位を超えた単位。
- ・教職課程科目のうち、科目名に「(教)」が付されている科目の単位。

必修科目（卒業要件として、あるいはプログラム上・資格課程上で必ず単位を修得しなければならない特定の授業科目）・履修指定科目（カリキュラム上またはプログラム・資格課程上で必ず受講しなければならない授業科目）は、上図の各参照ページ、P.54～（Ⅲ．ゼミナール・卒業研究）、および各プログラム・資格課程のページで確認することができます。

2. 卒業見込証明書発行基準

1. 卒業見込証明書とは

「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。「卒業見込証明書」は証明書を発行する時点において以下①～③の基準全てを満たしている場合に、各キャンパスに設置されている証明書自動発行機で発行できます（発行時に 100 円 / 通の手数料が必要）。

2. 発行基準

①第 7 学期以降であること

「履修状況確認」に表示されている「現セメスター」が、7 セメスター以降であること（「履修状況確認」画面は、manaba+R から CAMPUS WEB へログインの上確認のこと）。

②「在学」中または「留学」中であること（休学中は発行できません）。

③以下の時期において、「修得済単位数」が下表の基準を満たしていること。

※第 8 学期（8 セメスター）以降の場合は、修得単位数に応じて、証明書に記載される卒業見込日が異なります。なお、当学期卒業日もしくは翌学期卒業日の両方の基準を満たしている場合は、当学期の卒業見込日が記載された証明書が発行されます（卒業見込日を選択することはできません）。

証明書発行請求を行う時期	前学期末時点の修得単位数	証明書に記載される卒業日 春学期：秋分の日 秋学期：3 月 20 日
第 7 学期（7 セメスター） 学期開始日（*）～学期終了日	75 単位以下	（証明書発行不可）
	76 単位以上	翌学期卒業日
第 8 学期以降（8 セメスター以降） 各学期開始日（*）～学期終了日	75 単位以下	（証明書発行不可）
	76 単位以上 99 単位以下	翌学期卒業日
	100 単位以上	当学期卒業日

* システムメンテナンスのため、学期開始数日後から証明書の発行が可能になります。

3. 受講登録上限単位数

1. 1 学期間の登録上限単位数

1 学期間に履修科目として登録することができる上限単位数は、以下の通りです。なお、入学後、最初の学期は第 1 学期であり、その後在学期間ごとに次の学期へ進行します。（編入学・転入学を除く）。自身の現在の学期は、履修状況確認画面に記載されている「現セメスター」でも確認可能です。

1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		5 回生以上
第 1 学期	第 2 学期	第 3 学期	第 4 学期	第 5 学期	第 6 学期	第 7 学期	第 8 学期	第 9 学期以降
22	22	22	22	22	22	24	24	24

2. 通年科目（春学期～秋学期を通して行われる科目）の取り扱い

通年科目を受講登録した場合、春学期と秋学期において 1/2 分の単位数をカウントします。
（例）通年 4 単位科目を受講登録した場合、春学期に 2 単位、秋学期に 2 単位分をカウントします。

3. 登録上限外科目

以下の科目は、登録上限単位数に含まれません。

- ①教職課程科目のうち科目名に「(教)」が付記されている科目（ただし、現代社会専攻・メディア社会専攻・スポーツ社会専攻・人間福祉専攻で「教職発展科目」を受講登録する場合は、登録上限単位数に含まれます）。
- ②社会福祉士課程の実習・演習・実習指導科目（P.45）
- ③「平和人権フィールドスタディ」「コーオブ演習（理論）」「コーオブ演習（実践）」
- ④以下の海外留学科目
「グローバル社会の体験と理解」「Intensive Language Workshop」
「Language for Academic Communication」「Global Project-Based Learning」
「Area Study I」「Area Study II」「Global Study」
「Academic Communication (Online Learning)」「Area Study (Online Learning)」
- ⑤ APU サマーセッションプログラムの授業科目
- ⑥産業社会学部英語副専攻「Study Abroad Program」
- ⑦大学コンソーシアム京都単位互換制度の科目のうち他大学が開講する科目

4. 上限単位数の緩和を行う場合（特例扱い）

学籍異動を伴う本学の海外留学プログラムに参加した者に限り、派遣終了後の翌学期の受講登録上限単位数を 30 単位とします。
※ただし、DUDP 参加者は、派遣終了後の翌学期に加えて、派遣前の学期においてもこの特例を適用します。

Ⅱ．産業社会学部での履修

4. カリキュラム表

カリキュラム表〈現代社会専攻・メディア社会専攻・スポーツ社会専攻・人間福祉専攻〉

科目分野 卒業要件単位数(最低必要単位数)		1回生		2回生		3回生		4回生												
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター				
20 単位 以上	立命館科目	日本の近現代と立命館②				ピア・サポート論②														
						平和人権フィールドスタディ②														
	実践データ科学②		現代平和論②		戦争の歴史と思想②		ジェンダーとダイバーシティ②		市民と政治②		日本国憲法②		災害と安全②		歴史観の形成②		科学・技術と社会②			
	国の行政組織②		メディアと図書館②						(留)日本語②											
	教養基盤科目(A群)		哲学と人間②	人間性と倫理②	論理と思考②	社会思想史②	科学技術と倫理②	宗教と社会②	メンタルヘルス②	文化人類学入門②	文学と社会②	現代の教育②								
			世界の言語と文化②	世界と日本の食文化②	観光学②	京都学②	美と芸術の論理②	音楽原論②	映像と表現②	映像メディア実践入門②	文芸創作論②	現代社会と法②								
			経済と社会②	企業と社会②	現代の国際関係と日本②	日本経済概説②	現代の世界経済②	現代の経営②	ソーシャルデザイン論②	エリアスタディ入門②	新しい日本史観②	中国の国家と社会②								
			東アジアと朝鮮半島②	ヨーロッパの歴史②	アメリカの社会と文化②	イスラーム世界の多様性②	科学的な見方・考え方②	宇宙科学②	地球科学②	生命科学(分子と生命)②	生命科学(生物と生態系)②	材料と化学②								
			現代環境論②	科学と技術の歴史②	生命科学と倫理②	近現代の科学技術②	数理の世界②	情報の数理②	情報科学②	情報技術と社会②	データサイエンス・AI基礎②	データエンジニアリング基礎②								
	(留)日本の文化・地理・歴史②		(留)日本の社会・政治②		(留)日本の経済・経営②		(留)日本の自然・科学技術②													
国際教養科目(B群)		Cross-cultural Encounters 1②																		
		Liberal Arts Seminar②	Introduction to Law②	Modern World History②	Japan and the West②	Introduction to Economics②	Kyoto and the Japanese Arts②	Special Lecture②	Introduction to Linguistics②	Introduction to Anthropology②	Introduction to Natural Science②									
		Introduction to Humanities②	Introduction to the United Nations②	Introduction to Peace Studies②	Introduction to Gender Studies②	Introduction to Computational Linguistics②	History of Computing②	Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities②	Introduction to Food Culture②	Cross Border Policy Issues②	Understanding Language②									
		Computers in Education②	Language in Politics②	Introductory Course to Climate Change and Global Warming②	Introductory Course to International Project Development②	Introductory Course to International Project Development②	Understanding Visual Culture②	Introduction to Food Culture②	Cross Border Policy Issues②	Academic Skills 2②	Playing with Playfulness②									
社会で学ぶ自己形成科目(C群)		Introduction to Global Justice②	Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell②	Cross-cultural Encounters 2②	Cross-cultural Studies②	Cross-cultural Seminar②	Non-verbal Communication②	Academic Skills 1②	Academic Skills 2②											
		グローバル社会の体験と理解②	Intensive Language Workshop②	Language for Academic Communication②	Area Study I ②	Academic Communication (Online Learning)②	Area Study (Online Learning)②													
スポーツ・健康科目(D群)		社会と学ぶ課題解決②				仕事とキャリア②		コープ演習(理論)②		コープ演習(実践)②		シシズンシップ・スタディーズ②								
		学びとキャリア②		地域参加学習入門②		現代社会とボランティア②														
学際総合科目(E群)		現代社会のフィールドワーク②																		
		スポーツの歴史と発展②		スポーツと現代社会②		スポーツのサイエンス②		現代人とヘルスケア②		スポーツ方法実習Ⅰ①		スポーツ方法実習Ⅱ①								
		教養ゼミナール②		異文化間テーマ演習②		単位互換科目		単位互換科目(遠隔授業)				超領域リベラルアーツ②								
12 単位 以上	外国語	英語 6単位	英語1② 英語3①		英語2② 英語4①		*1 初修外国語は、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「スペイン語」、「朝鮮語」より選択													
		初修外国語 6単位	〇〇語・基礎② 〇〇語・表現Ⅰ① *1		〇〇語・展開② 〇〇語・表現Ⅱ① *1															
		留学生 (日本語6単位、英語6単位)	(留)日本語Ⅶ(聴解口頭a/読解a/文章表現a)各① 英語1② 英語3① *2		(留)日本語Ⅶ(聴解口頭b/読解b/文章表現b)各① 英語2② 英語4① *2		*2 英語を母語とする留学生については、英語以外の言語(ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語)から1つの言語を選択し履修													
合計124単位以上	62単位以上	(20単位以上) 学部基礎専門科目	基礎専門科目 (12単位以上)	入門社会学②	計量社会学②	現代教育社会論②	現代史②	現代政治論②	コミュニケーション理論②	産業技術論②	質的調査論②	社会学史②	社会学理論②	社会保障政策②						
				情報リテラシーⅠ②	社会経済学②	社会心理学②	社会調査情報処理②	社会調査論②	社会統計学②	地域社会論②	ソーシャルデザイン入門②	国際社会入門②	異文化理解フィールドワーク②							
				基礎演習Ⅰ②	基礎演習Ⅱ②	プロジェクトスタディⅠA②		プロジェクトスタディⅡA②												
				専門特殊講義Ⅰ②④		専門特殊講義Ⅱ②④		企画研究②	専門特殊講義Ⅲ②④											
				Global Project-Based Learning②		Area StudyⅡ④	Global Study④													
		専門導入科目から6単位以上、専門展開科目から36単位以上	専攻専門科目	ベーシックスキル科目			社会学の基礎②	政治学②	日本史Ⅰ②	日本史Ⅱ②	外国史Ⅰ②	外国史Ⅱ②	地誌学②	哲学②	倫理学②					
				現代社会専攻	専門導入科目				専門展開科目											
					現代と社会②	産業社会学②	都市論②			ゼミナールⅠ②	ゼミナールⅡ②	ゼミナールⅢ②	ゼミナールⅣ②							
						多文化共生論②		社会文化論②	現代社会専門特殊講義②④	アジア文化論②	エスニシティ論②	NPO・NGO論②	家族社会学②	環境社会学②	環境経済学②	環境形成論②	環境論②	企業社会学②		
						メディア社会専攻	専門導入科目				専門展開科目									
				現代とメディア②	現代メディア史②		メディア社会論②			ゼミナールⅠ②	ゼミナールⅡ②	ゼミナールⅢ②	ゼミナールⅣ②							
					メディア技術史②		メディア文化論②	メディア社会専門特殊講義②④	映画と社会②	映像表現論②	音声メディア論②	活字メディア論②	観光文化論②	グローバルメディア論②	広告文化論②	広告論②	国際ジャーナリズム論②			
					スポーツ社会専攻		専門導入科目				専門展開科目									
				現代とスポーツ②		スポーツ史②	スポーツ社会学②			ゼミナールⅠ②	ゼミナールⅡ②	ゼミナールⅢ②	ゼミナールⅣ②							
						ウエルネス論②		スポーツ文化論②	スポーツ社会専門特殊講義②④	衛生学②	学校保健②	グローバルスポーツ論②	現代余暇論②	子どもとスポーツ②	障害者とスポーツ②	身体表現論②	スポーツ規範論②	スポーツ行政論②		
						人間福祉専攻	専門導入科目				専門展開科目									
				現代と福祉②	社会福祉概論②		地域福祉論②			ゼミナールⅠ②	ゼミナールⅡ②	ゼミナールⅢ②	ゼミナールⅣ②							
					人間発達論②		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ②	人間福祉専門特殊講義②④	医学一般②	医療福祉論②	NPO・NGO論②	福祉労働論②	家族関係論②	権利擁護と成年後見②	公的扶助論②	国際福祉社会学②	国際保健医療政策研究②			
					(要卒外)															
								ソーシャルワーク演習②												
				ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ④																
				ソーシャルワーク実習指導Ⅰ②																
				ソーシャルワーク実習Ⅰ①																
発展科目	キャリア形成科目・探究科目	キャリア形成特殊講義②	理科探究A②	理科探究B②	数学探究②															
	産業社会学部英語副専攻					Study Abroad Program④	Academic Writing1②	Academic Writing2②	Academic Reading & Discussion 1②	Academic Reading & Discussion 2②	Academic Presentation 1②	Academic Presentation 2②								
	グローバルスタディプログラム *3					グローバル社会学②	Reading & Discussion 1①	Reading & Discussion 2①	English in the Media 1①	English in Film 1①	English in the Media 2①	English in Film 2①	*3 プログラムの科目は発展科目ではありません。詳細はプログラムの紹介ページを参照してください。							
	ソーシャルデザインプログラム *4					ソーシャルデザイン・スタディーズ入門②	ソーシャルデザイン・スタディーズ実践②	*4 プログラムの科目は発展科目ではありません。詳細はプログラムの紹介ページを参照してください。												
	全学副専攻 (16単位以上20単位まで要卒算入)					(科目省略)														
	社会調査士に関する科目			社会調査士Ⅰ②			社会調査士Ⅱ②	社会調査士Ⅲ②												
	教職発展科目(6単位まで要卒算入)									(教)中等社会系授業発展演習②	(教)保健体育科授業発展演習②	(教)教育制度論②	(教)児童・生徒理解の心理学②	(教)道徳授業発展演習②	(教)教育相談の実践②					
	情報リテラシー			情報リテラシーⅡ②					(教)学校インターンシップⅠ②	(教)学校インターンシップⅡ③	(教)学校インターンシップⅢ④	(教)国際理解教育論②	(教)学校文化論②	(教)人間と差別的教育論②	(教)学級担任論②					
	他専攻受講科目					(科目省略)														
	他学部受講科目 (20単位まで要卒算入)					(科目省略)														
特別支援教育に関する科目 (要卒外)					(教)知的障害者の心理・生理・病理②		(教)肢体不自由者の心理・生理・病理②	(教)病弱者の心理・生理・病理②	(教)知的障害教育②	(教)知的障害教育課程論Ⅰ②	(教)知的障害教育課程論Ⅱ②	(教)特別支援教育実習(事前・事後指導を含む)③								

*〇内は単位数 *下線の付いている科目は複数の専攻に開講している専門展開科目
※この表では配当回生を正確に表現していない部分がありますので必ずP.16〜で確認してください。

カリキュラム表 <子ども社会専攻>

科目分野 卒業要件単位数(最低必要単位数)			1回生		2回生		3回生		4回生									
			第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター	
20単位以上	教養科目	立命館科目	日本の近現代と立命館②															

*〇内は単位数 *下線の付いている科目は複数の専攻に開講している専門展開科目
※この表では配当回生を正確に表現していない部分がありますので必ずP.16〜で確認してください。

Ⅱ．産業社会学部での履修

5. 教養科目

5. 教養科目

1. 本学の教養教育の理念および目標

本学の教養教育は、総合大学の特長を活かして、専門教育と往還しながら自らの専門性を相対化し、物事を総合的に捉える視野を身につけ、人生の指針となる知性と知恵、価値観、考え方を涵養し、主体的かつ自律的な思考や行動、ならびに他者との対話や協働ができる力の育成を目指しています。

この理念のもと、3つの目標を掲げています。

< 教養教育の目標 >

【目標Ⅰ】 知識・理解	学部固有の専門教育とは異なる知的体系や方法論による学習によって、自らの専門性を相対化し考察する能力の習得を目指す。
【目標Ⅱ】 思考・判断・意識	豊かな教養と深い洞察力の獲得によって、人生の指針となる知性と知恵、価値観、考え方の涵養を目指す。
【目標Ⅲ】 態度・行動	他者と実践をともにする中で多様な価値観を踏まえて主体的に学習する姿勢を身につけ、現代社会を切り拓く力の育成を目指す。

2. 教養教育の到達目標とカリキュラム・マップについて

1. で掲げた3つの目標に対応する、より具体的な到達目標を定めています。各科目がどの到達目標と合致しているかを示したのがカリキュラム・マップです。バランスよく履修できるようにカリキュラム・マップを活用してください(6. 教養科目一覧およびカリキュラム・マップを参照)。

< 教養教育の目標および到達目標 >

目標	到達目標
【目標Ⅰ】 知識・理解	【Ⅰ-a】 知識 幅広い知識を習得し、自らの専門や日常生活に活用できる
	【Ⅰ-b】 科学的考察力 科学的方法論に基づき、事象を考えることができる
	【Ⅰ-c】 総合的解釈力 物事を総合的に考えることができる
【目標Ⅱ】 思考・判断・意識	【Ⅱ-d】 洞察力 論理的・批判的に事象を洞察することができる
	【Ⅱ-e】 指針の確立 倫理観・正義感を持ち、多様な選択肢から適切な意思決定を行うことができる
	【Ⅱ-f】 創造性 既成の概念に抛らず、創造的に考えることができる
【目標Ⅲ】 態度・行動	【Ⅲ-g】 多様性・国際性 多様な価値観が異なる意味、対立する意味を考えることができる
	【Ⅲ-h】 自己表現力 問題を発見し、その解決に向けて自分の考えを他者へ伝えることができる
	【Ⅲ-i】 共創する力 他者やコミュニティへ関心を持ち、能動的で責任ある行動を取ることができる

3. 教養科目の群・分野構成と卒業に必要な単位数

科目	群	分野、科目区分など	卒業に必要な単位数
教養科目	立命館科目	—	20 単位以上
	教養基盤科目 (A 群)	第 1 分野 思想と人間	
		第 2 分野 現代と文化	
		第 3 分野 芸術と創造	
		第 4 分野 社会・経済と統治	
		第 5 分野 世界の史的構成	
		第 6 分野 自然・科学と人類	
		第 7 分野 数理と情報	
	国際教養科目 (B 群)	国際教養科目区分	
		異文化交流科目区分	
		海外留学科目区分	
	社会で学ぶ自己形成科目 (C 群)	キャリア教育科目	
		サービスラーニング科目	
	スポーツ・健康科目 (D 群)	—	
	学際総合科目 (E 群)	—	

4. 各科目群の概要

(1) 立命館科目

立命館科目は、学生自らが立命館大学で学ぶ意義を理解し、未来を描き、未来を創る人間への成長に向けて、その礎を築くための科目群です。大学における学びのスタイルを身につけ、高校までの学習観の「転換」を図り、自らの専門性を発展させる学びの展開と選択ができるようになるために、入学後早い段階（おおむね第 3 セメスターまで）で 1 科目以上履修することが望ましいです。

13 の科目から構成される立命館科目は、次の 3 つの特徴をもって構成されています。

第 1 に、立命館大学が経験してきた学問の自由と大学の自治の歴史、社会問題への向き合い方、大学創造の歴史の学びを通して、大学とは何かについて考える自校史科目、教学理念である「平和と民主主義」とこれらを支えるために必要な「人権」について学ぶ科目を置いています。

第 2 に、立命館大学の学生として必要な現代社会を生きる知恵を磨きます。地球市民の大前提となるシチズンシップを身につける必要があります。それを基礎にして、現代が直面する科学・技術・安全等の課題を見極める力、歴史的な視野で世界を俯瞰する力、多様化するメディア環境を批判的にみつめ活用する力、ビッグデータを実践的に扱い理解する力を身につけ、現代社会を生きる羅針盤となる知性を育みます。

第 3 に、自らの人生を切り拓く修養の場としての立命館で、知識を他者との出会いや対話のなかで自分のものにすることができるよう、自律と協働の力を養います。人々のいのち・生活・尊厳を脅かすものとそれを克服しようとする人々に学ぶフィールドスタディ、学生相互の学びあいとしてのピア・サポートの実践と理論を通して他者とともに社会のなかで学ぶ力を身につけるアクティブラーニングを重視しています。

(2) 教養基盤科目 (A 群)

学問や社会生活を営む上で必然とされる文化・芸術に関する幅広い知識を通して得られる理解力、洞察力及び創造的活力の獲得を目的とした分野別基盤科目群です。人類が培ってきた知的体系や先端知識、現代的諸課題を多様な視点から学び、芸術における創造力、社会に対する問題意識や問題解決のための発想力の涵養を目指します。

教養基盤科目 (A 群) は、「思想と人間」「現代と文化」「芸術と創造」「社会・経済と統治」「世界の史的構成」「自然・科学と人類」「数理と情報」の 7 つの分野から成り立っています。

第 1 分野 思想と人間	哲学や倫理学は、古代ギリシャの時代からそれぞれの時代ごとに論議の主要課題を変えつつ考察され、深められてきました。この分野では、社会思想史の成果を踏まえながら、人間存在がどのように考えられてきたかということについて哲学および倫理的に考察します。さらに単に哲学史などの学問の歴史を学ぶだけではなく、21 世紀を生きる者に求められる哲学と倫理についての考察を促し、それらの課題や問題に関し主体的に思考します。また、現代社会が抱える宗教や心の問題についても、世界的な視野から多面的に考察します。
第 2 分野 現代と文化	人間を政治、経済、社会、文化の 4 側面から捉えたとき、文化的な観点から見ることの重要性から、この分野では、現代日本の特徴を世界の中に位置付けながら、社会および文化的存在としての人間を考察します。また、社会問題に対する考察を含みつつ、主に文化的存在としての人間について考察します。
第 3 分野 芸術と創造	人間の文化的活動の中には芸術が大きな役割を果たしています。表現芸術には絵画、音楽、演劇、文学、映像などがありますが、この分野では、人間の多様な表現能力や芸術理論についても考察します。芸術に関する広い知識や鑑賞力は、想像力の問題を喚起します。さらに異文化理解に役立ち、グローバル社会において、文化、芸術の総合的理解をもとにした思考力、創造力、感性を高めることが求められます。日本文化の深い理解にも資するような分野です。
第 4 分野 社会・経済と統治	この分野は、経済社会の維持とその発展を促してきた諸学問分野を中心とし、それに関連する科目を幅広く包含します。現代社会は、政治と経済の関係だけでなく、社会システム全体が変化しています。世界のボーダレス化はいっそう進展しており、今や世界のどの国や地域も政治経済上の再編の枠外に留まることはできない事態となっています。そのため、これまでの日本社会の在り様を法律、政治、経済、経営等の多面的な側面から検討する必要性が生じ、また、国際社会における地域主義の台頭などによって、国家統治の基礎となってきた法律や諸制度も変化しています。そうした社会構造を解明します。
第 5 分野 世界の史的構成	現代社会を理解する際の基礎的方法のひとつは、世界を歴史的に把握することです。この分野は、社会科学的な発想を基調としつつ人文科学の見方も包含して、社会を歴史的な観点から考察します。この分野では、分野全体の基礎概念等を説明する科目によって、歴史を見る際の見方と、世界を地域の観点から眺める際の見方を学習します。そして、それを基に世界を大きく 5 地域（日本、日本を除くアジア、ヨーロッパ、アメリカ、そしてイスラーム圏）に区分して、それぞれの主要課題を考察します。さらに、こうした理解に加えて本学に入学した学生諸君が身近な視点から歴史的存在としての自己の認識を深めることができるような科目を配置しています。
第 6 分野 自然・科学と人類	この分野は、主に自然科学および科学技術に関する諸分野を対象とし、その歴史や到達点を学ぶとともに、現在および今後の課題について分析・考察する力を養うことを目標とします。現代社会においては、自然科学や科学技術が及ぼす影響は極めて大きくなっており、科学技術と社会の関わりに関心を持つことは不可欠です。とくに宇宙科学、地球科学、生命科学など最先端の科学技術や環境空間、生命倫理などを理解し、自然・科学分野での思考の方法と方向性を養います。問題への関心の強さと学ぶ意欲が求められます。
第 7 分野 数理と情報	この分野は、主に数理的なものの見方と考え方の涵養をはかりつつ、合わせて情報関連科学に注目します。数理の世界について学ぶことは、どのような分野を専門的に学習する際にも必要である、論理的で合理的な思考方法を身に付けることにつながります。ここで重要なのは、例えば代数学を学ぶ際には方程式の解法を学習するのではなく、方程式という数理世界の思考方法の特徴を学習することによって現象を論理的に把握することを学ぶことです。代数学、幾何学、解析学など数理の世界は多様ですが、ここではその歴史的発展の経緯、数理的思考法の特徴とその応用などを学習します。さらに、数理の世界の応用として、情報理論とコンピュータ、および情報科学についての、広範な学習を学生に期待します。情報科学の進展は、多様な回路から社会に大きな影響を及ぼしつつありますが、情報技術と社会の諸活動との連関にまで考察の範囲を広げます。

(3) 国際教養科目 (B 群)

グローバル化社会において必要となる異文化の相互理解の基礎となる科目群です。英語など日本語以外を授業言語とし、人文・社会・自然科学の基礎的学びを通じた幅広い教養とコミュニケーション能力を涵養し、確かな人間観・世界観の構築を目指す科目や、留学を視野に入れた学生のための科目など、外国語運用能力を活用し異文化理解を実践する科目で構成されます。

国際教養科目 (B 群) は、「国際教養科目区分」「異文化交流科目区分」「海外留学科目区分」の3つの科目区分から成り立っています。

国際教養科目区分	人文・社会・自然科学などについて、英語など日本語以外を授業言語として学ぶ講義科目および演習科目を配置しています。もしくは初修外国語で学ぶ講義形式の科目を配置しています。「Liberal Arts Seminar」は、テーマに基づき、グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に取り入れた20～35人規模の小集団授業で、学部や回生、文化的な背景の異なる学生同士の学びあいを重視しています。
異文化交流科目区分	文化や歴史など多様な異文化背景を持った学生同士のコミュニケーションを通じて、国際的な感覚を涵養する科目を配置しています。母語と外国語の視点からのコミュニケーションや価値観の違いを通じて、異文化間コミュニケーションや他者理解を学ぶ科目「Cross-cultural Encounters 1」「Cross-cultural Encounters 2」や、グローバルなキャリア形成につながるテーマ設定のもとグループワーク等を通じて学びあい異文化理解を促進する科目「Cross-cultural Seminar」などがあります。
海外留学科目区分	主に、半年から1年程度の海外留学を目指す学生や留学が決定した学生を対象として、海外の大学での学びに必要な学習スキルを学ぶ留学準備科目を配置しています。語学の4技能(読む・聞く・書く・話す)を総合的に用いて留学リテラシーを集中的に学ぶ「Academic Skills 1」「Academic Skills 2」のほか、海外派遣プログラム単位授与科目があります。

(4) 社会で学ぶ自己形成科目 (C 群)

実社会(企業・公益団体・地域社会等)との連携・協働・相互理解を通して、現代社会を生きる上で求められる市民としての倫理観・正義感・責任感の必要性を理解するとともに、問題発見や創造的課題解決を行う能力を身につける科目群です。この科目群では、実社会の人々や受講生同士との対話や協働を通じて学ぶ「アクティブラーニング」の形式がとられ、特徴の異なる「キャリア教育科目」と「サービ斯拉ーニング科目」に分けられています。

キャリア教育科目	キャリア教育科目では、「自らの学びを活かして、どのように社会や世界と関るか」を深く省察することにより、自らの将来を構想していきます。学部や専門領域が異なる学生が一つのクラスに集う「多様性」を活かし、全ての科目で受講生同士のグループワークを実施しています。また、多くの産業界の方々からの講演や学生の発表に対するコメントなどを通じて、大学での学びの意義を社会との関りの中で考え、社会に出るまでに学ぶべきことに気づく機会を提供しています。 1 回生春 semester から学生のキャリア発達段階に応じた科目が配置されているので、初年次から系統的に履修することが望めます。
サービ斯拉ーニング科目	主に NPO・NGO や地域の市民団体、行政機関と共働して、まちづくり・伝統文化・地域福祉・環境保護・地域防災・災害復興などの身近な社会の課題や問題を地域の人々と一緒に考え、汗を流し、解決していくことを通じてシチズンシップを学ぶ科目です。この学び方の手法を「サービ斯拉ーニング」といいます。地域の人々の生活リズムに寄り添いながら授業を行うため、時間割以外の活動期間があります。主体的に取り組み、新たな視野を得るきっかけとしてください。

(5) スポーツ・健康科目 (D 群)

スポーツに親しみ健康に関する意識を高めることは、若者の人間形成と健康づくりに重大な役割を果たします。この認識のもとに、スポーツ実践そのものを学びの対象とする実技科目と、スポーツを題材としたスポーツの歴史、スポーツの現代社会との関り、スポーツの科学的な研究ならびに健康づくりを題材としたヘルスケア、地域コミュニケーションをテーマとする講義科目によって構成される科目群です。特に実習については、学部・回生を超えた組織・集団づくりを通じて、スポーツ技術やその知識、分析能力の習得のみならず集団に関する幅広い知識と分析能力の涵養を目指しています。

5. 教養科目における 各科目の位置付け について

(6) 学際総合科目 (E 群)

現代社会に必要な課題をテーマとし、学際的・総合的な知の構築を目指し、とりわけ学生の主体的な授業参加を重視する科目群です。既存の学問分野を超えた、また各分野にまたがるテーマで、講義だけでなくグループ学習などを取り入れた多様な授業方法で展開する参加型の授業を目指しています。小集団での調査・研究・討議・発表などを通じて学生が主体となって学びあうことを目指す「教養ゼミナール」、異なるバックグラウンドを持つ学生同士の協働学習を通じて他文化・多文化についての理解を深める「異文化間テーマ演習」、3 回生以上を対象とする「超領域リベラルアーツ」から成り立っています。

配当回生に基づき、教養科目を「導入」「形成」「先端」に位置付けています(6. 教養科目一覧およびカリキュラム・マップを参照)。履修計画を立てる際に参考にしてください。

導入	低回生に受講を強く推奨する科目です。配当回生は、1 回生のみ、もしくは、1・2 回生とし、3 回生以上の履修は認めませんので、注意してください。具体的には以下の科目です。 1 回生のみ：「社会と学ぶ課題解決」 1・2 回生：「日本の近現代と立命館」「ピア・サポート論」「メディアと図書館」 「学びとキャリア」「国の行政組織」「Cross-cultural Encounters 1」 「地域参加学習入門」「現代社会とボランティア」
形成	教養教育の多様性を実現する科目です。「導入」「先端」以外の科目は全て「形成」です。配当回生は 1 回生以上、もしくは、2 回生以上です（一部例外あり）。
先端	学部での専門教育を経た 3 回生以上を対象とする科目です。 具体的には、人類が直面する課題に対し、学問分野の枠にとらわれず、分野の壁を越えた先進的・学際的・学融合的アプローチを行う科目「超領域リベラルアーツ」のみです。

6. 教養科目一覧およびカリキュラム・マップ

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに○、あてはまるものに◎）									備考
							Ⅰ・a 知識	Ⅰ・b 科学的考察力	Ⅰ・c 総合的解釈力	Ⅱ・d 洞察力	Ⅱ・e 指針の確立	Ⅱ・f 創造性	Ⅲ・g 多様性・国際性	Ⅲ・h 自己表現力	Ⅲ・i 共創する力	
立命館科目		日本の近現代と立命館	2	講義	1・2	導入	◎	○	○	◎			○			
		ピア・サポート論	2	講義	1・2	導入			○		○		○	○	◎	
		ジェンダーとダイバーシティ	2	講義	1以上	形成	○	○	○		○	○	◎		○	
		市民と政治	2	講義	1以上	形成	○	○	○		◎					
		日本国憲法	2	講義	1以上	形成	○			○	◎					
		災害と安全	2	講義	1以上	形成	◎	◎	◎	○	○	○	○			
		歴史観の形成	2	講義	1以上	形成		◎	○	○	○		○	○		
		科学・技術と社会	2	講義	1以上	形成	○	◎	○	◎		○	◎	○		
		実践データ科学	2	講義	1以上	形成	○	◎	◎	○				○	◎	
		現代平和論	2	講義	1以上	形成	○		○	○	◎		○		○	
		戦争の歴史と思想	2	講義	1以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	◎	○		
		平和人権フィールドスタディ	2	演習	2以上	形成		○	○	◎	○		◎		○	
教養基盤科目（A群）	第1分野 思想と人間	哲学と人間	2	講義	1以上	形成	◎		○	○		○	○	○		
		人間性と倫理	2	講義	1以上	形成	◎		○	○	○		○			
		論理と思考	2	講義	1以上	形成		◎	○		○			◎		
		社会思想史	2	講義	1以上	形成	◎	○	◎	○	◎	○	○			
		科学技術と倫理	2	講義	1以上	形成	○	○	○	○	◎		○	◎		
		宗教と社会	2	講義	1以上	形成	◎		○	○			○		○	
		メンタルヘルス	2	講義	1以上	形成	◎	○	◎	○						
		（留）日本の文化・地理・歴史	2	講義	1以上	形成	◎		○	○			◎			
	第2分野 現代と文化	メディアと図書館	2	講義	1・2	導入	◎		○	○			○		○	
		文化人類学入門	2	講義	1以上	形成	○	○	◎	◎			◎			
		文学と社会	2	講義	1以上	形成	◎		◎	○		◎		○		
		現代の教育	2	講義	1以上	形成	◎		○	○	○					
		世界の言語と文化	2	講義	1以上	形成	◎		○	○			◎			
		世界と日本の食文化	2	講義	1以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	◎			
		観光学	2	講義	1以上	形成	○	○	○	◎			○	○	○	
		京都学	2	講義	1以上	形成	○		◎				○			
		（留）日本語学	2	講義	2以上	形成	○	◎								
	第3分野 芸術と創造	美と芸術の論理	2	講義	1以上	形成	○		◎	◎			○			
		音楽原論	2	講義	1以上	形成	○	◎	◎	○						
		映像と表現	2	講義	1以上	形成	◎					○				
		映像メディア実践入門	2	講義	1以上	形成						○		○	◎	
		文芸創作論	2	講義	1以上	形成	○					◎	○	◎	○	

5. 教養科目

Ⅰ. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

Ⅱ. 産業社会学部での履修

Ⅲ. ゼミナール・卒業研究

Ⅳ. 産業社会学部の特色ある学び

Ⅴ. 学部横断プログラム

Ⅵ. 資格取得・キャリア形成

Ⅶ. 正課学修の援助制度

Ⅷ. ハラスメントの防止

Ⅸ. カリキュラム

群	分野、 科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに◎、あてはまるものに○）										備考
							Ⅰ・a	Ⅰ・b	Ⅰ・c	Ⅱ・d	Ⅱ・e	Ⅱ・f	Ⅲ・g	Ⅲ・h	Ⅲ・i		
							知識	科学的考察力	総合的解釈力	洞察力	指針の確立	創造性	多様性・国際性	自己表現力	共創する力		
教養基盤科目（A群）	第4分野 社会・経済と統治	国の行政組織	2	講義	1・2	導入	○		◎						○		
		現代社会と法	2	講義	1以上	形成	○		○		◎						
		経済と社会	2	講義	1以上	形成	◎	◎	◎	○		○	○				
		企業と社会	2	講義	1以上	形成			◎				○		○		
		現代の国際関係と日本	2	講義	1以上	形成	○		○	○			◎		○		
		日本経済概説	2	講義	1以上	形成	◎	◎	◎	○	○	○	○	○			
		現代の世界経済	2	講義	1以上	形成	◎	◎	◎	○	○	○	○	○			
		現代の経営	2	講義	1以上	形成		○	◎	○							
		ソーシャルデザイン論	2	講義	1以上	形成	○	○	◎	○		○	◎		○		
		（留）日本の社会・政治	2	講義	1以上	形成	◎		○		○		○		○		
		（留）日本の経済・経営	2	講義	1以上	形成	◎	◎	◎	○		○	○	○			
	第5分野 世界の史的構成	エリアスタディ入門	2	講義	1以上	形成	○	○	◎	○			○				
		新しい日本史像	2	講義	1以上	形成	○	◎	○	○			○	○			
		中国の国家と社会	2	講義	1以上	形成	○	○	○	○			◎				
		東アジアと朝鮮半島	2	講義	1以上	形成	○		○	○			◎		○		
		ヨーロッパの歴史	2	講義	1以上	形成	◎		○	○	○	○	◎				
		アメリカの社会と文化	2	講義	1以上	形成	◎		○	○	○	○	◎				
		イスラーム世界の多様性	2	講義	1以上	形成	○		○	○			◎		○		
	第6分野 自然・科学と人類	科学的な見方・考え方	2	講義	1以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	○				
		宇宙科学	2	講義	1以上	形成	◎	◎				○					
		地球科学	2	講義	1以上	形成	◎	◎				○					
		生命科学（分子と生命）	2	講義	1以上	形成	◎	○									
		生命科学（生物と生態系）	2	講義	1以上	形成	○	◎	○								
		材料と化学	2	講義	1以上	形成	○	◎	○								
		現代環境論	2	講義	1以上	形成	◎	◎	◎	○	○						
		科学と技術の歴史	2	講義	1以上	形成	○	◎	○	○				○			
		生命科学と倫理	2	講義	1以上	形成	◎	○	○				○				
		近現代の科学技術	2	講義	1以上	形成	◎	◎		○	◎	○	○				
		（留）日本の自然・科学技術	2	講義	1以上	形成	○	◎			○	○	◎				
	第7分野 数理と情報	数理の世界	2	講義	1以上	形成	◎	◎	○	○	○	◎					
		情報の数理	2	講義	1以上	形成	◎	◎	○	○	○	◎					
		情報科学	2	講義	1以上	形成	◎	◎	○	○	○	○					
		情報技術と社会	2	講義	1以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	○		○		
		データサイエンス・AI基礎	2	講義	1以上	形成	◎	◎	○	○	○	○		○	○		
		データエンジニアリング基礎	2	講義	1以上	形成	◎	◎	○	○	○	○		○	○		
国際教養科目（B群）	国際教養科目区分	Liberal Arts Seminar	2	演習	1以上	形成			○				◎	○			
		Introduction to Law	2	講義	1以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○		
		Modern World History	2	講義	1以上	形成	○		○	○	○		◎		○		
		Japan and the West	2	講義	1以上	形成	○		○	○	○		◎		○		
		Introduction to Economics	2	講義	1以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	◎	○			
		Kyoto and the Japanese Arts	2	講義	1以上	形成	○		○	○			◎		○		
		Special Lecture	2	講義	1以上	形成	○		○	○			◎		○		

群	分野、 科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに◎、あてはまるものに○）										備考
							Ⅰ・a	Ⅰ・b	Ⅰ・c	Ⅱ・d	Ⅱ・e	Ⅱ・f	Ⅲ・g	Ⅲ・h	Ⅲ・i		
							知識	科学的考察力	総合的解釈力	洞察力	指針の確立	創造性	多様性・国際性	自己表現力	共創する力		
国際教養科目（B群）	国際教養科目区分	Introduction to Linguistics	2	講義	1 以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○		
		Introduction to Anthropology	2	講義	1 以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○		
		Introduction to Natural Science	2	講義	1 以上	形成	○	◎	○	○	○		○				
		Introduction to Humanities	2	講義	1 以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○		
		Introduction to the United Nations	2	講義	1 以上	形成	○		○	○			◎		○		
		Introduction to Peace Studies	2	講義	1 以上	形成	○		○	○	◎		○		○		
		Introduction to Gender Studies	2	講義	1 以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○		
		Introduction to Computational Linguistics	2	講義	1 以上	形成	◎	○	◎	○			◎				
		History of Computing	2	講義	1 以上	形成	◎	◎	○	○			○				
		Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	2	講義	1 以上	形成	◎	◎	○	○			○				
		Understanding Language	2	講義	1 以上	形成	◎	○	○	○			◎				
		Computers in Education	2	講義	1 以上	形成	◎	○	○	○			◎				
		Language in Politics	2	講義	1 以上	形成	◎	○	○	○			◎				
		Introductory Course to Climate Change and Global Warming	2	講義	1 以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	◎	○			
		Introductory Course to International Project Development	2	講義	1 以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	◎	○			
		Understanding Visual Culture	2	講義	1 以上	形成	◎		○				○				
		Introduction to Food Culture	2	講義	1 以上	形成	○	○	○	○		○	◎	◎	◎		
		Cross Border Policy Issues	2	演習	1 以上	形成	○		○		○	○	◎	◎	◎		
		Playing with Playfulness	2	講義	1 以上	形成	○		○			○	◎	○	◎		
		Introduction to Global Justice	2	講義	1 以上	形成	○	◎	○		○		◎		○		
		Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	2	講義	1 以上	形成	○	◎	○		○	○	◎		◎		
	異文化交流科目区分	Cross-cultural Encounters 1	2	演習	1・2	導入				○		○	○	◎	◎	◎	
		Cross-cultural Encounters 2	2	演習	1 以上	形成				○		○	○	◎	◎	◎	
		Cross-cultural Studies	2	講義	1 以上	形成	○					◎	◎		◎		
		Cross-cultural Seminar	2	演習	1 以上	形成	○					◎	◎		◎		
		Non-verbal Communication	2	講義	1 以上	形成	○		○	○		○	◎	○	◎		

Ⅰ. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

Ⅱ. 産業社会学部での履修

Ⅲ. ゼミナール・卒業研究

Ⅳ. 産業社会学部の特色ある学び

Ⅴ. 学部横断プログラム

Ⅵ. 資格取得・キャリア形成

Ⅶ. 正課学修の援助制度

Ⅷ. ハラスメントの防止

Ⅷ. カリキュラム

5. 教養科目

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに◎、あてはまるものに○）									備考
							Ⅰ・a	Ⅰ・b	Ⅰ・c	Ⅱ・d	Ⅱ・e	Ⅱ・f	Ⅲ・g	Ⅲ・h	Ⅲ・i	
							知識	科学的考察力	総合的解釈力	洞察力	指針の確立	創造性	多様性・国際性	自己表現力	共創する力	
国際教養科目（B群）	海外留学科目区分	Academic Skills 1	2	演習	1以上	形成						○	◎	○		
		Academic Skills 2	2	演習	1以上	形成						○	◎	○		
		グローバル社会の体験と理解	2	実習・講義	1以上	形成							◎			重複受講可 （海外派遣プログラム 単位授与科目）
		Intensive Language Workshop	2	講義	1以上	形成	○						◎	○		重複受講可 （海外派遣プログラム 単位授与科目）
		Language for Academic Communication	2	講義	1以上	形成	○						◎	○	○	重複受講可 （海外派遣プログラム 単位授与科目）
		Area Study I	2	講義	1以上	形成	○		○				◎			重複受講可 （海外派遣プログラム 単位授与科目）
		Academic Communication (Online Learning)	2	講義	1以上	形成	○						◎	○	○	重複受講可 （海外派遣プログラム 単位授与科目）
		Area Study (Online Learning)	2	講義	1以上	形成	○		○			○	◎			重複受講可 （海外派遣プログラム 単位授与科目）
社会で学ぶ自己形成科目（C群）	キャリア教育科目	社会と学ぶ課題解決	2	演習	1のみ	導入				◎		○	○	◎	◎	
		学びとキャリア	2	講義	1・2	導入			◎	○			◎	◎	○	
		仕事とキャリア	2	講義	2以上	形成			◎	○			◎	◎	○	
		コーオプ演習（理論）	2	講義	2以上	形成			◎	○			○	◎	◎	
		コーオプ演習（実践）	2	演習	2以上	形成				◎		○	○	◎	◎	
	サービス・ラーニング科目	地域参加学習入門	2	講義	1・2	導入	○	○	○		◎	○	◎	○	○	
		現代社会とボランティア	2	講義	1・2	導入	○	○	○		◎	○	◎	◎	○	
		現代社会のフィールドワーク	2	講義	1以上	形成	○	○	○		◎	○	○	◎	◎	
		シチズンシップ・スタディーズ	2	演習	2以上	形成		○	○	○	◎	○	◎	○	◎	
スポーツ・健康科目（D群）		スポーツの歴史と発展	2	講義	1以上	形成	◎	◎	○	○			○			
		スポーツと現代社会	2	講義	1以上	形成	◎	◎	◎	○			○			
		スポーツのサイエンス	2	講義	1以上	形成	○	◎								
		現代人とヘルスケア	2	講義	1以上	形成	◎	○								
		スポーツ方法実習Ⅰ	1	実技	1以上	形成	○	○			○			◎	◎	
		スポーツ方法実習Ⅱ	1	実技	1以上	形成	○	○			○			◎	◎	

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに◎、あてはまるものに○）									備考
							【Ⅰ・a】知識	【Ⅰ・b】科学的考察力	【Ⅰ・c】総合的解釈力	【Ⅱ・d】洞察力	【Ⅱ・e】指針の確立	【Ⅱ・f】創造性	【Ⅲ・g】多様性・国際性	【Ⅲ・h】自己表現力	【Ⅲ・i】共創する力	
学際総合科目 (E群)	教養ゼミナール		2	演習	1以上	形成			○	○	○	○	◎	◎	◎	
	異文化間テーマ演習		2	演習	1以上	形成				○			◎	○		
	超領域リベラルアーツ		2	講義	3以上	先端	○	◎	◎	◎		○	○	○	○	
	単位互換科目		1・2 または4	講義	1以上											重複受講可

(注意事項)

- 科目名に「(留)」とある科目は、日本に対する理解を様々な角度・視点から深めることを目的とした「日本事情等に関する科目」で正規留学生・短期留学生のみが受講できます。
- 国際教養科目（B群）は科目ごともしくは授業ごとに、4段階の「Stage」を設定しています。「Stage」とは、授業で前提とする言語レベルや国際交流の関り度合いのことです。受講にあたっては「Stage」に相当する語学力を身につけていることが必要です。「Stage」はシラバスで確認してください。なお、初修外国語開講のクラスは、各言語の検定4級以上相当の語学力が必要です。

< 英語開講の授業における言語レベル >

Stage	TOEIC® LISTENING AND READING テスト	TOEFL ITP® テスト	TOEFL iBT® テスト	IELTS
Stage1	380 未満	400 未満	32 未満	4.5 未満
Stage2	380~580	400~480	32~55	4.5~5.0
Stage3	580~630	480~530	55~71	5.0 以上
Stage4	630 以上	530 以上	71 以上	5.5 以上

*TOEIC® および TOEFL® は Educational Testing Service(ETS) の登録商標です。

- 海外留学科目区分のうち、海外派遣プログラムについては、各プログラムの募集要項で詳細を確認してください。

7. データサイエンス +Rプログラムについて

本学の教養教育では、“デジタル社会の基礎知識”である数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を修得できる教育プログラム「データサイエンス +R プログラム」があります。

プログラムは数理・データサイエンス・AIを活用するための基礎的な知識・スキルを修得する「基礎」と、自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得する「応用基礎」の2種類で構成されており、要件を満たすと履修証明書が発行されます。

デジタル社会が進展するなかで、データサイエンスやAIに関する知識は、従来の「読み・書き・そろばん」的な素養として位置づけられ、在学中に履修、修得することが望ましいです。

(1) データサイエンス +R プログラム（基礎）

対象科目	配当回生	単位
情報技術と社会	1 回生以上	2 単位

(2) データサイエンス +R プログラム (応用基礎)

対象科目	配当回生	単位
データサイエンス・AI 基礎	1 回生以上	2 単位
データエンジニアリング基礎	1 回生以上	2 単位

※上記 2 科目の単位取得により応用基礎に求められる知識・技能を修得することができます。

(3) データサイエンス +R プログラムの修了について

上記、データサイエンス +R プログラム (基礎) ならびにデータサイエンス +R プログラム (応用基礎) 双方の要件を満たした学生へは、その証として履修証明書 (オープンバッジ) が付与されます。オープンバッジについての詳細は以下の HP から確認してください。

教養科目の詳細は、「教養教育」ホームページで確認してください。

• 右の QR コードから、アクセスできます。



• manaba+R からは、

「産業社会学部生のページ」→「産業社会学部の履修」→「教養科目の履修」をクリック。

Ⅱ．産業社会学部での履修

6．外国語科目

6. 外国語科目

1. 外国語カリキュラムの概要

(1) 履修外国語

産業社会学部では、「英語」と「初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語のいずれか）」の2言語を履修します。留学生（外国人留学生入試で入学した学生）は、「英語」と「日本語」の2言語を履修します。

※英語を母語とする留学生については、英語以外の言語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語）から1つの言語を選択し履修すること。

(2) 履修方法

産業社会学部では、英語6単位、初修外国語（選択した1つの語種）6単位が卒業に必要な単位数です。留学生については、英語6単位、日本語6単位が卒業に必要な単位数です。

「初修外国語・既修者対応プログラム」を選択する場合は、手続きや履修方法が異なりますので注意してください（参照：P.30）。

<留学生以外の学生（英語6単位＋初修外国語6単位）>

回生	授業開講期間	英語（6単位）		初修外国語（6単位）	
1回生	春semester	英語1②	英語3①	〇〇語・基礎②	〇〇語・表現Ⅰ①
	秋semester	英語2②	英語4①	〇〇語・展開②	〇〇語・表現Ⅱ①

<留学生（日本語6単位＋英語6単位）>

回生	授業開講期間	日本語（6単位）	英語（6単位）	
1回生	春semester	(留)日本語Ⅶ（文章表現a）① (留)日本語Ⅶ（読解a）① (留)日本語Ⅶ（聴解口頭a）①	英語1②	英語3①
	秋semester	(留)日本語Ⅶ（文章表現b）① (留)日本語Ⅶ（読解b）① (留)日本語Ⅶ（聴解口頭b）①	英語2②	英語4①

※1 英語を母語とする留学生については、英語以外の言語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語）から1つの言語を選択し、6単位履修すること。

2. 英語の履修について

(1) クラス編成について

1 回生時の英語のクラス編成については入学前に実施される英語オンラインテストの結果により、下表のレベル別クラス編成を行います。

Advanced	レベル 5
Upper Intermediate	レベル 4
Intermediate	レベル 3
Lower-Intermediate	レベル 2
Pre-Intermediate	レベル 1

(2) 英語の単位回復について

英語科目の卒業要件単位数を修得できなかった場合、以下の「単位回復科目」を履修することにより、単位回復を行います。これらの科目は受講登録上限単位数に含まれます。単位回復科目の成績評価は合格の場合「C」、不合格の場合「F」となります。

科目名：「基本英語（単位回復）1～8」（各 1 単位）

履修方法：未修得単位数分の単位回復科目を履修します。重複履修（過去に履修・単位修得済科目を再度履修すること）はできません。

3. 初修外国語の履修について

(1) クラス編成について

初修外国語のクラス編成については入学手続き時に実施される希望調査に基づき、語種毎にクラス編成を行います。

(2) 初修外国語の単位回復について

初修外国語の卒業に必要な単位数を修得していない場合、以下の「単位回復科目」を履修することにより、単位回復を行います。これらの科目は受講登録上限単位数に含まれます。単位回復科目の成績評価は合格の場合「C」、不合格の場合「F」となります。各科目の詳細についてはシラバスを確認してください。

科目名：「基本〇〇語（表現）Ⅰ」「基本〇〇語（表現）Ⅱ」

「基本〇〇語（文化）Ⅰ」「基本〇〇語（文化）Ⅱ」

「基本〇〇語（社会）Ⅰ」「基本〇〇語（社会）Ⅱ」

「基本〇〇語（生活）Ⅰ」「基本〇〇語（生活）Ⅱ」（各 1 単位）

履修方法：未修得単位数分の単位回復科目を履修します。重複履修（過去に履修・単位修得済科目を再度履修すること）はできません。

4. 留学生の外国語履修について

(1) 日本語科目について

日本語を母語としない外国人留学生の皆さんが大学での学修に必要とされる高い日本語力を修得できるように、外国語科目として、日本語を履修できるようにしています。

日本語による講義を理解し、授業の中での議論に参加し、レポートを書くために必要とされる日本語力を身につけるために、必ず 1 回生の間に日本語科目を履修してください。

(2) クラス編成について

新入生は、1 回生で履修する日本語科目（「日本語Ⅶ」の 6 科目）がクラス指定されます。

(3) 再履修について

日本語科目で単位を修得できなかった場合は、次年度に修得できなかった科目を再度履修してください。

(4) 単位修得要件について

日本語科目では、単位修得の最低要件として授業への出席回数が定められています。詳細は、オンラインシラバスを確認してください。

5. 多様な外国語プログラム

初修外国語・既修者対応プログラム（衣笠）

（1）意義と目的

初修外国語・既修者対応プログラムは、高校の授業や海外生活などで既に初修外国語を学んだ人（既修者）が継続して学習できるよう設定しており、これまで培ってきた力を一層伸ばすことを目的としています。このプログラムを受講する学生は、通常の正課初修外国語の科目に代えて既修者対応プログラム用の科目を履修し、初修外国語の卒業に必要な単位を修得していくことになります。

（2）対象言語

ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語

（3）受講資格

下記の①～③のいずれかに該当する学生で、「新入生のためのスタートアップサイト」に掲載されるプログラムの説明をよく確認し、WEB から申し込みをしてください。

- ①高等学校等で、当該言語について 4 単位相当以上履修し、一定のレベルに到達している学生
【参考：1 単位は 45 分授業を週 1 回・1 年間学習するものとする】
- ②原則として、当該の言語圏で 1 年間以上在住し帰国した学生
- ③上記①・②と同等レベルの語学力がある学生

（4）受講申込

このプログラムを履修するためには、「新入生のためのスタートアップサイト」に掲載されるプログラムの説明をよく確認し、締切までに WEB から申し込みをする必要があります。その上で、新入生オリエンテーション期間中に実施する既修者対応プログラムガイダンスに出席してください。オリエンテーション時に、履修の適性を判断します。

受講許可後、各自 manaba+R から CAMPUS WEB にログインし、受講登録を行います（このプログラムは、原則として第 1 セメスターから受講します）。

（5）履修方法

産業社会学部の必修初修外国語科目（「〇〇語・基礎」等、初修外国語 6 単位科目）を履修せず、下記の既修者用科目を、初修外国語必修科目として履修します。6 単位を超えて単位修得した場合も卒業に必要な単位に算入されます。

回生	授業開講期間	学部正課科目 (①②は単位数)	履修 単位数	既修者受講科目
1 回生	春セメスター	〇〇語 基礎 ② 〇〇語 表現Ⅰ ①	6 単位 以上	〇〇語 中級コミュニケーションⅠ・Ⅱ 〇〇語 中級表現読解Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
	秋セメスター	〇〇語 展開 ② 〇〇語 表現Ⅱ ①		

※スペイン語・朝鮮語の留意事項

- ・スペイン語・朝鮮語については、許可通知の際に履修科目を指示する場合があります。
- ・スペイン語・朝鮮語の「〇〇語 中級表現読解Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」は、全学副専攻コミュニケーション科目との合同授業で 2 単位のため、履修科目数は上記表の記載とは異なります。必ず時間割を見て、自身に必要な履修科目数を確認してください。

(6) 単位未修得の場合

卒業に必要な単位数を修得していない場合、単位未修得の既修者対応プログラム科目を次年度に再度履修します。「初修外国語単位回復科目」を受講することはできません。

(7) 受講辞退について

既修者対応プログラムは、通常の正課初修外国語の科目に代えて必修科目として受講する科目のため、受講辞退はできません。

(8) 全学副専攻特別履修（既修者対応プログラムのアドヴァンストークラス）について

既修者対応プログラムの受講生は、申請により、プログラムで履修している言語の全学副専攻2年次配当科目（通常3回生が履修する科目）を2回生時から「特別履修」することができます。「全学副専攻」コースを履修するのではなく、既修者対応プログラムのアドヴァンストークラスとして、全学副専攻の科目を1単位から特別に受講できるものです。

①対象者

既修者対応プログラム受講生

②「全学副専攻」との違い

通常の全学副専攻……履修するコースを16単位以上修得した場合に限り、卒業に必要な単位として認定

全学副専攻特別履修…1単位から（8単位以内）卒業に必要な単位として認定。

※発展科目で単位授与

③「副専攻特別履修」の申請時期

1回生の11月頃の予定です。同時期に実施する説明会に参加の上、申請してください。

団体受験について

立命館大学では、正課授業の到達度を測るため、また主体的な外国語学習の自己検証を目的として、学内で年に数回、TOEFL ITP®テストとTOEIC®L&R IPテストを団体受験として実施しています。

■ TOEFL ITP® テスト

TOEFL®テストは、英語を母国語としない人の英語能力を測る世界共通のテストです。TOEFL ITP®テストは、学校などの団体向けプログラムで、主にTOEFL®テストで過去に出された問題から出題されます。このスコアは、本学の英語副専攻プログラムや、各種留学プログラムなどへの応募に利用することができます。

■ TOEIC®L&R IPテスト

TOEIC®L&Rテストは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。IPテストは、大学などの団体向けプログラムで、TOEIC®L&Rテストの過去問題を中心に出題されます。このスコアは、就職活動などで提示を求められることも多いため、学内団体受験をぜひ活用してください。

※団体受験で発行されるスコアは公式スコアではありませんが、公式テストと同等の評価として、多くのケースで利用できます。利用の可否については、提出先に必ず確認してください。

※団体受験はTOEFL ITP®テスト、TOEIC®L&R IPテスト、もしくはその他のテストで実施されます。実施形態はオンライン形式あるいはキャンパスの教室を利用した集合形式のいずれかとなります。

※実施日程、試験種別・実施形態など詳細については、言語教育センターのホームページで公開しますので、必ず確認のうえ受験してください。

「言語教育センター」ホームページ

(manaba + Rの「産業社会学部生のページ」→「トップページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「英語団体受験」をクリック)

※ TOEIC®, TOEFL® は Educational Testing Service(ETS) の登録商標です。

※ TOEIC® L&R テストの「L&R」は LISTENING AND READING の短縮形です。

Ⅱ．産業社会学部での履修

7. 専門科目

学部基礎専門科目

- 現代社会専攻・メディア社会専攻・
スポーツ社会専攻・人間福祉専攻
- 子ども社会専攻

現代社会専攻

専門導入科目

専門展開科目

メディア社会専攻

専門導入科目

専門展開科目

スポーツ社会専攻

専門導入科目

専門展開科目

子ども社会専攻

専門導入科目

専門展開科目

人間福祉専攻

専門導入科目

専門展開科目

7. 専門科目

1. 学部基礎専門科目

学部の共通的な基礎力を体系的に履修することは、産業社会学部での専門科目の学修、とりわけ各専攻での専門分野の学修に向けて、極めて重要です。中でも、学部基礎専門科目の「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「情報リテラシーⅠ」「入門社会学」は、大学での学びの導入として、「さんしゃリテラシー」と位置づけており、1回生全員が履修します。それ以外の学部基礎専門科目も、所属専攻に関らず、共通して学修すべき科目ですので、幅広く履修していくことを推奨します。

現代社会専攻・メディア社会専攻・スポーツ社会専攻・人間福祉専攻

学部基礎専門科目の必要単位数「20 単位以上」のうち、12 単位以上は「ベーシックスキル科目」以外から修得しなければなりません。

<基礎専門科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
基礎演習Ⅰ	2	1 のみ	履修指定科目
基礎演習Ⅱ	2	1 のみ	履修指定科目
情報リテラシーⅠ	2	1 のみ	履修指定科目
入門社会学	2	1 以上	必修 履修指定科目 社会福祉士課程科目
プロジェクトスタディⅠ A	2	2 のみ	履修指定科目
プロジェクトスタディⅡ A	2	2 のみ	履修指定科目
社会経済学	2	1 以上	
社会学史	2	1 以上	
産業技術論	2	1 以上	
現代史	2	1 以上	
社会心理学	2	1 以上	
現代政治論	2	1 以上	
社会学理論	2	1 以上	
コミュニケーション理論	2	1 以上	
地域社会論	2	1 以上	
社会保障政策	2	1 以上	
ソーシャルデザイン入門	2	1 以上	ソーシャルデザインプログラム科目
国際社会入門	2	1 以上	グローバルスタディプログラム科目
異文化理解フィールドワーク	2	2 以上	グローバルスタディプログラム科目 重複受講可 ※1
現代教育社会論	2	1 以上	
社会調査論	2	1 以上	社会調査士課程科目
社会統計学	2	1 以上	社会調査士課程科目
社会調査情報処理	2	1 以上	社会調査士課程履修者のみ受講可
計量社会学	2	1 以上	社会調査士課程科目
質的調査論	2	1 以上	社会調査士課程科目
企画研究	2	2 以上	単年度 1 クラスまで、在学中計 6 単位まで受講可
Global Project-Based Learning	2	1 以上	重複受講可 海外派遣プログラム単位授与科目
Area StudyⅡ	4	1 以上	重複受講可 海外派遣プログラム単位授与科目
Global Study	4	1 以上	重複受講可 海外派遣プログラム単位授与科目
専門特殊講義Ⅰ	2または4	1 以上	重複受講可 ※2
専門特殊講義Ⅱ	2または4	2 以上	重複受講可 ※2
専門特殊講義Ⅲ	2または4	3 以上	重複受講可 ※2

※1 年度により授業で扱うテーマが異なることがあります。

※2 開講しない年度があります。また年度により、授業で扱うテーマが異なることがあります。

<ベーシックスキル科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
社会学の基礎	2	2 以上	先修要件あり※ 3
政治学	2	2 以上	先修要件あり※ 3
日本史 I	2	2 以上	先修要件あり※ 3
日本史 II	2	2 以上	先修要件あり※ 3
外国史 I	2	2 以上	先修要件あり※ 3
外国史 II	2	2 以上	先修要件あり※ 3
地誌学	2	2 以上	先修要件あり※ 3
哲学	2	2 以上	先修要件あり※ 3
倫理学	2	2 以上	先修要件あり※ 3

※3 教職課程「教育の基礎的理解に関する科目」(P.86) のうち 1 回生以上配当科目のいずれか 2 単位以上を修得していなければ受講できません。

子ども社会専攻

<基礎専門科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
基礎演習 I	2	1 のみ	履修指定科目
基礎演習 II	2	1 のみ	履修指定科目
情報リテラシー I	2	1 のみ	履修指定科目
入門社会学	2	1 以上	必修 履修指定科目
プロジェクトスタディ I A	2	2 のみ	履修指定科目
プロジェクトスタディ II A	2	2 のみ	履修指定科目
産業技術論	2	1 以上	
現代史	2	1 以上	
社会心理学	2	1 以上	
コミュニケーション理論	2	1 以上	
社会保障政策	2	1 以上	
ソーシャルデザイン入門	2	1 以上	ソーシャルデザインプログラム科目
国際社会入門	2	1 以上	グローバルスタディプログラム科目
異文化理解フィールドワーク	2	2 以上	グローバルスタディプログラム科目 重複受講可 ※ 4
現代教育社会論	2	1 以上	教職課程 (小学校) 科目
社会統計学	2	1 以上	社会調査士課程科目
社会調査情報処理	2	1 以上	社会調査士課程履修者のみ受講可
計量社会学	2	1 以上	社会調査士課程科目
質的調査論	2	1 以上	社会調査士課程科目
企画研究	2	2 以上	単年度 1 クラスまで、在学中計 6 単位まで受講可
Global Project-Based Learning	2	1 以上	重複受講可 海外派遣プログラム単位授与科目
Area Study II	4	1 以上	重複受講可 海外派遣プログラム単位授与科目
Global Study	4	1 以上	重複受講可 海外派遣プログラム単位授与科目
専門特殊講義 I	2または4	1 以上	重複受講可 ※ 5
専門特殊講義 II	2または4	2 以上	重複受講可 ※ 5
専門特殊講義 III	2または4	3 以上	重複受講可 ※ 5

※4 年度により授業で扱うテーマが異なることがあります。

※5 開講しない年度があります。また年度により、授業で扱うテーマが異なることがあります。

2. 現代社会専攻 専門科目

産業社会学部では、専門科目の学修を体系的に進めるために、各専攻の専門科目を「専門導入科目」と「専門展開科目」とに分けて配置しています。専門導入科目を学んでから専門展開科目を履修することを基本としつつ、各自の学習テーマや時間割の条件によって履修計画を立ててください。

専門導入科目を履修してから、専門展開科目の履修に移行することがのぞましい履修の仕方です（専門導入科目を履修しないと、専門展開科目が履修できないわけではありません）。

他専攻科目の受講については、P.51 を参照してください。

<専門導入科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
現代と社会	2	1 以上	必修 コア科目 履修指定科目 ※1
産業社会学	2	1 以上	※1
多文化共生論	2	1 以上	※1
都市論	2	2 以上	※1
社会文化論	2	2 以上	※1

※1 他専攻の学生は受講不可。ただし、ダブルメジャー履修を許可された場合は、コア科目以外の科目を受講可。

<専門展開科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
ゼミナールⅠ	2	3 以上	履修指定科目 左記科目から2単位以上必修 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
ゼミナールⅡ	2	3 以上	
ゼミナールⅢ	2	4 以上	
ゼミナールⅣ	2	4 以上	必修・履修指定科目 先修要件あり ※2 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
卒業研究	4	4 以上	必修・履修指定科目 先修要件あり ※2 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
現代社会専門特殊講義	2または4	2 以上	重複受講可 ※3
労働社会学	2	2 以上	
日本経済論	2	2 以上	
企業社会論	2	2 以上	
NPO・NGO 論	2	2 以上	
社会政策論	2	2 以上	
社会階層論	2	2 以上	
現代労働論	2	2 以上	
比較政治論	2	2 以上	
現代市民社会論	2	2 以上	
国際社会経済学	2	2 以上	
現代経済論	2	2 以上	
景観デザイン論	2	2 以上	
住民自治論	2	2 以上	

※2 「ゼミナールⅠ～Ⅲ」のうち2単位以上を修得していなければ受講できません。

※3 開講しない年度があります。また年度により、授業で扱うテーマが異なることがあります。

科目名	単位数	配当 回生	備考
環境形成論	2	2 以上	
環境論	2	2 以上	
環境社会論	2	2 以上	
環境経済学	2	2 以上	
資源エネルギー論	2	2 以上	
国際環境政策論	2	2 以上	
比較宗教論	2	2 以上	
アジア文化論	2	2 以上	
社会思想	2	2 以上	
比較文化論	2	2 以上	
社会倫理学	2	2 以上	
家族社会学	2	2 以上	
自我論	2	2 以上	
生命倫理学	2	2 以上	
臨床社会学	2	2 以上	
エスニシティ論	2	2 以上	
比較ジェンダー論	2	2 以上	
社会病理学	2	2 以上	

7. 専門科目

I. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

II. 産業社会学部での履修

III. ゼミナール・卒業研究

IV. 産業社会学部の特色ある学び

V. 学部横断プログラム

VI. 資格取得・キャリア形成

VII. 正課学修の援助制度

VIII. ハラスメントの防止

IX. カリキュラムマップ

3. メディア社会専攻 専門科目

産業社会学部では、専門科目の学修を体系的に進めるために、各専攻の専門科目を「専門導入科目」と「専門展開科目」とに分けて配置しています。専門導入科目を学んでから専門展開科目を履修することを基本としつつ、各自の学習テーマや時間割の条件によって履修計画を立ててください。

専門導入科目を履修してから、専門展開科目の履修に移行することがのぞましい履修の仕方です（専門導入科目を履修しないと、専門展開科目が履修できないわけではありません）。

他専攻科目の受講については、P.51 を参照してください。

<専門導入科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
現代とメディア	2	1 以上	必修 コア科目 履修指定科目 ※1
現代メディア史	2	1 以上	※1
メディア技術史	2	1 以上	※1
メディア社会論	2	2 以上	※1
メディア文化論	2	2 以上	※1

※1 他専攻の学生は受講不可。ただし、ダブルメジャー履修を許可された場合は、コア科目以外の科目を受講可。

<専門展開科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
ゼミナールⅠ	2	3 以上	履修指定科目 左記科目から2単位以上必修 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
ゼミナールⅡ	2	3 以上	
ゼミナールⅢ	2	4 以上	
ゼミナールⅣ	2	4 以上	必修・履修指定科目 先修要件あり ※2 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
卒業研究	4	4 以上	必修・履修指定科目 先修要件あり ※2 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
メディア社会専門特殊講義	2または4	2 以上	重複受講可 ※3
ジャーナリズム論	2	2 以上	
パブリックアクセス論	2	2 以上	
活字メディア論	2	2 以上	
国際ジャーナリズム論	2	2 以上	
メディア倫理	2	2 以上	
ニュース論	2	2 以上	
グローバルメディア論	2	2 以上	
スポーツメディア論	2	2 以上	
広告論	2	2 以上	
音声メディア論	2	2 以上	
コミュニケーション政策論	2	2 以上	
広告文化論	2	2 以上	
コミュニティメディア論	2	2 以上	
スポーツ変動論	2	2 以上	
メディアリテラシー論	2	2 以上	
映像表現論	2	2 以上	
観光文化論	2	2 以上	
映画と社会	2	2 以上	
表象文化論	2	2 以上	
子どもとメディア	2	2 以上	
マンガ文化論	2	2 以上	

※2 「ゼミナールⅠ～Ⅲ」のうち2単位以上を修得していなければ受講できません。

※3 開講しない年度があります。また年度により、授業で扱うテーマが異なることがあります。

4. スポーツ社会専攻 専門科目

産業社会学部では、専門科目の学修を体系的に進めるために、各専攻の専門科目を「専門導入科目」と「専門展開科目」とに分けて配置しています。専門導入科目を学んでから専門展開科目を履修することを基本としつつ、各自の学習テーマや時間割の条件によって履修計画を立ててください。

専門導入科目を履修してから、専門展開科目の履修に移行することがのぞましい履修の仕方です（専門導入科目を履修しないと、専門展開科目が履修できないわけではありません）。

他専攻科目の受講については、P.51 を参照してください。

<専門導入科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
現代とスポーツ	2	1 以上	必修 コア科目 履修指定科目 ※1
スポーツ史	2	1 以上	※1
ウエルネス論	2	1 以上	※1
スポーツ社会学	2	2 以上	※1
スポーツ文化論	2	2 以上	※1

※1 他専攻の学生は受講不可。ただし、ダブルメジャー履修を許可された場合は、コア科目以外の科目を受講可。

<専門展開科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
ゼミナールⅠ	2	3 以上	履修指定科目
ゼミナールⅡ	2	3 以上	左記科目から2単位以上必修
ゼミナールⅢ	2	4 以上	履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
ゼミナールⅣ	2	4 以上	必修・履修指定科目 先修要件あり ※2 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
卒業研究	4	4 以上	必修・履修指定科目 先修要件あり ※2 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
スポーツ社会専門特殊講義	2または4	2 以上	重複受講可 ※3
スポーツ政策論	2	2 以上	
スポーツメディア論	2	2 以上	
スポーツ産業論	2	2 以上	
スポーツとジェンダー	2	2 以上	
子どもとスポーツ	2	2 以上	
障害者とスポーツ	2	2 以上	
余暇の社会史	2	2 以上	
スポーツ人類学	2	2 以上	
武道論	2	2 以上	
スポーツ規範論	2	2 以上	
現代余暇論	2	2 以上	
グローバルスポーツ論	2	2 以上	
比較スポーツ論	2	2 以上	
身体表現論	2	2 以上	
スポーツ変動論	2	2 以上	
スポーツマネジメント論	2	2 以上	
スポーツ法学	2	2 以上	

※2 「ゼミナールⅠ～Ⅲ」のうち2単位以上を修得していなければ受講できません。

※3 開講しない年度があります。また年度により、授業で扱うテーマが異なることがあります。

科目名	単位数	配当 回生	備考
スポーツ行政論	2	2 以上	
スポーツボランティア論	2	2 以上	
地域スポーツ論	2	2 以上	
スポーツ指導論	2	2 以上	
スポーツクラブ論	2	2 以上	
衛生学	2	2 以上	
学校保健	2	2 以上	
ヘルスマネジメント論	2	2 以上	
スポーツバイオメカニクス	2	2 以上	教職課程「保健体育」履修者のみ受講可
生理学	2	2 以上	
スポーツ心理学Ⅲ	2	2 以上	教職課程「保健体育」履修者のみ受講可
スポーツ教育論実習Ⅰ	1	2 以上	教職課程「保健体育」履修者のみ受講可
スポーツ教育論実習Ⅱ	1	2 以上	教職課程「保健体育」履修者のみ受講可
スポーツ教育論実習Ⅲ	1	2 以上	教職課程「保健体育」履修者のみ受講可
スポーツ教育論実習Ⅳ	1	2 以上	教職課程「保健体育」履修者のみ受講可

5. 子ども社会専攻 専門科目

産業社会学部では、専門科目の学修を体系的に進めるために、各専攻の専門科目を「専門導入科目」と「専門展開科目」とに分けて配置しています。専門導入科目を学んでから専門展開科目を履修することを基本としつつ、各自の学習テーマや時間割の条件によって履修計画を立ててください。

専門導入科目を履修してから、専門展開科目の履修に移行することがのぞましい履修の仕方です（専門導入科目を履修しないと、専門展開科目が履修できないわけではありません）。

他専攻科目の受講については、P.51 を参照してください。

<専門導入科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
子どもと社会	2	1 以上	必修 コア科目 履修指定科目 ※1
子どもと教育の歴史	2	1 以上	教職課程（小学校）科目 ※1
現代学校教育論	2	1 以上	※1
現代教職概論	2	2 以上	教職課程（小学校）科目 ※1

※1 他専攻の学生は受講不可。ただし、ダブルメジャー履修を許可された場合は、コア科目以外の科目を受講可。

<専門展開科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
ゼミナールⅠ	2	3 以上	履修指定科目
ゼミナールⅡ	2	3 以上	左記科目から2単位以上必修
ゼミナールⅢ	2	4 以上	履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
ゼミナールⅣ	2	4 以上	必修・履修指定科目 先修要件あり ※2 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
卒業研究	4	4 以上	必修・履修指定科目 先修要件あり ※2 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
子ども社会専門特殊講義	2または4	2 以上	重複受講可 ※3
学校カウンセリング論	2	3 以上	教職課程（小学校）科目
特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法	2	2 以上	教職課程（小学校）科目
特別支援教育概論（小学校）	2	3 以上	教職課程（小学校）科目
スクールソーシャルワーク論	2	2 以上	
児童・発達心理学	2	2 以上	教職課程（小学校）科目
道徳教育論	2	2 以上	教職課程（小学校）科目
学校カリキュラム論	2	2 以上	教職課程（小学校）科目
教育方法論（ICT 活用を含む）（小学校）	2	2 以上	教職課程（小学校）科目
生徒指導・進路指導の理論と方法（小学校）	2	2 以上	教職課程（小学校）科目
生涯学習論	2	2 以上	
子ども・若者と社会病理	2	2 以上	
学校文化・学校空間論	2	2 以上	
子どもと遊び	2	2 以上	
生命倫理学	2	2 以上	
現代若者論	2	2 以上	
グローバル教育論	2	2 以上	
国際教育援助論	2	2 以上	

※2 「ゼミナールⅠ～Ⅲ」のうち2単位以上を修得していなければ受講できません。

※3 開講しない年度があります。また年度により、授業で扱うテーマが異なることがあります。

科目名	単位数	配当 回生	備考
いのちの教育	2	2 以上	
学校制度と法規	2	2 以上	
比較市民教育論	2	2 以上	
自我論	2	2 以上	
家族社会学	2	2 以上	
メディアリテラシー論	2	2 以上	
子どもとメディア	2	2 以上	
マンガ文化論	2	2 以上	
身体表現論	2	2 以上	
子どもとスポーツ	2	2 以上	
家族関係論	2	2 以上	
子どもと ICT	2	2 以上	

＜教科教育＞ 教職課程（小学校）科目 P.101 ～を参照

科目名	単位数	配当 回生	備考
初等国語（書写を含む）	2	1 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
初等社会	2	2 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
算数	2	1 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
初等理科	2	2 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
音楽Ⅰ	2	2 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
音楽Ⅱ	2	3 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
生活	2	3 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
図画工作	2	2 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
家庭	2	2 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
初等体育	2	2 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
初等英語	2	2 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
初等国語科教育法	2	2 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
初等社会科教育法	2	3 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
算数科教育法	2	2 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
初等理科教育法	2	3 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
生活科教育法	2	2 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
音楽科教育法	2	3 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
図画工作科教育法	2	3 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
家庭科教育法	2	3 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
初等体育科教育法	2	3 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
初等英語科教育法	2	3 以上	「発展科目」として単位授与 教職課程（小学校）履修者のみ受講可

<実習> 教職課程（小学校）科目 P.96 ～を参照 卒業要件には含まれない

科目名	単位数	配当 回生	備考
(教) 介護等体験（事前指導）	1	2 以上	教職課程（小学校）履修者のみ受講可
(教) 介護等体験実習	1	3 以上	通年開講 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
(教) 初等教育実習事前指導	1	2 以上	教職課程（小学校）履修者のみ受講可
(教) 初等教育実習Ⅰ	2	3 以上	通年開講 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
(教) 初等教育実習Ⅱ（事後指導を含む）	2	4 以上	通年開講 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
(教) 初等教育実習Ⅲ（事後指導を含む）	4	4 以上	通年開講 教職課程（小学校）履修者のみ受講可
(教) 教職実践演習（小学校）	2	4 以上	教職課程（小学校）履修者のみ受講可

6. 人間福祉専攻 専門科目

産業社会学部では、専門科目の学修を体系的に進めるために、各専攻の専門科目を「専門導入科目」と「専門展開科目」とに分けて配置しています。専門導入科目を学んでから専門展開科目を履修することを基本としつつ、各自の学習テーマや時間割の条件によって履修計画を立ててください。

専門導入科目を履修してから、専門展開科目の履修に移行することがのぞましい履修の仕方です（専門導入科目を履修しないと、専門展開科目が履修できないわけではありません）。

他専攻科目の受講については、P.51 を参照してください。

<専門導入科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
現代と福祉	2	1 以上	必修 コア科目 履修指定科目 ※ 1
社会福祉概論	2	1 以上	社会福祉士課程科目 ※ 1
人間発達論	2	1 以上	※ 1
地域福祉論	2	2 以上	社会福祉士課程科目 ※ 1
ソーシャルワークの理論と方法 I	2	2 以上	社会福祉士課程科目 ※ 1

※1 他専攻の学生は受講不可。ただし、ダブルメジャー履修を許可された場合は、コア科目以外の科目を受講可。

<専門展開科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
ゼミナール I	2	3 以上	履修指定科目
ゼミナール II	2	3 以上	左記科目から 2 単位以上必修
ゼミナール III	2	4 以上	履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
ゼミナール IV	2	4 以上	必修・履修指定科目 先修要件あり ※2 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
卒業研究	4	4 以上	必修・履修指定科目 先修要件あり ※2 履修方法等の詳細は、P.54 ～を参照
人間福祉専門特殊講義	2 または 4	2 以上	重複受講可 ※ 3
国際保健医療政策研究	2	2 以上	
福祉発達史	2	2 以上	
公的扶助論	2	2 以上	社会福祉士課程科目
国際福祉社会論	2	2 以上	
社会福祉法制	2	2 以上	
司法福祉論	2	2 以上	社会福祉士課程科目
バリアフリー論	2	2 以上	
NPO・NGO 論	2	2 以上	
福祉経営論	2	2 以上	社会福祉士課程科目
福祉労働論	2	2 以上	
権利擁護と成年後見	2	2 以上	社会福祉士課程科目
社会福祉調査論	2	2 以上	社会福祉士課程科目
社会保障論	2	2 以上	社会福祉士課程科目
精神障害リハビリテーション論	2	2 以上	
老人福祉論	2	2 以上	社会福祉士課程科目
障害者福祉論	2	2 以上	社会福祉士課程科目
ソーシャルワークの基盤と専門職 I	2	2 以上	社会福祉士課程科目
ソーシャルワークの基盤と専門職 II	2	2 以上	社会福祉士課程科目

※2 「ゼミナール I ～ III」のうち 2 単位以上を修得していなければ受講できません。

※3 開講しない年度があります。また年度により、授業で扱うテーマが異なることがあります。

科目名	単位数	配当 回生	備考
児童福祉論	2	2 以上	社会福祉士課程科目
医学一般	2	2 以上	社会福祉士課程科目
医療福祉論	2	2 以上	社会福祉士課程科目
家族関係論	2	2 以上	
臨床社会学	2	2 以上	
スクールソーシャルワーク論	2	2 以上	
特別支援教育論	2	2 以上	
障害者教育・福祉論	2	2 以上	
心理学	2	2 以上	社会福祉士課程科目
心理臨床論	2	2 以上	
発達障害論	2	2 以上	
障害者とコミュニケーション	2	2 以上	
障害者とスポーツ	2	2 以上	
心理検査法	2	2 以上	
発達保障論	2	2 以上	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2 以上	社会福祉士課程科目

＜社会福祉士実習＞ 社会福祉士課程科目 P.106 ～を参照 卒業要件には含まれない

科目名	単位数	配当 回生	備考
ソーシャルワーク演習	2	2 以上	社会福祉士課程履修者のみ受講可
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	4	2 以上	通年開講 社会福祉士課程履修者のみ受講可
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	4	3 以上	通年開講 社会福祉士課程履修者のみ受講可
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2 以上	通年開講 社会福祉士課程履修者のみ受講可
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4	3 以上	通年開講 社会福祉士課程履修者のみ受講可
ソーシャルワーク実習Ⅰ	1	2 以上	通年開講 社会福祉士課程履修者のみ受講可
ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	3 以上	通年開講 社会福祉士課程履修者のみ受講可

Ⅱ．産業社会学部での履修

8．発展科目

8. 発展科目

卒業するためには、教養科目や外国語、専門科目のなかから最低必要単位数を修得しなければなりません。卒業要件単位数 124 単位までには、なお 30 単位の修得が必要となります。

この 30 単位は、教養科目・専門科目の最低必要単位数を超えて修得した単位をあてることができます。また、発展科目として開設している以下の科目（ただし、一部卒業要件外科目もあります）から修得した単位のほか、他専攻の専門科目・他学部の科目を修得した単位をあてることができます。

<キャリア形成科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
キャリア形成特殊講義	2	1 以上	クラスによりテーマ・配当回生が異なる ※ 重複受講可（ただし、同一副題科目については一部重複受講不可あり）

※ 年度により開講しないクラスがあります。

<産業社会学部英語副専攻科目> P.60 ～を参照

産業社会学部英語副専攻履修者のみ受講可

科目名	単位数	配当 回生	備考
Academic Writing 1	2	2 以上	
Academic Writing 2	2	2 以上	
Academic Reading & Discussion 1	2	2 以上	
Academic Reading & Discussion 2	2	2 以上	
Academic Presentation 1	2	2 以上	
Academic Presentation 2	2	2 以上	
Cultural Studies	2	3 以上	
Language and Society	2	3 以上	
Media & Society	2	3 以上	
Global Issues	2	3 以上	
Issues of Democracy	2	3 以上	
Contemporary Topics	2	3 以上	
Study Abroad Program	4	2 以上	

<グローバルスタディプログラム> P.62 ～を参照

科目名	単位数	配当 回生	備考
グローバル社会論	2	2 以上	
Reading & Discussion 1	1	2 以上	展開英語科目群
Reading & Discussion 2	1	2 以上	展開英語科目群
English in the Media 1	1	2 以上	展開英語科目群
English in the Media 2	1	2 以上	展開英語科目群
Presentation Skills 1	1	2 以上	展開英語科目群
Presentation Skills 2	1	2 以上	展開英語科目群
English in Film 1	1	2 以上	展開英語科目群
English in Film 2	1	2 以上	展開英語科目群

<ソーシャルデザインプログラム> P.64 ～を参照

科目名	単位数	配当 回生	備考
ソーシャルデザイン・スタディーズ入門	2	2 以上	先修要件あり ※ 1
ソーシャルデザイン・スタディーズ実践	2	2 以上	先修要件あり ※ 1 重複受講可 ※ 2

※ 1 学部基礎専門科目「ソーシャルデザイン入門」の単位を修得していなければ受講できません。

※ 2 年度により、授業で扱うテーマが異なることがあります。

<探究科目>

科目名	単位数	配当 回生	備考
理科探究 A	2	1 以上	
理科探究 B	2	1 以上	
数学探究	2	1 以上	

<社会調査士課程に関する科目> P.104 ～を参照

社会調査士課程履修者のみ受講可

科目名	単位数	配当 回生	備考
社会調査士 I	2	1 のみ	
社会調査士 II	2	2 のみ	
社会調査士 III	2	2 のみ	

<全学副専攻科目> P.70 ～を参照

それぞれ語種ごとのコースで、16 単位以上修得した場合に限り、最大 20 単位まで卒業に必要な単位として認定。

全学副専攻の履修を許可された者で、各語種ごとのコミュニケーションコース履修者のみ受講可。

科目名	単位数	配当 回生	備考
(副) 専門ドイツ語 I	2	2 以上	
(副) 専門ドイツ語 II	2	2 以上	
(副) 専門ドイツ語 III	2	2 以上	
(副) 専門ドイツ語 IV	2	2 以上	
(副) 専門ドイツ語 V	2	3 以上	
(副) 専門ドイツ語 VI	2	3 以上	
(副) 専門ドイツ語 VII	2	3 以上	
(副) 専門ドイツ語 VIII	2	3 以上	
(副) ドイツ語コミュニケーション I	1	2 以上	
(副) ドイツ語コミュニケーション II	1	2 以上	
(副) ドイツ語コミュニケーション III	1	3 以上	
(副) ドイツ語コミュニケーション IV	1	3 以上	
(副) 専門フランス語 I	2	2 以上	
(副) 専門フランス語 II	2	2 以上	
(副) 専門フランス語 III	2	2 以上	
(副) 専門フランス語 IV	2	2 以上	
(副) 専門フランス語 V	2	3 以上	
(副) 専門フランス語 VI	2	3 以上	
(副) 専門フランス語 VII	2	3 以上	
(副) 専門フランス語 VIII	2	3 以上	

科目名	単位数	配当 回生	備考
(副) フランス語コミュニケーションⅠ	1	2 以上	
(副) フランス語コミュニケーションⅡ	1	2 以上	
(副) フランス語コミュニケーションⅢ	1	3 以上	
(副) フランス語コミュニケーションⅣ	1	3 以上	
(副) 専門中国語Ⅰ	2	2 以上	
(副) 専門中国語Ⅱ	2	2 以上	
(副) 専門中国語Ⅲ	2	2 以上	
(副) 専門中国語Ⅳ	2	2 以上	
(副) 専門中国語Ⅴ	2	3 以上	
(副) 専門中国語Ⅵ	2	3 以上	
(副) 専門中国語Ⅶ	2	3 以上	
(副) 専門中国語Ⅷ	2	3 以上	
(副) 中国語コミュニケーションⅠ	1	2 以上	
(副) 中国語コミュニケーションⅡ	1	2 以上	
(副) 中国語コミュニケーションⅢ	1	3 以上	
(副) 中国語コミュニケーションⅣ	1	3 以上	
(副) 専門スペイン語Ⅰ	2	2 以上	
(副) 専門スペイン語Ⅱ	2	2 以上	
(副) 専門スペイン語Ⅲ	2	2 以上	
(副) 専門スペイン語Ⅳ	2	2 以上	
(副) 専門スペイン語Ⅴ	2	3 以上	
(副) 専門スペイン語Ⅵ	2	3 以上	
(副) 専門スペイン語Ⅶ	2	3 以上	
(副) 専門スペイン語Ⅷ	2	3 以上	
(副) スペイン語コミュニケーションⅠ	1	2 以上	
(副) スペイン語コミュニケーションⅡ	1	2 以上	
(副) スペイン語コミュニケーションⅢ	1	3 以上	
(副) スペイン語コミュニケーションⅣ	1	3 以上	
(副) 専門朝鮮語Ⅰ	2	2 以上	
(副) 専門朝鮮語Ⅱ	2	2 以上	
(副) 専門朝鮮語Ⅲ	2	2 以上	
(副) 専門朝鮮語Ⅳ	2	2 以上	
(副) 専門朝鮮語Ⅴ	2	3 以上	
(副) 専門朝鮮語Ⅵ	2	3 以上	
(副) 専門朝鮮語Ⅶ	2	3 以上	
(副) 専門朝鮮語Ⅷ	2	3 以上	
(副) 朝鮮語コミュニケーションⅠ	1	2 以上	
(副) 朝鮮語コミュニケーションⅡ	1	2 以上	
(副) 朝鮮語コミュニケーションⅢ	1	3 以上	
(副) 朝鮮語コミュニケーションⅣ	1	3 以上	
Intensive Language Workshop	2	2 以上	

<情報リテラシー>

科目名	単位数	配当 回生	備考
情報リテラシーⅡ	2	1 以上	

＜特別支援教育に関する科目＞ 教職課程（特別支援学校）科目 P.91 ～を参照
卒業要件には含まれない

科目名	単位数	配当 回生	備考
(教) 知的障害者の心理・生理・病理	2	2 以上	
(教) 肢体不自由者の心理・生理・病理	2	2 以上	
(教) 病弱者の心理・生理・病理	2	2 以上	
(教) 知的障害教育	2	2 以上	
(教) 知的障害教育課程論Ⅰ	2	2 以上	
(教) 知的障害教育課程論Ⅱ	2	2 以上	
(教) 肢体不自由教育	2	2 以上	
(教) 病弱教育	2	2 以上	
(教) 特別支援教育実習（事前・事後指導を含む）	3	4 以上	先修要件あり P.91 を参照。

＜教職発展科目＞

現代社会専攻・メディア社会専攻・スポーツ社会専攻・人間福祉専攻のみ、6 単位を上限に、卒業要件として「発展科目」に算入します（登録した単位は全て受講登録上限単位数に含まれます）。

子ども社会専攻では、卒業要件には含まれません（登録した単位は受講登録上限単位数に含まれません）。

科目名	単位数	配当 回生	備考
(教) 中等社会系授業発展演習	2	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 保健体育科授業発展演習	2	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 教育制度論	2	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 児童・生徒理解の心理学	2	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 道徳授業発展演習	2	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 教育相談の実践	2	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 学校インターンシップⅠ	2	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 学校インターンシップⅡ	3	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 学校インターンシップⅢ	4	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 国際理解教育論	2	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 学校文化論	2	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 人間と差別の教育論	2	3 以上	先修要件あり ※ 1
(教) 学級担任論	2	3 以上	先修要件あり ※ 1

※ 1 先修要件については、「教職課程」P.84 を参照。

＜既修者副専攻特別履修科目＞ P.31 を参照

1 単位から最大 8 単位まで「発展科目」として卒業に必要な単位に算入します。

＜所属する専攻以外の専門科目（他専攻受講科目）＞

所属する専攻以外の専攻の専門科目の単位を修得した場合は、「発展科目」を修得したものとします（他専攻受講）。ただし、他専攻受講には、次の制約があります。

- ①ダブルメジャー制度（P.66）によって許可された専攻以外の専門導入科目を履修することはありません。
- ②各専攻の科目のうち、特定の課程やプログラム等を履修している学生のみ受講可能な科目は、それらの課程やプログラム等を履修している場合に限り受講することができます。
- ③所属する専攻と、他の専攻の両方で開講されている専門展開科目について、その単位を修得した場合は、所属する専攻の専門展開科目を修得したものと扱います。
- ④(子ども社会専攻のみ) 学部基礎専門科目のうち、子ども社会専攻で開講されていない科目を修得した場合も、他専攻受講科目として扱います。

<他学部の授業科目（他学部受講科目）>

他学部受講制度により修得した単位は、「発展科目」として 20 単位を上限に卒業に必要な単位に算入されます。

Ⅲ. ゼミナール・卒業研究

1. 産業社会学部におけるゼミナール・卒業研究の意味

ゼミナール（以下ゼミ）は、3 回生時および 4 回生時*に少人数（定員 15 名）で行われる演習形式の授業です。2 回生秋学期に申請を行い、所定の選考を経て所属が決まったゼミで 2 年間、学びを深めていきます。

大学での学びが高校までのそれと最も異なるのは、「問題」を自分で見つけ出さなければならぬところです。既に用意された「正解」に効率良くたどりつくことが最終目標ではありません。＜社会＞を研究対象とする産業社会学部においては、その「問題」発見と解決のために、講義や演習、実習など、内容も方法も非常にバラエティに富んだ授業が開講されています。狭義の社会学にとどまらず、経済学や教育学、心理学など隣接する学問諸分野を、ある意味で「何でも」学べます。しかし、目的意識や主体性を持って学びに取り組まないと、卒業時に「何を学んだのか分からない」結果になってしまいかねません。

産業社会学部では、卒業時に学士（社会学）の学位を授与するにあたって、所定単位の修得と卒業研究（ゼミの成果物）の合格を条件としています。特に卒業研究では、「学位授与方針」に掲げられた 9 つの能力（P.3）全てを獲得していることが求められます。ゼミは、自分にとっての「問題」を発見し、教員や学生との活発な議論の中で、その「問題」への自分なりの回答を見つけ、学術的な作法でまとめていく、つまり 4 年間の学部での学びを総合的に「紡ぎ上げ」ていく場なのです。

※標準開始回生。個別の履修状況により、開始回生が遅れる可能性があります。

2. ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳおよび卒業研究の履修

履修時期	3 回生		4 回生		
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
科目名	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ	卒業研究
単位数	2 単位	2 単位	2 単位	2 単位	4 単位
備考	演習形式	演習形式	演習形式	演習形式	卒業論文・制作
	履修指定科目・クラス指定 ゼミナールⅠ～Ⅲから 2 単位以上の修得が必須			クラス指定 同時履修、必修	

「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は、「卒業研究」に向けた演習形式の授業で、「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の順に連続履修します。

「ゼミナールⅣ」および「卒業研究」は卒業するための必修科目ですが、これら 2 科目を履修するためには、「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の中から少なくとも 2 単位以上を修得している必要があります。「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」いずれも単位修得できなかった場合や「ゼミナールⅣ」および「卒業研究」の単位が修得できなかった場合は、最短でも 1 年、卒業時期が延びることになります。

また、留学・休学等の学籍異動を行った場合（後述 6. 7. 参照）、学籍異動時期・期間によっては卒業時期が遅れる可能性があります。早期からしっかりと履修計画を立て、着実に単位を修得することが重要です。

3. クラスの選択

3 回生から履修するゼミナールは、必ず 2 年間にわたり履修し、その成果を卒業研究の成果物としてまとめます。産業社会学部では必修科目となっています。所属するゼミナールのクラスは、2 回生秋学期のゼミナール申請・選考を経て、決定します。「ゼミナール要項」にしたがって、所定の期間に正しく手続きを行ってください。

クラス選択は大変重要であるため、ガイダンスやクラス紹介企画、相談会などに参加して、申請制度や各クラスの研究内容等をよく理解し、自分の学修計画、学生生活に合致するクラスを考えてください。なお、決定後のクラス変更は原則できません。

ゼミナールに関する情報および連絡は、manaba+R（ゼミナール用のページや通知機能）にて行います。また、立命館のメールアドレス宛に連絡される場合もあります。重要なお知らせもありますので、見逃すことのないように、確認してください。

※ゼミナールにはクラス定員があります。

※産業社会学部の全ての教員が毎年度開講するわけではありません。

※指定された期間に申請がない場合は、ゼミナールは受講できず、卒業時期が遅れます。

(1) ガイダンスおよび各種企画について

2 回生春学期（6 月頃）からゼミナール選択のためのガイダンスやクラス紹介企画、相談会などが実施されます。「ダブルメジャー制度」の申請にも関わってきますので、早期から時間をかけて検討することが重要です。詳細はガイダンス資料および「ゼミナール要項」（9 月配布予定）を確認してください。

(2) ゼミナールの種類

ゼミには「ダブルメジャーゼミ」「学部共通ゼミ」の 2 種類があり、「ダブルメジャー履修制度」（2 回生春学期に申請）を履修しているか否か、またどの専攻をサブメジャーとして選択しているかで申請できるゼミのクラスが異なります。

種類	説明	申請対象者
ダブルメジャーゼミ	所属専攻の学生に加え、ダブルメジャー履修をしている他専攻生を受け入れるゼミ	①所属専攻の学生 ②ダブルメジャー履修をしている学生（サブメジャー先の専攻が開講しているゼミに限り申請可）
学部共通ゼミ	専攻横断的なテーマ設定をしたゼミ	所属専攻に関係なく全ての専攻の学生が申請可能

4. ゼミナール履修について

(1) 成績評価方法

「ゼミナール」では、出席状況、授業への参加度、提出物、成果物等から総合的に評価されます。「卒業研究」では、ゼミナールでの学習成果をまとめた成果物等を提出することが必要で、「5. 卒業研究評価項目」の全てが 2 段階以上であることが合格水準（C 評価以上）の目安になります。クラスにより異なる場合は、担当教員から説明されます。

成績評価方法についての詳細は、各クラスの担当教員からの説明、「ゼミナール要項」やシラバス等をそれぞれ確認してください。

(2) ゼミナール、卒業研究の不合格

2 年間の体系的な履修を前提としているため、「ゼミナールⅠ～Ⅲ」は「ゼミナールⅣ」と「卒業研究」の先修条件となっています。「ゼミナールⅠ～Ⅲ」全てが不合格になれば、その時点で 4 年では卒業できないことが決定します。また「ゼミナールⅣ」と「卒業研究」のいずれか、または両方が不合格の場合、その時点で卒業できないことが決定します。「ゼミナール」や「卒業研究」は履修状況に応じて、再履修することになります。

※「ゼミナールⅣ」・「卒業研究」は秋学期のみ開講科目のため、翌年度の秋学期に再履修。

(3) 5 回生以降のゼミナールの履修について

ゼミナールや卒業研究が不合格の場合、「ゼミナールⅢ」、「ゼミナールⅣ」、「卒業研究」のうち不合格となった科目を再履修することになります。再履修には申請が必要で、秋学期成績発表時期に詳細を manaba+R 等で通知します。指定された期間に再履修の申請がない場合は、ゼミナール履修ができず、卒業時期に影響をおよぼすことがあります。

※再履修は 4 回生まで所属していたゼミ担当教員のクラスでの履修が原則となります。

※所属していたゼミ担当教員のクラスが翌年度に開講されない場合もあります。

5. 卒業研究評価項目

評価項目	1	2	3	4
問題設定は適切に行われているか (DP1,3)	問題設定が結論を導く形で明瞭に示されていない	問題設定が結論を導く形で示されているが、曖昧さが残っている	明瞭な結論を導く形で、問題設定が行われている	独創的な結論を導き出すことができる問題設定が行われている
基礎的な事実関係や理論の理解ができているか (DP8,9)	基礎的な事実関係や理論の理解ができている	基礎的な事実関係や理論は紹介されているが、整理が不十分で、理解も十分とは言えない	基礎的な事実関係や理論を紹介し、理解もできているが、問題設定との関りがやや不明瞭である	基礎的な事実関係や理論を紹介し、問題設定との関りも明瞭に示している
先行研究に関するレビューが十分になされているか (DP2,8,9)	先行研究に関するレビューがなされていない	先行研究に関するレビューはある程度行われているが、考察が十分になされていないとは言えない	先行研究に関するレビューは行われているが、問題設定との関りがやや不明瞭である	先行研究に関するレビューが十分になされており、問題設定との関りも明瞭に示している
調査や文献収集などの研究方法（アプローチ）が適切であるか (DP4)	調査や文献収集などの研究方法が不適切である	調査や文献収集などの研究方法は、ある程度適切である	調査や文献収集などの研究方法は適切だが、わずかな不備が見られる	調査や文献収集などの研究方法は適切なものであり、明瞭に示されている
適切な文献・資料・データに基づいて議論が進められているか (DP6,8,9)	文献・資料・データが全く、あるいはほとんど用いられておらず、感想文のレベルの議論となっている	文献・資料・データは用いられているが、恣意的な使用が見られ、客観的な議論を展開できていない	適切な文献・資料・データに基づいて議論を進めているが、わずかな不備が見られる	日本語および外国語の適切な文献・資料・データに基づいて、説得的な議論の進め方を展開できている
論文は論理的な構成となっているか (DP5)	章・節等が明記されておらず、論理的な構成とはなっていない	章・節等は示されているが、つながりが不明瞭であり、全体としてのまとまりも不明瞭である	章・節等が明記され、つながりもある程度示されているが、不明瞭な部分も見られる	章・節等が明記され、つながりも明瞭であり、全体として論理的な構成となっている
アカデミックな文章としての形式（出典表記、引用の仕方、文献一覧など）は整っているか (DP5,7)	アカデミックな文章としての形式が整っていない	アカデミックな文章としての形式がある程度整っている	アカデミックな文章としての形式は整っているが、わずかな不備が見られる	アカデミックな文章として形式上全く問題ない
文章表現は適切か (DP5)	文法上の誤りや不適切な表現が極めて多い	文法上の誤りや不適切な表現は少ないが、アカデミックな文章の表現としては不備が見られる	アカデミックな文章表現になっているが、わずかな不備が見られる	優れた文章表現となっている
考察・結論は妥当か (DP8,9)	妥当な考察・結論が示されていない	形式としては考察・結論が書かれているが、内容面で不備が見られる	妥当な考察・結論が書かれているが、わずかな不備が見られる	優れた考察・結論が示されている

※『DP』（ディプロマ・ポリシー）については P.3 を参照すること

6. 留学をした場合の ゼミの履修

※立命館大学の留学プログラムに限る。休学の場合は次ページを参照。

1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		5 回生	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクト スタディⅠ	プロジェクト スタディⅡ	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	留学	プロジェクト スタディⅠ	プロジェクト スタディⅡ	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	留学	留学	プロジェクト スタディⅡ	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	留学	プロジェクト スタディⅡ	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクト スタディⅠ	留学	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	留学	留学	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクト スタディⅠ	留学	留学	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクト スタディⅠ	プロジェクト スタディⅡ	留学	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクト スタディⅠ	プロジェクト スタディⅡ	ゼミナールⅠ	留学	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクト スタディⅠ	プロジェクト スタディⅡ	留学	留学	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクト スタディⅠ	プロジェクト スタディⅡ	ゼミナールⅠ	留学	留学	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクト スタディⅠ	プロジェクト スタディⅡ	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	留学	ゼミナールⅣ 卒業研究	-	-
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクト スタディⅠ	プロジェクト スタディⅡ	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	留学	-	ゼミナールⅣ 卒業研究
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクト スタディⅠ	プロジェクト スタディⅡ	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	留学	留学	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクト スタディⅠ	プロジェクト スタディⅡ	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	留学	留学	ゼミナールⅣ 卒業研究

7. 休学をした場合の ゼミの履修

所属ゼミを決定する手続きは、通常2年生第4セメスターで行います。所属ゼミを決定する手続きの学期を休学した場合、および所属ゼミを決定する学期の翌学期以降を休学した場合は、以下の表に沿って履修します。表以外のパターンで休学する場合の所属ゼミを決定する手続きの時期、および履修方法は、あらかじめ産業社会学部事務室で確認してください。

なお、休学する期間によって卒業する時期が大きくなります。復学後は、同じゼミ担当教員のクラスに所属することが原則ですが、開講されていない場合は新たに選択する必要があります。休学を検討する際は、早期に産業社会学部事務室に相談してください。

※○数字は在学セメスター数

休学時期	1年目		2年目		3年目		4年目		5年目	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
標準履修	基礎演習I	基礎演習II	プロジェクト スタディI	プロジェクト スタディII	ゼミナールI	ゼミナールII	ゼミナールIII	ゼミナールIV 卒業研究		
1年生 秋学期休学	1回生① 基礎演習I	休学	1回生② -	2回生③ 基礎演習II	2回生④ プロジェクト スタディI	3回生⑤ プロジェクト スタディII	3回生⑥ ゼミナールI	4回生⑦ ゼミナールII	4回生⑧ ゼミナールIII	5回生⑨ ゼミナールIV 卒業研究
1年生 秋・春学期休学	1回生① 基礎演習I	休学	休学	1回生② 基礎演習II	2回生③ プロジェクト スタディI	2回生④ プロジェクト スタディII	3回生⑤ ゼミナールI	3回生⑥ ゼミナールII	4回生⑦ ゼミナールIII	4回生⑧ ゼミナールIV 卒業研究
2年生 春学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	休学	2回生③ -	2回生④ プロジェクト スタディI	3回生⑤ プロジェクト スタディII	3回生⑥ ゼミナールI	4回生⑦ ゼミナールII	4回生⑧ ゼミナールIII	5回生⑨ ゼミナールIV 卒業研究
2年生 秋学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	2回生③ プロジェクト スタディI	休学	2回生④ -	3回生⑤ プロジェクト スタディII	3回生⑥ ゼミナールI	4回生⑦ ゼミナールII	4回生⑧ ゼミナールIII	5回生⑨ ゼミナールIV 卒業研究
2年生 春・秋学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	休学	休学	2回生③ プロジェクト スタディI	2回生④ プロジェクト スタディII	3回生⑤ ゼミナールI	3回生⑥ ゼミナールII	4回生⑦ ゼミナールIII	4回生⑧ ゼミナールIV 卒業研究
2年生 秋・春学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	2回生③ プロジェクト スタディI	休学	休学	2回生④ プロジェクト スタディII	3回生⑤ ゼミナールI	3回生⑥ ゼミナールII	4回生⑦ ゼミナールIII	4回生⑧ ゼミナールIV 卒業研究
3年生 春学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	2回生③ プロジェクト スタディI	2回生④ プロジェクト スタディII	休学	3回生⑤ -	3回生⑥ ゼミナールI	4回生⑦ ゼミナールII	4回生⑧ ゼミナールIII	5回生⑨ ゼミナールIV 卒業研究
3年生 秋学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	2回生③ プロジェクト スタディI	2回生④ プロジェクト スタディII	3回生⑤ ゼミナールI	休学	3回生⑥ -	4回生⑦ ゼミナールII	4回生⑧ ゼミナールIII	5回生⑨ ゼミナールIV 卒業研究
3年生 春・秋学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	2回生③ プロジェクト スタディI	2回生④ プロジェクト スタディII	休学	休学	3回生⑤ ゼミナールI	3回生⑥ ゼミナールII	4回生⑦ ゼミナールIII	4回生⑧ ゼミナールIV 卒業研究
3年生 秋・春学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	2回生③ プロジェクト スタディI	2回生④ プロジェクト スタディII	3回生⑤ ゼミナールI	休学	休学	3回生⑥ ゼミナールII	4回生⑦ ゼミナールIII	4回生⑧ ゼミナールIV 卒業研究
4年生 春学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	2回生③ プロジェクト スタディI	2回生④ プロジェクト スタディII	3回生⑤ ゼミナールI	3回生⑥ ゼミナールII	休学	4回生⑦ -	4回生⑧ ゼミナールIII	5回生⑨ ゼミナールIV 卒業研究
4年生 秋学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	2回生③ プロジェクト スタディI	2回生④ プロジェクト スタディII	3回生⑤ ゼミナールI	3回生⑥ ゼミナールII	ゼミナールIII	休学	4回生⑧ -	5回生⑨ ゼミナールIV 卒業研究
4年生 春・秋学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	2回生③ プロジェクト スタディI	2回生④ プロジェクト スタディII	3回生⑤ ゼミナールI	3回生⑥ ゼミナールII	休学	休学	4回生⑦ ゼミナールIII	4回生⑧ ゼミナールIV 卒業研究
4年生 秋・春学期休学	1回生① 基礎演習I	1回生② 基礎演習II	2回生③ プロジェクト スタディI	2回生④ プロジェクト スタディII	3回生⑤ ゼミナールI	3回生⑥ ゼミナールII	ゼミナールIII	休学	休学	4回生⑧ ゼミナールIV 卒業研究

Ⅳ. 産業社会学部の特徴ある学び

1. 産業社会学部英語副専攻

1. 産業社会学部英語副専攻とは

産業社会学部英語副専攻とは、英語教育と学部専門教育を連携させたカリキュラムに基づき、英語運用能力と学部の専門的知識・技能を同時に高め、国際的な進路・交流のための力をつけることを目指すプログラムです。同時に、学部上回生で社会学研究科への進学を希望する学生が高度な英語力を身に付けられるよう、特にライティングとリーディングに重点をおいた教育も行います。修了時には修了証が授与されます。設置科目は「英語の基礎的総合的運用能力を発展させるための科目」(A 群)、「社会学関連の専門知識に関する講義科目」(B 群)、および「海外研修科目」(C 群)から構成され、講義は全て英語で行われます。

プログラム修了時、受講生全員が、TOEIC® L & R テスト 600 点 (TOEFL® ITP テスト 500 点、TOEFL iBT® テスト 61 点) 以上のレベルに到達することを目指します。そのうち、約 3 分の 1 (20 名) については TOEIC® L & R テスト 730 点 (TOEFL® ITP テスト 550 点、TOEFL iBT® テスト 79 点) 程度の英語運用能力を習得することを目指します。同時に、社会学関連の専門知識を幅広く英語で学び、英語で調査研究する力や発信する力をつけます。

プログラムを修了した学生の進路としては、本学の大学院進学だけでなく、海外大学 (院) 留学、NPO/NGO や国際機関での活動、国内諸機関での国際マネジメント及び民間の国際交流の分野での活躍などが期待されます。

2. 応募要件

(1) 対象者

産業社会学部の 1 回生が対象です。ただし、英語を母語とする留学生は応募できません。

- ※ 1 学部英語副専攻と全学副専攻を重複して履修することはできません。
- ※ 2 子ども社会専攻学生で教職課程を履修する学生は、4 年間での卒業計画と毎年の受講登録上限数に関して英語副専攻科目を履修することが困難です。
- ※ 3 時間割の関係上、複数の資格課程やプログラムを並行して履修することができない場合があります。

(2) 応募資格

TOEIC® L & R テスト 470 点以上または TOEFL iBT® テスト 48 点以上を取得していること※、かつ、12 月に行われる団体受験 TOEIC® L & R テスト (IP) を受験することを条件とします。なお、応募にあたっては、1 回生春学期の英語科目の成績が少なくとも 1 つは「B」またはそれより高く、かつ春学期・秋学期ともに「F」のないことが原則として求められます。

※ TOEIC® L&R テスト (IP) 470 点以上、TOEIC Bridge® L&R テスト (IP) 78 点以上、TOEFL® ITP テスト 460 点以上での応募も認めます。

※応募の際は、英語運用能力を証明できる書類のコピーを提出する必要があります。

3. 募集定員と選考方法

- (1) 募集定員：60 名
- (2) 募集期間：1 回生 12 月 (予定)
- (3) 選考方法：1 回生春学期の英語科目の成績を参考にしながら、志望理由書および英語運用能力を証明できる書類によって選考を行います。なお、必要に応じて面談を実施する場合があります。選考結果の公表については、募集要項を確認してください。

4. 科目一覧

配当回生	科目名	単位	備考
A 群：英語の基礎的総合的運用能力を発展させるための科目			
2 回生以上 開講期間： 春学期	Academic Writing 1	2	発展科目 履修指定科目（クラス指定）
	Academic Reading & Discussion 1	2	
	Academic Presentation 1	2	
2 回生以上 開講期間： 秋学期	Academic Writing 2	2	
	Academic Reading & Discussion 2	2	
	Academic Presentation 2	2	
B 群：社会学関連の専門知識に関する講義科目			
3 回生以上	Contemporary Topics	2	発展科目 （一部クラスを指定することがあります。）
	Cultural Studies	2	
	Global Issues	2	
	Issues of Democracy	2	
	Language and Society	2	
	Media & Society	2	
C 群：海外研修科目			
2 回生以上	Study Abroad Program	4	夏期休暇中にホームステイをしながらオーストラリアのサザンクイーンズランド大学での講義受講をする 5 週間の海外短期プログラム。 3 回生以上での履修も可。

5. 受講概要

- ①学部英語副専攻は、2 回生春学期から始まり、授業は全て英語で行われます。
- ②学部英語副専攻の科目は、受講登録上限単位に含みます（Study Abroad Program を除く）。
- ③再履修クラスは設置されません。単位を修得できなかった場合は、再び同一科目または未修得の別科目を履修してください。

6. 修了要件

英語副専攻プログラム科目から 20 単位以上を取得した場合、英語副専攻修了証を授与します。ただし、最終的に 20 単位に満たなかった場合でも、修得した単位は発展科目として授与されます。また、学部英語副専攻の履修開始後に以下の留学プログラムで修得した単位は、申請に基づき学部英語副専攻の単位として授与または認定されます。単位授与または単位認定を希望する場合は産業社会学部事務室に申告してください。

英語圏への交換留学または個別合意に基づく留学・UBC-AIP の正規開講科目

英語圏への交換留学または個別合意に基づく留学で修得した単位、および UBC-AIP の正規開講科目を履修して修得した単位は、12 単位を上限に学部英語副専攻の単位として単位認定されることがあります。

2. 産業社会学部グローバルスタディプログラム

1. 産業社会学部グローバルスタディプログラムとは

産業社会学部グローバルスタディプログラムは、国内外で起きている社会諸問題について国際的な視点から学ぶことを目指す学生の皆さんを対象に、産業社会学部が提示する国際教育履修モデルです。このプログラムでは、多文化共生・異文化理解のための知識と実践力を習得する講義科目とフィールドワーク科目、そして、外国語でのコミュニケーション力を涵養する語学科目といった多様な科目を配置しています。

履修指定科目（国際社会入門・グローバル社会論・展開英語科目群）の履修に加え、履修選択科目として、「教養科目B群」や「異文化理解フィールドワーク」の履修を行います。英語プレゼンテーションの機会も設け、留学やフィールドワークでの学習成果を発表します。グローバルな社会的な課題に焦点をあてて学び、考え、実践することで、将来、世界の様々な場面で活躍できる人材に自分自身を成長させるための学びを始めましょう。

1 回生時に国際的な学びの知に触れ、2 回生以降、国際的な学びの手段である言語習得や国際的な学びの現場学習を通じて多文化共生・異文化理解を深める。そして、ゼミナールでの報告や卒業論文において、外国語の文献を用いて研究テーマを深めることができるようになることを目指します。

2. 履修にあたって

産業社会学部グローバルスタディプログラムとして提示している履修モデルに沿って学ぶために、1 回生の春学期にプログラムのガイダンスを行いますので参加してください。ただし、プログラムの受講は申請制ではありませんので、誰でもプログラムの科目を受講できます。

3. 科目一覧

(1) 履修指定科目

履修推奨時期	配当回生	科目名	単位	備考
1 回生秋学期	1 以上	国際社会入門	2	学部基礎専門科目
2 回生春学期	2 以上	グローバル社会論	2	発展科目
＜展開英語科目群＞				
2 回生春学期	2 以上	Reading & Discussion 1	1	発展科目
2 回生秋学期	2 以上	Reading & Discussion 2	1	発展科目
2 回生春学期	2 以上	Presentation Skills 1	1	発展科目
2 回生秋学期	2 以上	Presentation Skills 2	1	発展科目
3 回生春学期	2 以上	English in the Media 1	1	発展科目
3 回生秋学期	2 以上	English in the Media 2	1	発展科目
3 回生春学期	2 以上	English in Film 1	1	発展科目
3 回生秋学期	2 以上	English in Film 2	1	発展科目

(2) 履修選択科目

配当回生	科目名	単位	備考
2 回生以上	異文化理解フィールドワーク	2	・ 学部基礎専門科目 ・ 夏期休暇中などに国内外のフィールドワークを行う講義 ・ 重複受講可
1 回生以上	Intensive Language Workshop	2	教養科目
1 回生以上	Language for Academic Communication	2	教養科目

4. 履修方法

- ・ 履修指定科目から 10 単位、履修選択科目から 2 単位を修得するのが標準的な履修構造です。履修指定科目と履修選択科目を合計 12 単位以上修得した場合にはプログラムの修了を認定します（履修指定科目と履修選択科目それぞれの必要単位数は定めておらず、合計 12 単位以上でプログラムの修了を認定します）。
- ・ 「国際社会入門」の履修後に「グローバル社会論」を履修することを推奨します。また、2 回生時に「Reading & Discussion」と「Presentation Skills」を履修することを強く推奨します。「Reading and Discussion 1」、「Presentation Skills 1」、「English in the Media 1」を同時に履修することも可能ですが、「Reading & Discussion 1・2」および「Presentation Skills 1・2」を展開英語科目群の基礎的な科目として位置づけており、「English in the Media 1・2」と「English in Film 1・2」を応用として位置付けているため、後者は 3、4 回生で受講することを推奨します。
- ・ 再履修クラスは設置していません。単位を修得できなかった場合は、再び同一科目または未修得の別科目を履修してください。

5. プログラム修了の認定

履修指定科目と履修選択科目を合計 12 単位以上修得した場合、プログラムの修了を認定し、認定証を授与します。

3. 産業社会学部ソーシャルデザインプログラム

1. 産業社会学部 ソーシャルデザイン プログラムとは

産業社会学部ソーシャルデザインプログラムは、「社会問題の発見と解決」に関する理論と実践を体系的に学ぶことを目的としています。流動化・複雑化する現代社会は多様な社会問題に直面しており、それらを発見し、解決するためには、現場での経験や知見をふまえた複眼的・批判的な思考が不可欠です。

本プログラムは、社会に主体的に関することで社会問題を発見し、試行錯誤のなかから革新的な解決策を導くことを意味する「ソーシャルデザイン」をキーワードに、社会問題を発見・解決する能力を養うための科目を配置しています。そのなかでも中心となるのは、現代社会における社会問題の特性とその多様な解決方法を多角的に学ぶ「ソーシャルデザイン入門」「ソーシャルデザイン・スタディーズ入門」と、社会問題の解決に向けた実践を、フィールドワークを通じて学ぶ「ソーシャルデザイン・スタディーズ実践」です。これらの中心科目に加えて、関連した科目の履修を通じて、「社会問題の発見と解決」について学びを深めていきます。

本プログラムの修了者は、社会問題を主体的に発見・解決し、新たなビジネスモデルや政策手法を切り拓く人材として、社会の様々な分野で活躍することが期待されます。

2. 履修にあたって

産業社会学部ソーシャルデザインプログラムとして提示している履修モデルに沿って学ぶために、随時実施するプログラムガイダンスに参加してください。ただし、定員は設けず、申請制は採用しないこととし、誰でも幅広く学ぶことができるプログラムとしています。

3. 科目一覧

(1) 履修指定科目

履修推奨時期	配当回生	科目名	単位	備考
1 回生秋学期	1 以上	ソーシャルデザイン入門	2	学部基礎専門科目
2 回生春学期	2 以上	ソーシャルデザイン・スタディーズ入門	2	発展科目
2 回生	2 以上	ソーシャルデザイン・スタディーズ実践	2	発展科目 重複受講可

(2) 履修選択科目

区分		科目名
教養科目		平和人権フィールドスタディ、ソーシャルデザイン論 シチズンシップ・スタディーズ、現代社会のフィールドワーク 地域参加学習入門、学びとキャリア、社会と学ぶ課題解決、 仕事とキャリア
専門科目	現代社会専攻	住民自治論、景観デザイン論、NPO・NGO 論、環境形成論、環境論、 臨床社会学、社会政策論
	メディア社会専攻	コミュニティメディア論、コミュニケーション政策論
	スポーツ社会専攻	地域スポーツ論、スポーツマネジメント論、障害者とスポーツ
	子ども社会専攻	生涯学習論、国際教育援助論
	人間福祉専攻	NPO・NGO 論、臨床社会学、地域福祉論、障害者とスポーツ

4. 履修方法

- ・ソーシャルデザイン入門の配当回生は、1 回生以上です。
- ・ソーシャルデザイン入門は、ソーシャルデザイン・スタディーズ入門、ソーシャルデザイン・スタディーズ実践(2 回生以上対象科目)の先修条件です。ソーシャルデザイン・スタディーズ入門、ソーシャルデザイン・スタディーズ実践を受講するためには、ソーシャルデザイン入門の単位を修得(C 評価以上)している必要があります。
- ・ソーシャルデザイン・スタディーズ入門とソーシャルデザイン・スタディーズ実践は、セットで履修することを推奨しています。ただし、ソーシャルデザイン・スタディーズ実践は、例年3 クラス程度の開講を予定しており、1 クラスあたりの定員は15 名~20 名程度となります。そのため、ソーシャルデザイン・スタディーズ入門の単位を修得した場合でも、受講希望者がクラス定員を超過した際には、ソーシャルデザイン・スタディーズ実践を受講できない可能性があります。その場合は、翌年以降に改めてソーシャルデザイン・スタディーズ実践の受講登録をすることになります。
- ・詳細については、ガイダンスで配布される「要項」を参照してください。

5. 履修モデルの例

本プログラムは、核となる「ソーシャルデザイン入門」、「ソーシャルデザイン・スタディーズ入門」、「ソーシャルデザイン・スタディーズ実践」の各科目について順を追って履修する必要がありますが、履修する回生が指定されているわけでも、連続して受講する必要があるわけでもありません。推奨されるのは1~2 回生での履修ですが、皆さんの学修計画に合わせて履修することができます。以下にいくつかのモデルを挙げますので、参考にしてください。

履修モデル	1 回生	2 回生	3 回生
A	ソーシャルデザイン入門	・ソーシャルデザイン・スタディーズ入門 ・ソーシャルデザイン・スタディーズ実践	※関連するテーマのゼミナールなどを受講する
B	ソーシャルデザイン入門	ソーシャルデザイン・スタディーズ入門	ソーシャルデザイン・スタディーズ実践
C	-	ソーシャルデザイン入門	・ソーシャルデザイン・スタディーズ入門 ・ソーシャルデザイン・スタディーズ実践
適宜、履修選択科目を履修する			

6. プログラム修了の認定

産業社会学部ソーシャルデザインプログラムは、以下の要件を両方とも満たす場合に修了証を授与します。

- ①履修指定科目・履修選択科目より10 単位以上を修得した場合。ただし、履修指定科目(「ソーシャルデザイン入門」、「ソーシャルデザイン・スタディーズ入門」、「ソーシャルデザイン・スタディーズ実践」)の全科目6 単位以上、履修選択科目の教養科目から2 単位以上、専門科目から2 単位以上を必ず修得すること。
- ②「ソーシャルデザイン・スタディーズ実践」の終了時にレポート等を提出し、成果報告会で報告すること。

ただし、最終的に修了要件を満たさなかった場合でも、修得した単位は卒業要件単位には含まれます。

4. ダブルメジャー履修制度

1. ダブルメジャー履修制度について

産業社会学部では、所属専攻以外の専攻 1 つを選択（以下、サブメジャー専攻）し、そのサブメジャー専攻の専門導入科目・専門展開科目を集中的（20 単位以上）に履修した場合、ダブルメジャー修了を認定します。

また、産業社会学部発足以来の理念である「学際的な学び」「複雑な課題を多面的に捉える」を具体化するため、専攻の壁を越えて所属する専攻以外の 4 つの専攻の専門科目を履修できることとしています（クロスオーバー・ラーニング）。

「ダブルメジャー履修制度」は、このクロスオーバー・ラーニングをさらに発展させ、サブメジャー専攻の専門導入科目やゼミナールの受講を可能にし、所属専攻の専門分野と共にサブメジャー専攻の専門分野を集中的に学んでいくことで、現代社会に複眼的な視座と知見で迫っていくことを目指します。

<ダブルメジャー履修の概要>

必要単位数	サブメジャー専攻専門導入科目・専門展開科目 20 単位以上（うち、専門導入科目 2 単位以上）
授与単位数	修得した単位数全て
授与分野	発展科目
授与対象者	2 回生春学期にダブルメジャー履修申請をした学生のみ。
授与方法	上記必要単位数を修得した場合、ダブルメジャー修了を認定し、卒業時に修了証を授与する。 ただし、最終的に 20 単位に満たなかった場合でも、修得した単位は発展科目として授与する。

2. 履修の方法

- ①ダブルメジャー履修希望者は、2 回生春学期の定められた期間内に履修申請してください。サブメジャー専攻は、1 専攻のみ選択できます。
- ②履修が許可されれば、次学期（2 回生秋学期）よりダブルメジャー履修が開始となります。サブメジャー専攻の専門導入科目・専門展開科目 20 単位以上（うち、専門導入科目 2 単位以上）を卒業までに修得できるよう、各自で履修を進めてください。履修許可者は、コア科目を除いたサブメジャー専攻の専門導入科目を履修することができます。
- ③履修を希望する科目は、各自で受講登録してください。専門導入科目についても、ダブルメジャー履修許可者は各自で受講登録が可能です。
- ④所属専攻とサブメジャー専攻で同一科目が専門科目として配置されている場合、所属専攻の専門科目として単位授与されるためサブメジャー専攻専門科目として履修することはできません。
- ⑤サブメジャー専攻専門科目であっても、資格課程履修者のみが履修できる科目など、各専攻が定める以下の科目については履修することはできません。

<履修不可科目>

専 攻	履修できない科目
スポーツ社会専攻	「スポーツ教育論実習Ⅰ～Ⅳ」「スポーツ心理学Ⅲ」「スポーツバイオメカニクス」 ※ただし、教職免許課程「保健体育（中学・高校）」履修者は上記科目を履修可能です。
子ども社会専攻	「教科教育」全科目、「実習」全科目
人間福祉専攻	「社会福祉士実習」全科目

- ⑥ 2 回生秋学期のゼミナール選択の際、ダブルメジャー履修者は自専攻のクラスに加え、サブメジャー専攻のクラスも選択対象とすることができます。どのクラスに所属しても、修得した「ゼミナールⅠ～Ⅳ」および「卒業研究」の単位分野は自専攻の専門展開科目となります（サブメジャー専攻専門科目には含まれません）。

〈その他留意事項〉

- ① 一旦申請したサブメジャー専攻を変更することはできません。
- ② 子ども社会専攻の学生が小学校一種免許状の取得を目指す場合、「教科教育」科目の単位が発展科目分野での授与となるため、卒業に必要な 124 単位の範囲内でサブメジャー専攻専門科目を履修することはできません（124 単位を超えた履修をすることになります）。

ダブルメジャー履修制度の申請方法など、詳細は 2 回生春学期に manaba+R で案内します。

V. 学部横断プログラム

1. 全学副専攻

全学副専攻（外国語コミュニケーションコース）とは

全学副専攻の学修を開始するためには

1. スケジュール・開設コース・募集人数・所属学部によるコース履修の可否

全学副専攻（外国語コミュニケーションコース）は、外国語教育で形成された学力と問題関心をドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語の各外国語分野において、一定のまとまりを持った科目群によって構成される「コース」での学修へと発展させるものです。

学生の皆さんは、各学部で専門分野を専攻し、専門科目を履修します。全学副専攻は、それらの専門科目の履修と併行して、さらに新しい分野、すなわち自己の学部専門分野以外の学問領域についての力量を培っていくために、一定のまとまりを持った科目群を履修していく制度です。

衣笠副専攻は、法学部・産業社会学部・文学部・国際関係学部・映像学部の共通コースとして設置され、共通の問題関心を持つ他学部の学生とともに学ぶ場となっていることから、広い視野を養う条件を生み出します。

全学副専攻の学修は2回生から始まります。ただし1回生時に応募手続きを行い、許可を受けることが必要であり、応募できるのは1回生のみとなります。

全学副専攻の授業は、各学部における外国語科目の学修の積み重ねを前提として行います。したがって、当該言語を履修していることが応募条件となります。ただし、当該言語を現在必修外国語として履修していない学生で、その言語についてこれまでに一定期間の学習経験がある（その言語圏での留学・滞在経験を含む）場合は、個別に応募の可否を判断します（語学力を証明する書類の提出や教員との面談が求められることがあります）。詳細は10月下旬に発行される応募要項で確認してください。

なお、初修外国語・既修者対応プログラム履修者が、その継続学習として既修者対応プログラムで履修している言語について副専攻科目を履修する場合は全学副専攻「特別履修」となりますので、全学副専攻（外国語コミュニケーションコース）は履修できません。詳細は、「初修外国語・既修者対応プログラム」（P.31～）のページを参照してください。

詳細は言語教育センターホームページや、2025年10月頃配布予定の募集要項にて確認してください。応募時期は2025年11月を予定しています。

語種	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語
募集人数（予定）	70名	105名	175名	105名	105名

所属学部等による 応募の可否	法学部	産業社会学部	国際関係学部	文学部
	○	○	○	○

参加予定の プログラム等による 応募の可否	DUDP	産業社会学部 英語副専攻
	×	×

※全学副専攻を履修する場合は、母語のコースは選択できません（留学生含む）。

2. 全学副専攻の学修について

全学副専攻科目は、1 年次配当科目（2 回生以上）と 2 年次配当科目（3 回生以上）によって編成されています。2 回生から履修を開始し、卒業までに必要な単位を修得できるよう計画的、系統的に履修を進めます。全学副専攻科目の登録単位数は、学部で定められている「受講登録上限単位数」に含まれます。

3. 単位未修得の場合

全学副専攻科目では、単位回復科目は設置していません。単位を修得できなかった場合には、次年度同一科目または未履修の別の科目を履修してください。

4. 修得が必要な単位数とその取り扱い

選択したコースに設置されている科目の中から、必要な単位数を修得した場合に限り、卒業に必要な単位として認定されます（産業社会学部では発展科目に認定されます）。

卒業に必要な単位として認定されるに必要な最低修得単位数	卒業に必要な単位として認定される最大単位数
16	20

16 単位以上修得した場合、卒業時に修了証を発行します。

< Intensive Language Workshop（現地で学ぶ初修語セミナー）の単位認定 >

全学副専攻履修開始後に、該当言語に関する海外留学プログラム「Intensive Language Workshop（現地で学ぶ初修語セミナー）」に参加した場合、副専攻の単位「（副）Intensive Language Workshop（現地で学ぶ初修語セミナー）」（2 単位）として認定することができます。ただし、副専攻科目として単位認定するためには、認定を希望する時点で全学副専攻コースの履修を開始している必要があります（したがって、1 回生時に参加した場合は単位認定できません）。また、複数回参加した場合も全学副専攻科目での単位認定は 1 回限りとなります。

海外留学（協定・個別合意）での単位認定

全学副専攻では、該当言語に関する海外留学（協定・個別合意）に参加し、修得した単位について、帰国後の申請により 12 単位を上限に全学副専攻の単位として単位認定することができます。申請は、留学からの帰国後速やかに行ってください。なお、一度確定した単位を遡って「単位認定申請」することはできません。

5. 科目一覧

配当年次	科 目 名	授業開講期間	単位数
1 年次 (2 回生以上配当)	(副) 専門〇〇語 I	春semester	2
	(副) 専門〇〇語 II	秋semester	2
	(副) 専門〇〇語 III	春semester	2
	(副) 専門〇〇語 IV	秋semester	2
	(副) 〇〇語コミュニケーション I	春semester	1
	(副) 〇〇語コミュニケーション II	秋semester	1
2 年次 (3 回生以上配当)	(副) 専門〇〇語 V	春semester	2
	(副) 専門〇〇語 VI	秋semester	2
	(副) 専門〇〇語 VII	春semester	2
	(副) 専門〇〇語 VIII	秋semester	2
	(副) 〇〇語コミュニケーション III	春semester	1
	(副) 〇〇語コミュニケーション IV	秋semester	1
-	Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)	-	2

その他、詳細については、言語教育センターホームページの全学副専攻のページを確認してください。

< 言語教育センターの全学副専攻のホームページ >

(manaba + R の「産業社会学部のページ」→「産業社会学部の履修」→「全学副専攻プログラム」をクリック)

2. 海外留学について

1. 海外留学を計画するにあたって

立命館大学は、「地球市民として活躍できる人間」を目的として、海外に多くの協定校を有し、目的やレベルに応じた多彩な海外留学プログラムを用意しています。立命館大学国際教育センターが主催する全学生が応募可能なプログラムのほか、各学部や教学機関でも独自のプログラムを用意しています。在学中に海外留学を経験することは、皆さんの大学生活を豊かなものとし、また将来の進路選択にとっても大切な機会となります。

2. 海外留学プログラムの種類

限られた大学生活のなかで「海外留学」を成功させるためには、明確な目的意識を持ち、留学中・留学後を見通した学生生活の計画を立てる必要があります。例えば、①目的意識と動機を明確にする、②経費を含めた留学計画の情報を保証人と共有する、③留学に向けた継続的な学修を進める、④帰国後の目標・進路を考える、ことなどです。また、長期の留学では、派遣前の約1年前に募集が行われますので、日々の学修はもちろん、応募条件となる語学検定の受験など、早めの準備を行いましょう。なお、長期留学をする場合は、その時期や履修状況によっては4年間での卒業ができなくなる可能性があります。

	全学募集プログラム	産業社会学部のプログラム
主催	国際教育センター	産業社会学部
対象	全学部学生（一部を除く）	産業社会学部生
区分	留学を通じて「経験したいこと」や「身に付けたい力」の目的・目標に沿ってプログラムを選択し参加できるよう、以下の通り、留学の「ねらい」ごとに海外留学プログラムを類型しています。 〈留学の「ねらい」〉 ①グローバルな体験を通じ世界を知る ②アカデミックな外国語を習得する ③特定の課題について解決策を探る ④世界の地域を深く知る ⑤専門的な内容を外国語で学ぶ	産業社会学部では、国際的な学びの広がりをサポートする、短期海外研修を伴う授業科目を複数開講しています。受講要件や申請方法など、詳細は各科目の募集要項等で確認してください。

*各プログラムの内容・募集時期・実施時期・プログラム内容・単位修得・応募方法・応募条件等の詳細は、各募集要項や海外留学プログラムホームページなどを確認してください。

*上記の留学プログラムには、給付型の奨学金（立命館大学海外留学チャレンジ奨学金）があります。詳細は各プログラムの募集要項を確認してください。

3. 留学中の学籍・留学中に修得した単位の認定等

区 分	学籍状態の概要	単位認定・単位授与
立命館大学の海外留学プログラムを利用して留学する場合	①派遣期間や要件に応じて学籍が「在学」から「留学」となる場合があります。また、実際の派遣期間と学籍上の「留学」期間は一致しない場合があります。（*1） ②学籍上「留学」となる期間は、原則として本学の科目を受講登録できません。一部受講登録を認められる科目がありますので、産業社会学部事務室に相談してください。（*2）	プログラム内容に基づいて、単位認定・単位授与が行われます。詳細は、各プログラムの募集要項で確認してください。（*3）
休学制度を利用して留学する場合（私費留学）（*4）	学籍が「休学」の期間は、在学期間には含まれません。	単位認定は行いません。

*1：「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ. 学籍 11. 留学」を参照してください。

*2：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ. 本学での履修 4. 受講登録（4.1 受講登録とは【留学から帰国した場合の受講登録について】）」を参照してください（ただし、学部共同学位プログラム（DUDP）は除く）。

*3：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ. 本学での履修 6. 成績および単位授与・認定」を参照してください。

*4：休学制度を利用して留学をする場合は、留学先機関の受入許可手続きや渡航に関する手続きをはじめ、自分自身で留学手続きを行います。休学する場合は、「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ. 学籍 9. 休学」を参照して、事前に産業社会学部事務室に相談してください。

4. 大学で得られる海外留学に関する情報について

- ①全学募集プログラムにおいては「海外留学プログラムホームページ」、学部・教学機関プログラムにおいては manaba+R を確認してください。
- ② Beyond Borders Plaza(BBP) では、海外留学に役立つ情報発信や企画を実施しています。詳細は、Beyond Borders Plaza ホームページから確認してください。

<海外留学プログラムホームページ、Beyond Borders Plaza ホームページには以下の QR コードからアクセスできます>

【海外留学プログラムホームページ】



【Beyond Borders Plaza ホームページ】



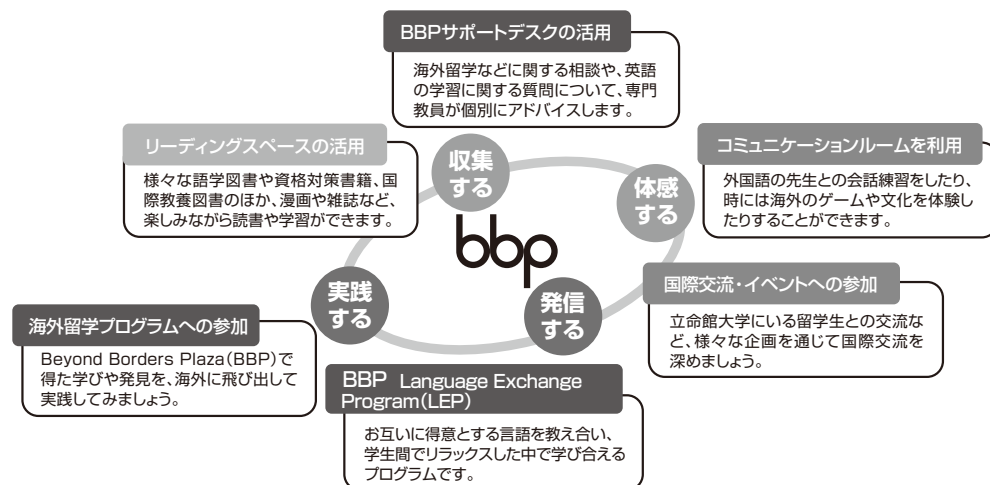
③国際教育センター

- ・「Study Abroad Guide」などのパンフレットを配布しています。
- ・「海外留学フェア」など、海外留学を支援する様々な企画を実施しています。
- ・海外留学に関する相談は「海外留学プログラムホームページ」の「海外留学相談」ページを確認してください。

5. Beyond Borders Plaza (BBP) について

BBP は、国境の壁、文化の壁、言葉の壁、価値観の壁など、様々な Border を超えて繋がりを生み出し、共に学ぶ、国際交流や言語学習をコンセプトにした空間です。学部や回生、国籍、話す言語等に関係なく誰でも利用・活用できます。

BBP では、国際交流企画や言語学習、海外留学に向けた準備を活発に行えるよう、様々な企画や取り組みを実施しています。皆さんも積極的に活用してください。



【WEB サイト】

(manaba + R の「産業社会学部生のページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「外国語での交流の場」をクリック)

<https://www.ritsumeit.ac.jp/bbp/>

【Beyond Borders Plaza (BBP)】

衣笠キャンパス : Beyond Borders Plaza 1・2 階

びわこ・くさつキャンパス : セントラルアーク 2 階

大阪いばらきキャンパス : Beyond Borders Plaza (A 棟 1 階 AN 事務室内)
Room・iCommons・AN4 階 SALL



3. 大学間単位互換制度

1. 大学コンソーシアム京都単位互換制度

大学コンソーシアム京都の単位互換制度とは、京都地域を中心とする他大学の科目を履修し、それを立命館大学の単位として認定する制度です。文化、芸術、政治、経済、自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が提供されており、皆さんの幅広い関心と興味に応じて、本学にはない分野の科目を学ぶことが可能です。

(1) 主なスケジュール

- ・ 出願の詳細発表（3月下旬）：manaba+Rにて案内します。
※出願・受講にあたっての説明も公開するため、必ず確認のこと
- ・ 履修希望科目の出願（4月上旬のみ＜追加募集なし＞）：指定のWEB上から、毎年度合計2科目まで出願可
- ・ 履修許可発表（4月下旬）：manaba+Rで発表、履修許可された科目は受講登録上限外で登録
- ・ 科目開設大学への履修手続き（受講許可後、各大学の指示に従うこと）
- ・ 科目開設大学での履修／試験・レポート提出等（各大学の学年暦、開講日程、時間割に従うこと）
※本学の定期試験と他大学の試験や授業（夏集中科目を除く）が重複した場合は、本学追試験の受験が可能。
- ・ 成績発表（3月上旬）：CAMPUS WEB（manaba+Rからログイン）に掲載

(2) 単位認定

- ・ 認定時期：秋学期
- ・ 認定される分野：教養科目（学際総合科目（E群））
- ・ 認定される科目名：「単位互換科目」「単位互換科目（遠隔授業）」
- ・ 評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

2. 立命館アジア太平洋大学（APU）交流学生プログラム

このプログラムでは、立命館大学に所属しながら、立命館アジア太平洋大学（以下、APU）の科目を履修することができます。具体的には、以下の2つの交流プログラムを提供しています。

(1) 交流学生プログラム

①制度の概要

半年（春学期／秋学期）または1年間、「特別聴講学生」として、APUの授業科目を受講できるプログラムです。

②主なスケジュール

- ・ 10月頃／4月頃 募集ガイダンス
- ・ 11月／5月頃 交流プログラムへの出願
- ・ 12月／7月頃 履修者許可発表および許可者ガイダンス
- ・ 3月下旬／9月中旬頃 出発
- ・ 4月／9月下旬頃 APUで履修開始

③単位認定

- ・ 認定時期：プログラム終了日を含む学期の末日
- ・ 認定される区分：産業社会学部の指定による
- ・ 認定評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

(2) サマーセッションプログラム

①制度の概要

APUのサマーセッション（夏集中講義）科目を受講できるプログラムです。

受講期間は立命館大学の定期試験日程と一部重複しています。重複により定期試験・追試験が受験できなかった場合でも、配慮は行いません。

②主なスケジュール

- ・ 6月頃 履修科目の出願（指定のWEB上から毎年度1科目出願可）
- ・ 7月中旬頃 履修許可発表およびガイダンス
- ・ 8月上旬頃 APUのサマーセッション（夏集中講義）科目受講期間
- ・ 9月中旬頃 APUで成績発表
- ・ 9月下旬頃 本学で単位認定

③単位認定

- ・ 認定時期：春学期
- ・ 認定される区分：産業社会学部の指定による
- ・ 認定評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

(3) 詳細情報の入手について

募集ガイドや具体的な応募方法、受講にあたっての詳細は、manaba+RおよびAPU交流プログラムサイトにて案内します。

4. 他学部受講

他学部受講制度は、総合大学の長所を活かして、学生の多様な興味・関心に応えられるように、産業社会学部以外の学部で開設している専門科目を受講することができる制度です。

この制度により受講できるのは、授業開設学部が他学部受講科目として指定している科目に限られます。

1. 受講資格

3 回生以上

※一部 2 回生以上配当科目があります。

対象科目は他学部受講時間割表を参照のこと。

2. 履修方法

・他学部受講ができる科目の一覧、時間割、授業コードは別途 manaba+R で案内します。

・授業内容については、シラバスを確認してください。

・他学部受講科目は本登録科目と抽選科目に分類されます。受講登録は産業社会学部で開講する本登録科目や抽選科目と同様に、各受講登録期間内に CAMPUS WEB（manaba+R からログイン）で各自行います。

※一部科目については事務室窓口で受け付けるものもあります。

3. 修得できる単位数

他学部受講制度により修得した単位は、20 単位を上限に卒業に必要な単位に算入されます（「発展科目」として算入）。

VI. 資格取得・キャリア形成

1. 教職課程（現代社会専攻・メディア社会専攻・スポーツ社会専攻・人間福祉専攻）

1. 教職課程を学ぶにあたって

本学では、「自由と清新」を建学の精神とし、「平和と民主主義」を教学理念とする大学の学びを基礎とし、総合大学としての高度な専門性と多様性を生かすことによって教師教育（教員養成）を行ってきました。この建学の精神及び教学理念で目指してきたものは、確かな学力と深い人間理解のもと、子供の未来を信じ、正義と倫理をもった地球市民として教育活動を行う個性豊かな教師の養成です。

本学の教職課程において養成を目指す教師像は、具体的に表現すると、以下の6つの力を身につけた教師です。

①授業力

（確かな学力のもと、深い授業観を持ち、授業を遂行する）

②児童生徒理解力

（児童生徒を理解し児童生徒と関る）

③教師としてのコミュニケーション力

（学校における多様なコミュニケーションを行う）

④教師としてのマネジメント力

（学校における各種マネジメントを行う）

⑤教師としての自己形成力

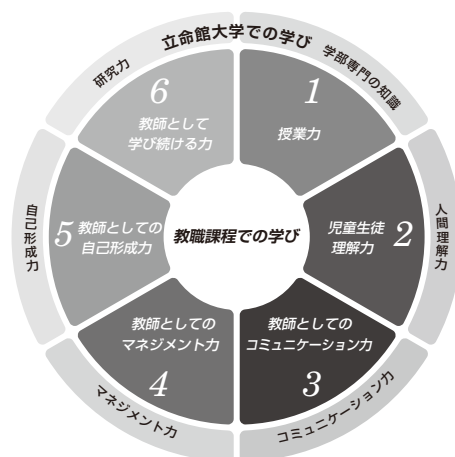
（教職に関する深い知識や倫理を身につける）

⑥教師として学び続ける力

（学校教育をめぐる問題を解決するために学び続ける）

これらの力は、立命館の学部教学において身につけられる、深い教養、教科専門知識と研究遂行力、平和と民主主義への志向、国際志向、そして各学部のディプロマポリシーに基づく資質能力が支えることによって、より豊かなものとなります。

本学では課程認定を受けた8学部において教職課程を設置しており、教職を希望する皆さんは、所属学部に設置されている教職課程を履修することができます。定められた教職課程科目を履修・単位修得すれば、各都道府県教育委員会への申請によって教員免許状を取得することができます。ただし、履修すべき教職課程科目の多くは、各学部での卒業に必要な単位とは別に修得しなければなりません。単に免許状取得だけを目的にしたような安易な気持ちでの教職課程の履修は、卒業時に希望していた教員免許状の取得ができないのみならず、学部科目の履修計画を困難にすることもありますので、しっかりとした目的意識をもって履修することが必要となります。



2. 教職課程履修計画

本学の教職課程は、1 回生から 4 回生までの 4 年間で基本としたカリキュラム構成となっています。したがって、原則として 1 回生から履修を開始し、必要な科目を配当回生にそって 4 年間をかけて段階的・計画的に履修していく必要があります。例えば 2 回生以降に履修を開始した場合や、留学や休学などで履修を一時中断した場合などは、4 回生での卒業と同時に履修を終えることができるとは限りません。

また、教員免許状を取得するためには、教職課程科目の履修に加えて、教職課程に関する諸行事（ガイダンス・オリエンテーションなど）に必ず出席するとともに、大学が定めた所定の手続き（「教職自己分析シート」の提出、教育実習や介護等体験などの各種手続き）も行わなければなりません。諸行事への遅刻・無断欠席や所定期日内の手続き未了の場合には、その履修や実習への参加を認めません。

3. 「教職自己分析シート」

教育職員免許法施行規則において、皆さんの教職課程における学びの履歴を把握し、それを踏まえた指導を行うことによって不足している知識や技術等を補うため、教員による「履修カルテ」を用いた指導が求められています。本学では、この「履修カルテ」のことを「教職自己分析シート」と呼んでいます。

1 回生での履修を終えた段階から、毎年「教職自己分析シート」を作成していきます。提出方法や提出期日等詳細は、2 回生春学期に行われる教職課程ガイダンスや「(教) 学校教育総合演習」、「(教) 教育実習事前指導」および「(教) 教職実践演習 (中・高)」を通じて説明します。なお、「教職自己分析シート」の作成・提出は、必修科目（「(教) 学校教育総合演習」「(教) 教育実習事前指導」「(教) 教職実践演習 (中・高)」）の履修や単位修得の要件になっています。

4. 産業社会学部で取得できる教員免許状の種類

下表は、産業社会学部が文部科学大臣より認定を受けている課程です。

なお、教員免許状は、免許状取得有資格者本人からの申請に基づき、授与権者である都道府県教育委員会が授与します。授与された免許状は、全国の都道府県において効力を有します。

学部・学科・専攻		免許状の種類・教科
産業社会学部 現代社会学科	現代社会専攻	中学校教諭一種免許状 社会・保健体育 高等学校教諭一種免許状 地理歴史・公民・保健体育 特別支援学校教諭一種免許状*
	メディア社会専攻	
	スポーツ社会専攻	
	人間福祉専攻	
	子ども社会専攻	小学校教諭一種免許状

※特別支援学校で教育できる領域は、知的障害者・肢体不自由者・病弱者の 3 領域です。視覚障害者と聴覚障害者に関する教育領域は設置していません。

小学校教諭免許状取得プログラム

2013 年度より、佛教大学通信教育課程と連携した「小学校教諭免許状取得プログラム（佛教大学協定方式）」が開設されました。このプログラムにより、産業社会学部子ども社会専攻以外の学生でも、産業社会学部の教職課程（中学校教諭一種免許状）を修得することを条件として、小学校教諭一種免許状を取得することが可能となります。応募要件・プログラム内容等詳細は、1, 2 回生の 11 月頃に実施するガイダンスで説明します。

5. 教員免許状の授与手続き

教員免許状は、免許状を取得するための所要資格を有する本人からの申請に基づき、授与権者である都道府県教育委員会が授与します。授与された免許状は、全国の都道府県において効力を有します。

産業社会学部では、免許状に必要な単位を修得し、卒業時に免許状を必要とする方を対象に、京都府教育委員会に一括申請（大学による代理申請）を行っています（年度末の卒業生のみ）。自身の所属する専攻が認定を受けている課程に応じた免許状の種類・教科が、一括申請の対象となります。それ以外の免許状については、個人で各都道府県の教育委員会へ申請を行う必要があります。

6. 教員採用試験受験にあたって（教職支援センターの利用について）

教員になるには、教員免許状を取得するとともに、各都道府県等の実施する教員採用試験に合格しなければなりません。本学では、教職支援センターを設置し、教員志望者に対する対策講座の開講や、情報資料・参考書等を豊富に揃えており、教員採用に関する具体的な相談・指導助言に応じています。教員志望の人はできるだけ早い段階から積極的に利用してください。

●「教職支援センター」ホームページ

立命館大学教職支援センター



検索

<https://www.ritsumeai.ac.jp/kyoshoku/>

『教職課程における学びの流れ』

教育職員免許法施行規則に規定する科目		1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生	
第66条の6に規定する科目	日本国憲法	2	2	教職課程科目の履修開始 (2回生以上配当科目)					
	体育	2	2						
	外国語コミュニケーション	2	2						
	教理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	2						
	教育の基礎的理解に関する科目	31	27			「20単位要件」※1	（教）教育実習事前指導 ＜秋学期＞	（教）教育実習Ⅰ・Ⅱ（事後指導を含む） ※受講要件：受講年度の開始時点で、卒業見込みおよび教員免許状取得見込み、かつ実習校や教育委員会との手続きが完了していること	（教）教職実践演習（中・高） ＜秋学期＞ ※受講要件：受講年度の開始時点で、卒業見込みおよび教員免許状取得見込みであること
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目									
教育実践に関する科目									
教科及び教職に関する科目	社会30 保健28	24							
大学が独自に設定する科目	4	8			「20単位要件」※1 ＋ 受講要件 ※2	（教）学校教育総合演習 ＜春学期＞ ※受講要件：受講前年度までに「教職自己分析シート1」を提出済であること	（教）学校教育総合演習 ＜春学期＞ ※受講要件：原則受講前年度に「（教）介護等体験（事前指導）」の単位を修得していること		
「教職自己分析シート」				「教職自己分析シート1」の提出 ＜春学期＞ ※翌年度に「（教）学校教育総合演習」を受講するための要件			「教職自己分析シート2」の提出 ＜春学期＞ ※「（教）学校教育総合演習」単位修得の要件	「教職自己分析シート3」の提出 ＜秋学期＞ ※「（教）教育実習事前指導」単位修得の要件	「教職自己分析シート4」の提出 ＜秋学期＞ ※「（教）教職実践演習（中・高）」単位修得の要件

※1 1・2回生以上配当の教職基礎科目のうち、指定の科目を20単位以上修得していない場合は、3回生以上配当の「教職基礎科目」、「教職発展科目」を受講できません。詳細はP.84を参照してください。

※2 「(教)学校教育総合演習」を受講するには「教職自己分析シート」の提出が必要です。

※3 「(教)教育実習ⅠまたはⅡ(事後指導を含む)」、「(教)教職実践演習(中・高)」を受講するには要件があります。「(教)教育実習ⅠまたはⅡ(事後指導を含む)」の受講要件の詳細は、後掲の「(教)教育実習ⅠまたはⅡ(事後指導を含む)」の受講資格を確認してください。

7. 教員免許状取得の基礎資格および必要単位

「教育職員免許法」および「教育職員免許法施行規則」により教員免許状の取得に必要な基礎資格と必要単位数が定められています。基礎資格とは、各自が所属する学部において卒業に必要な単位を修得し、学士の学位を取得することです。免許状の種類毎の必要単位数は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」、「教科及び教職に関する科目」を各自の入学年度に応じた科目表にしたがって修得する必要があります。また、小学校・中学校教諭免許状の取得には、法律で定められた「介護等体験」の受講が必要です。

本学における教員免許状の取得に必要な基礎資格と免許状の種類ごとの必要単位数は下表の通りです。法定上の必要単位数はこれとは一部異なります。

(1) 基礎資格と必要単位

① 基礎資格

卒業に必要な単位を修得し、学士の学位を取得すること。

② 中学校教諭一種免許状の必要単位

必要単位	免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目				教科及び教職に関する科目					合計	
	日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	教諭の教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する科目			大学が独自に設定する科目
					教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	教科に関する専門的事項	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		
本学が定める最低修得単位数	2	2	2	2	12	12	7	社会 22 保健体育 20	8	4	社会 73 保健体育 71
<参考> 免許法施行規則に定める最低修得単位数	2	2	2	2	10	10	7	28		4	67

③ 高等学校教諭一種免許状の必要単位

必要単位	免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目				教科及び教職に関する科目						合計
	日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	教諭の教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する科目		大学が独自に設定する科目	
					教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	教科に関する専門的事項	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		
本学が定める最低修得単位数	2	2	2	2	12	10	5	20	4	8	67
<参考> 免許法施行規則に定める最低修得単位数	2	2	2	2	10	8	5	24		12	67

④ 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」のそれぞれ定められた最低修得単位数を超えて修得した単位数(余剰分)は、「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができます。

④特別支援学校教諭一種免許状の基礎資格と必要単位

基礎資格	必要単位	特別支援教育に関する科目						合計
		特別支援教育の基礎理論に関する科目	特別支援教育領域に関する科目		免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	
			心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		
学士の学位を有すること及び、小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。	本学が定める最低修得単位数	2	6	10	6		3	27
	<参考> 免許法施行規則に定める最低修得単位数	2	16		5		3	26

(2) 教職基礎科目と教職発展科目（本学における科目区分）

教育職員免許法施行規則における「教諭の教育の基礎的理解に関する科目等」、「各教科の指導法」および「大学が独自に設定する科目」は、本学では「教職基礎科目」と「教職発展科目」という区分を設け、科目を設置しています。

① 教職基礎科目

教員免許状の取得に必要な科目であり、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の必修科目（中一種免 31 単位・高一種免 27 単位）、「各教科の指導法」の「(教) ○○授業発展演習」以外の科目、および「大学が独自に設定する科目」の「(教) 学校教育総合演習」（2 単位）、「(教) 介護等体験（事前指導）」（1 単位）、「(教) 介護等体験実習」（1 単位）を指します。全て卒業要件には含まれない科目です。

② 教職発展科目

教員免許状の取得上は全て選択科目ですが、将来、教員採用試験の受験や教育系大学院への進学など、「進路としての教職」に強い意欲と目標を持つ皆さんにとっては重要な科目です。教員免許状の取得に必要な教職基礎科目の履修・単位修得を踏まえ、さらにより広く、深く学ぶ意欲を持つ皆さんが受講する科目です。全て 3 回生以上配当で、これらの科目の修得単位は、6 単位を上限に発展科目として卒業に必要な単位に含めることができ、受講登録上限単位数に含みます。なお、「各教科の指導法」の科目のうち「(教) ○○授業発展演習」は、教職発展科目です。

(3) 3 回生以上配当科目を受講するための「20 単位要件」について

以下①～③の科目を受講するためには、下表の 1・2 回生以上配当科目のうち、20 単位以上修得していなければなりません。

①「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」の 3 回生以上配当科目

②「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「各教科の指導法」の 3 回生以上配当科目

③「大学が独自に設定する科目」の 3 回生以上配当科目

「20 単位要件」科目名 以下「(教) 介護等体験（事前指導）」のみ 1 単位科目、他科目は全て 2 単位科目		
共通科目		(教) 教育原理
		(教) 教職概論
		(教) 教育社会学
		(教) 教育心理学
		(教) 特別支援教育概論
		(教) 教育課程論
		(教) 道徳教育の理論と方法（中学校必修）
		(教) 特別活動の理論と方法
		(教) 教育方法論（ICT 活用を含む）
		(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法
		(教) 教育相談の理論と方法
		(教) 介護等体験（事前指導）（中学校履修指定）
免許状の種類・教科ごとの科目	中学（社会）	・(教) 社会科・地理歴史科教育概論 ・(教) 社会科・公民科教育概論
	高校（地理歴史）	・(教) 社会科・地理歴史科教育概論
	高校（公民）	・(教) 社会科・公民科教育概論
	中学（保健体育） 高校（保健体育）	・(教) 保健体育科教育概論 ・(教) 保健体育科指導法 I

8. 「教育職員免許法
施行規則第66条の
6に定める科目」
の履修

教育職員免許法施行規則 第66条の6		産業社会学部で修得すべき科目	
科目	単位数	科目名	履修区分
日本国憲法	2	日本国憲法	必修
体育	2	中学（社会）	2単位 選択必修
		高校（地理歴史）	
		高校（公民）	
		スポーツと現代社会	
		スポーツのサイエンス	
		スポーツ方法実習Ⅰ	
外国語 コミュニケーション ※いずれの言語について も、単位回復科目は該 当しません。 ※〇〇語はドイツ語・フ ランス語・中国語・ス ペイン語・朝鮮語のい ずれかが該当します。	2	中学（保健体育）	2単位 選択必修
		高校（保健体育）	
		スポーツと現代社会	
		スポーツのサイエンス	
		英語Ⅰ	
		英語Ⅱ	
		英語Ⅲ	2単位 選択必修
		英語Ⅳ	
		〇〇語・基礎	
		〇〇語・展開	
		〇〇語・表現Ⅰ	
		〇〇語・表現Ⅱ	
		〇〇語中級コミュニケーションⅠ	
		〇〇語中級コミュニケーションⅡ	
		〇〇語中級表現読解Ⅰ	
		〇〇語中級表現読解Ⅱ	
		〇〇語中級表現読解Ⅲ	
		〇〇語中級表現読解Ⅳ	
		〇〇語中級表現読解Ⅴ	
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	2単位 選択必修
		情報リテラシーⅡ	
		社会統計学	
		社会調査情報処理	
		計量社会学	

I. 産業社会学部の
人材育成目的・教育目標

II. 産業社会学部での履修

III. ゼミナール・
卒業研究

IV. 産業社会学部の
特色ある学び

V. 学部横断
プログラム

VI. 資格取得・
キャリア形成

VII. 正課学修の
援助制度

VIII. ハラスメント
の防止

IX. マカリキュラム

9. 「教諭の教育の基礎的理解に関する科目等」の履修

「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の履修

3 回生以上配当の「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」を履修するためには、P.84 の 20 単位要件を満たしている必要があります。

教育職員免許法施行規則に規定する科目			産業社会学部で修得すべき科目									
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	教職基礎科目				教職発展科目				最低必要単位数	
			科目名	履修区分	配当回生	単位数	科目名	履修区分	配当回生	単位数		
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	10	(教)教育原理	必修	1 以上	2					2	12
			(教)教職概論	必修	1 以上	2					2	
			(教)教育社会学	必修	1 以上	2	(教)教育制度論	選択	3 以上	2	2	
			(教)教育心理学	必修	1 以上	2	(教)児童・生徒理解の心理学	選択	3 以上	2	2	
			(教)特別支援教育概論	必修	1 以上	2					2	
			(教)教育課程論	必修	2 以上	2					2	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目等	中学 10 高校 8	(教)道徳教育の理論と方法	中学必修	2 以上	2	(教)道徳授業発展演習	中学選択	3 以上	2	中学 2	中学 12 高校 10
			(教)総合的な学習の時間の理論と方法	必修	3 以上	2					2	
			(教)特別活動の理論と方法	必修	2 以上	2					2	
			(教)教育方法論(ICT活用を含む)	必修	2 以上	2					2	
			(教)生徒指導・進路指導の理論と方法	必修	2 以上	2					2	
			(教)教育相談の理論と方法	必修	2 以上	2	(教)教育相談の実践	選択	3 以上	2	2	
	教育実践に関する科目	中学 5 高校 3	(教)教育実習事前指導(注1)	必修	3 以上	1					中学 5 高校 3	中学 7 高校 5
			(教)教育実習Ⅰ(事後指導を含む)	中学 4 単位、高校 2 単位以上、選択必修(注2)	4 以上	2						
			(教)教育実習Ⅱ(事後指導を含む)		4 以上	4						
	教職実践演習	2	(教)教職実践演習(中・高)	必修	4 以上	2					2	

(注 1) 「(教)教育実習事前指導」は、大学における事前指導をその内容としているため、教育実習を履修する前年度に履修し、その単位を修得しなければなりません。

(注 2) 中学校教諭一種免許状のみ、または中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状の両方を取得する人は「(教)教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」(4 単位)を履修してください。
高等学校教諭一種免許状のみを取得する人は「(教)教育実習Ⅰ(事後指導を含む)」(2 単位)を履修してください。ただし、高等学校で 3 週間実習を行う人は「(教)教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」(4 単位)を履修してください。

10. 「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修

中学校一種免許状（社会）

教育職員免許法施行規則に規定する科目			産業社会学部で修得すべき科目										
科目		各科目に含めること が必要な事項	単位 数	科目名		履修区分	配当回生	単位 数	最低必要単位数				
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	1	☆日本史Ⅰ		必修	2以上	2	8	22	30		
				☆日本史Ⅱ		必修	2以上	2					
				☆外国史Ⅰ		必修	2以上	2					
				☆外国史Ⅱ		必修	2以上	2					
				社会学史		選択	1以上	2					
		地理学（地誌を含む。）	1	★人文地理学概論		必修	2以上	2	8				
				★自然地理学概論		必修	2以上	2					
				★地理学		必修	2以上	2					
				☆地誌学		必修	2以上	2					
				アジア文化論		選択	2以上	2					
				エスニシティ論		選択	2以上	2					
				環境形成論		選択	2以上	2					
				環境論		選択	2以上	2					
				景観デザイン論		選択	2以上	2					
				社会調査論		選択	1以上	2					
				地域社会論		選択	1以上	2					
				都市論		選択	2以上	2					
				国際社会経済学		選択	2以上	2					
				資源エネルギー論		選択	2以上	2					
		「法律学、政治学」	1	☆政治学		必修	2以上	2	2				
				現代政治論		選択	1以上	2					
				比較政治論		選択	2以上	2					
				住民自治論		選択	2以上	2					
		「社会学、経済学」	1	☆社会学の基礎		必修	2以上	2	2				
				社会経済学		選択	1以上	2					
				社会学理論		選択	1以上	2					
				企業社会論		選択	2以上	2					
				現代経済論		選択	2以上	2					
				社会政策論		選択	2以上	2					
				産業社会学		選択	1以上	2					
				社会階層論		選択	2以上	2					
				社会思想		選択	2以上	2					
				社会病理学		選択	2以上	2					
				社会文化論		選択	2以上	2					
				多文化共生論		選択	1以上	2					
				日本経済論		選択	2以上	2					
				労働社会学		選択	2以上	2					
				NPO・NGO論		選択	2以上	2					
				ジャーナリズム論		選択	2以上	2					
		「哲学、倫理学、宗教学」	1	☆哲学		2単位以上	2以上	2	2				
				☆倫理学		選択必修	2以上	2					
				比較宗教論		選択	2以上	2					
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			8	教職基礎科目	（教）社会科・地理歴史科教育概論		必修	2以上	2		8	8
	（教）社会科・公民科教育概論	必修	2以上		2								
	（教）社会科・地理歴史科授業法	必修	3以上		2								
	（教）社会科・公民科授業法	必修	3以上		2								
	教職発展科目	（教）中等社会系授業発展演習			選択	3以上	2						

☆履修するには「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、1回生以上配当科目を1科目以上修得している必要があります。

★他学部受講制度を利用して、2回生以上で履修します。また、履修するには「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、1回生以上配当科目を1科目以上修得している必要があります。

高等学校一種免許状（地理歴史）

免許法施行規則に規定する科目			産業社会学部で修得すべき科目								
科目		各科目に含めること が必要な事項	単位 数	科目名		履修区分	配当回生	単位数	最低必要単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史	1	☆日本史Ⅰ		必修	2 以上	2	4	20	24
				☆日本史Ⅱ		必修	2 以上	2			
		外国史	1	☆外国史Ⅰ		必修	2 以上	2	4		
				☆外国史Ⅱ		必修	2 以上	2			
				社会学史		選択	1 以上	2			
				★人文地理学概論		必修	2 以上	2			
		人文地理学・ 自然地理学	1	★自然地理学概論		必修	2 以上	2	6		
				★地理学		必修	2 以上	2			
				エスニシティ論		選択	2 以上	2			
				環境形成論		選択	2 以上	2			
				環境論		選択	2 以上	2			
				景観デザイン論		選択	2 以上	2			
				社会調査論		選択	1 以上	2			
				地域社会論		選択	1 以上	2			
				都市論		選択	2 以上	2			
				国際社会経済学		選択	2 以上	2			
				資源エネルギー論		選択	2 以上	2			
		地誌	1	☆地誌学		必修	2 以上	2	2		
				アジア文化論		選択	2 以上	2			
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		4	教職基礎科目	(教) 社会科・地理歴史科教育概論		必修	2 以上	2	4	4
					(教) 社会科・地理歴史科授業法		必修	3 以上	2		

☆履修するには「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、1回生以上配当科目を1科目以上修得している必要があります。

★他学部受講制度を利用して、2回生以上で履修します。また、履修するには「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、1回生以上配当科目を1科目以上修得している必要があります。

高等学校一種免許状（公民）

免許法施行規則に規定する科目			産業社会学部で修得すべき科目									
科目		各科目に含めること が必要な事項	単位 数	科目名		履修区分	配当回生	単位数	最低必要単位数			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	「法律学 (国際法を含む。)、 政治学 (国際政治を含む。)」	1	☆政治学		必修	2 以上	2	2	20	24	
				現代政治論		選択	1 以上	2				
				住民自治論		選択	2 以上	2				
				比較政治論		選択	2 以上	2				
		「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」		1	☆社会学の基礎		必修	2 以上	2			2
					社会経済学		選択	1 以上	2			
					社会学理論		選択	1 以上	2			
					NPO・NGO論		選択	2 以上	2			
					企業社会論		選択	2 以上	2			
					現代経済論		選択	2 以上	2			
					社会政策論		選択	2 以上	2			
					産業社会学		選択	1 以上	2			
					社会階層論		選択	2 以上	2			
					社会思想		選択	2 以上	2			
					社会病理学		選択	2 以上	2			
					社会文化論		選択	2 以上	2			
					多文化共生論		選択	1 以上	2			
					日本経済論		選択	2 以上	2			
					労働社会学		選択	2 以上	2			
					ジャーナリズム論		選択	2 以上	2			
		「哲学、倫理学、 宗教学、心理学」		1	☆哲学		2 単位以上	2 以上	2			2
					☆倫理学		選択必修	2 以上	2			
					比較宗教論		選択	2 以上	2			
	各教科の指導法（情報通信 技術の活用を含む。）		4	教職 基礎 科目	(教) 社会科・公民科教育概論		必修	2 以上	2	4	4	
					(教) 社会科・公民科授業法		必修	3 以上	2			

☆履修するには「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、1回生以上配当科目を1科目以上修得している必要があります。

中学校一種免許状（保健体育）

免許法施行規則に規定する科目			産業社会学部で修得すべき科目									
科目		各科目に含めること が必要な事項	単位 数	科目名		履修区分	配当回生	単位数	最低必要単位数			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	体育実技（注 1）	1	スポーツ教育論実習Ⅰ	器械運動	1 単位以上 選択必修	2 以上	1	1	20	28	
				スポーツ教育論実習Ⅱ	ダンス		2 以上	1				
				スポーツ教育論実習Ⅲ	水泳		2 以上	1				
				スポーツ教育論実習Ⅳ	球技		2 以上	1				
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	1	スポーツバイオメカニクス	必修	2 以上	2	4				
				スポーツ文化論	2 単位以上 選択必修	2 以上	2					
				スポーツ社会学		2 以上	2					
				スポーツマネジメント論		2 以上	2					
				スポーツ心理学Ⅲ			2 以上		2			
				ウエルネス論	選択	1 以上	2					
				スポーツ行政論	選択	2 以上	2					
				スポーツ史	選択	1 以上	2					
				スポーツ政策論	選択	2 以上	2					
				スポーツ変動論	選択	2 以上	2					
				スポーツボランティア論	選択	2 以上	2					
				地域スポーツ論	選択	2 以上	2					
		ヘルスマネジメント論	選択	2 以上	2							
		生理学（運動生理学を含む。）	1	生理学	必修	2 以上	2	2				
		衛生学・公衆衛生学	1	衛生学	必修	2 以上	2	2				
		学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	1	学校保健	必修	2 以上	2	4				
				精神障害リハビリテーション論	必修	2 以上	2					
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	8	教職基礎科目	（教）保健体育科教育概論	必修	2 以上	2	8			8
					（教）保健体育科授業法	必修	3 以上	2				
					（教）保健体育科指導法Ⅰ	必修	2 以上	2				
					（教）保健体育科指導法Ⅱ	必修	3 以上	2				
				教職発展科目	（教）保健体育科授業発展演習	選択	3 以上	2				

（注 1） 体育実技（スポーツ教育論実習）について

- 体育実技科目の最低必要単位数は 1 単位（選択必修）ですが、できる限り「スポーツ教育論実習Ⅰ～Ⅳ」の 4 科目全てを履修してください。
- 教育実習までに、最低 1 科目は履修するようにしてください。教員になれば、全ての種目を指導することが求められるため、自分の苦手な種目を積極的に受講してください。特に、水泳の授業では生命に関する泳法指導や応急処置を学びます。

高等学校一種免許状（保健体育）

免許法施行規則に規定する科目			産業社会学部で修得すべき科目										
科目		各科目に含めること が必要な事項	単位 数	科目名		履修区分	配当回生	単位数	最低必要単位数				
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	体育実技（注 1）	1	スポーツ教育論実習Ⅰ	器械運動	1 単位以上 選択必修	2 以上	1	1	20	24		
				スポーツ教育論実習Ⅱ	ダンス		2 以上	1					
				スポーツ教育論実習Ⅲ	水泳		2 以上	1					
				スポーツ教育論実習Ⅳ	球技		2 以上	1					
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	1	スポーツバイオメカニクス		必修	2 以上	2	4				
				スポーツ文化論		2 単位以上 選択必修	2 以上	2					
				スポーツ社会学			2 以上	2					
				スポーツマネジメント論			2 以上	2					
				スポーツ心理学Ⅲ			2 以上	2					
				ウエルネス論		選択	1 以上	2					
				スポーツ行政論		選択	2 以上	2					
				スポーツ史		選択	1 以上	2					
				スポーツ政策論		選択	2 以上	2					
				スポーツ変動論		選択	2 以上	2					
				スポーツボランティア論		選択	2 以上	2					
				地域スポーツ論		選択	2 以上	2					
		ヘルスマネジメント論		選択	2 以上	2							
		生理学（運動生理学を含む。）	1	生理学	必修	2 以上	2	2					
		衛生学・公衆衛生学	1	衛生学	必修	2 以上	2	2					
		学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	1	学校保健	必修	2 以上	2	4					
				精神障害リハビリテーション論	必修	2 以上	2						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	4	教職基礎科目	（教）保健体育科教育概論		必修	2 以上	2			4	4
					（教）保健体育科授業法		必修	3 以上	2				
					（教）保健体育科指導法Ⅰ		選択	2 以上	2				
					（教）保健体育科指導法Ⅱ		選択	3 以上	2				
				教職発展科目	（教）保健体育科授業発展演習		選択	3 以上	2				

（注 1） 体育実技（スポーツ教育論実習）について

- 体育実技科目の最低必要単位数は 1 単位（選択必修）ですが、できる限り「スポーツ教育論実習Ⅰ～Ⅳ」の 4 科目全てを履修してください。
- 教育実習までに、最低 1 科目は履修するようにしてください。教員になれば、全ての種目を指導することが求められるため、自分の苦手な種目を積極的に受講してください。特に、水泳の授業では生命に関する泳法指導や応急処置を学びます。

11. 「特別支援教育に関する科目」の履修

特別支援学校一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）

免許法施行規則に規定する科目			産業社会学部で修得すべき科目							
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	科目名	履修区分	配当回生	単位数	必要単位数			
特別支援教育の基礎理論に関する科目		2	特別支援教育論	必修	2 以上	2	2	27		
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	16	(教) 知的障害者の心理・生理・病理	必修	2 以上	2	16			
			(教) 肢体不自由者の心理・生理・病理	必修	2 以上	2				
			(教) 病弱者の心理・生理・病理	必修	2 以上	2				
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		(教) 知的障害教育	必修	2 以上	2				
			(教) 知的障害教育課程論Ⅰ	必修	2 以上	2				
			(教) 知的障害教育課程論Ⅱ	必修	2 以上	2				
			(教) 肢体不自由教育	必修	2 以上	2				
			(教) 病弱教育	必修	2 以上	2				
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	5	発達障害論	必修	2 以上	2	6			
			心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		障害者教育・福祉論	必修			2 以上	2
					障害者とコミュニケーション	必修			2 以上	2
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習		3	(教) 特別支援教育実習（事前・事後指導を含む）（注 1）	必修	4 以上	3	3			

（注 1）「(教) 特別支援教育実習」の受講資格

- ① 「(教) 特別支援教育実習」受講年度の開始時点で、卒業見込みおよび特別支援学校教諭一種免許状の取得見込みであること。
- ② 実習受入校や教育委員会との手続きなどが全て完了していること。

特別支援学校教諭一種免許状の取得見込みとは、「(教) 知的障害教育課程論Ⅰ」・「(教) 知的障害教育課程論Ⅱ」両方の単位を修得しており、基礎資格として必要な免許状を取得済み、もしくは取得見込みがあること。

12. 「大学が独自に設定する科目」の履修

以下の一覧表にある科目の単位を修得した場合は、「大学が独自に設定する科目」として充当することができます。

ただし、3 回生以上配当の「大学が独自に設定する科目」を履修するためには、P.84 の 20 単位要件を満たしている必要があります。

(1) 「大学が独自に設定する科目」一覧表

免許法施行規則に規定する科目		産業社会学部で修得すべき科目							
科目	単位数	本学 科目 区分	科目名	履修区分	免許状校種	配当 回生	単位 数	備考	最低必要単 位数
大学が独自に設定する科目	中学 4 高校 12	教職 基礎 科目	(教) 学校教育総合演習	必修	中・高 一種	3 以上	2		中学 4 高校 2
			(教) 介護等体験（事前指導）	中学履修 指定	中・高 一種	2 以上	1		
			(教) 介護等体験実習	中学履修 指定	中・高 一種	3 以上	1	「(教) 介護等体験（事前指導）」の単位を修得済みでなければ、履修不可。 介護等体験証明書を授与されたにも関わらず「(教) 介護等体験実習」の単位を修得できない場合は、免許状一括申請の対象とはしない。「14. 介護等体験について」に示す免除対象者については履修の必要はない。	
			(教) 道德教育の理論と方法	中学必修 高校選択	高 一種	2 以上	2	中学校一種免許状取得に関しては「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」として扱う。	
		教職 発展 科目	(教) 人間と差別的教育論	選択	中・高 一種	3 以上	2		中学 4 高校 8
			(教) 国際理解教育論	選択	中・高 一種	3 以上	2		
			(教) 学校文化論	選択	中・高 一種	3 以上	2		
			(教) 学級担任論	選択	中・高 一種	3 以上	2		
			(教) 道德授業発展演習	選択	高 一種	3 以上	2	中学校一種免許状取得に関しては「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」として扱う。	
			(教) 中等社会系授業発展演習	高校地歴・ 公民 選択	高 一種 地歴・公民	3 以上	2	中学校一種免許状（社会）取得に関しては「教科及び教科の指導法に関する科目」として扱う。	
			(教) 学校インターンシップⅠ	選択	中・高 一種	3 以上	2		
			(教) 学校インターンシップⅡ	選択	中・高 一種	3 以上	3		
			(教) 学校インターンシップⅢ	選択	中・高 一種	3 以上	4		
		学部 専門 科目	現代学校教育論	選択	中・高 一種	1 以上	2		
			グローバル教育論	選択	中・高 一種	2 以上	2		
			学校文化・学校空間論	選択	中・高 一種	2 以上	2		
			スクールソーシャルワーク論	選択	中・高 一種	2 以上	2		
			学校制度と法規	選択	中・高 一種	2 以上	2		
			いのちの教育	選択	中・高 一種	2 以上	2		

(2) 必要単位の余剰分の修得によって「大学が独自に設定する科目」に充当される科目

「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法および生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」「教科及び教科の指導法に関する科目」でそれぞれ最低必要単位数を超えて修得した余剰分は、「大学が独自に設定する科目」に充当されます。

例えば、高等学校の教職課程履修者で、「(教) 教育実習Ⅱ（事後指導を含む）」(4 単位) を修得した場合、4 単位のうち 2 単位分は、「大学が独自に設定する科目」に充当されます。

(3) 「大学が独自に設定する科目」に充当できない科目

以下の場合には、「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができませんので注意してください。

①当該教科以外の「各教科の指導法」科目

異なる教科の指導法科目「(教) ○○科教育概論」「(教) ○○科指導法Ⅰ」「(教) ○○科指導法Ⅱ」「(教) ○○科授業法」「(教) ○○科授業発展演習」は、当該教科以外の「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができません。

【例：「公民科」と「地理歴史科」の場合】

「(教) 社会科・地理歴史科教育概論」「(教) 社会科・地理歴史科授業法」は、公民科（高等学校一種）の「大学が独自に設定する科目」としてみなすことはできません。

また、「(教) 社会科・公民科教育概論」「(教) 社会科・公民科授業法」は、地理歴史科（高等学校一種）の「大学が独自に設定する科目」としてみなすことはできません。

②当該教科以外の「教科に関する専門的事項」に関する科目

異なる教科の「教科に関する専門的事項」に関する科目を修得しても、当該教科以外の「大学が独自に設定する科目」としてみなすことはできません。

13. 教育実習について

教育実習とは、中学校または高等学校の実際の学校教育の現場に実習生として配属され、教育活動に参加することです。この教育実習は教職課程履修の仕上げというべきものであり、教壇に立って実際に授業を行う経験を得るだけでなく、教育活動の全般にわたって理解を深め、教員として必要な知識や技能、態度などを身につけることが目的です。

実習受入校の厚意と協力によって実習は可能となっているものであり、大学の責任ある指導と実習生の真に教職を目指す姿勢が求められます。また、実習受入校はあくまでも卒業後の進路に教職を第一志望として考えている人を対象に実習指導を行います。資格取得のみを目的とした安易な姿勢で教育実習を行うことは、実習受入校の先生や生徒に大きな迷惑をかけることとなります。したがって、教育実習の履修にあたっては、自らの進路計画を踏まえ、十分な心構えで臨まなければなりません。

(1)「教育実習」の内容と実習期間

教育実習は「(教) 学校教育総合演習」、「(教) 教育実習事前指導」、直前ガイダンス、実習校での実習、事後指導からなる一貫したものです。したがって、その全てを受講し、所定の手続きを行う必要があります。教育実習の詳細については、3 年生での「(教) 学校教育総合演習」および「(教) 教育実習事前指導」の授業において説明があります。また、「(教) 学校教育総合演習」の授業で、「教育実習の手引き」が配付されますので、よく読んで理解を深めてください。なお、「(教) 教育実習事前指導」を履修するためには、「(教) 学校教育総合演習」を修得していることが必要です。

実習校での実習は、教育活動全般（ホームルーム、クラブ活動含む）について、観察実習、参加実習、授業実習により構成されますが、その内容については、それぞれの実習校の実情に即した教育実習の指導計画が編成されています。教育実習期間は、各実習校により異なりますが、例年、5 月～ 11 月までの間に実施されます。

(2)「(教) 教育実習ⅠまたはⅡ（事後指導を含む）」の受講資格

教育実習を履修するためには、以下の要件を全て満たしていることが必要です。

- ①「(教) 教育実習ⅠまたはⅡ（事後指導を含む）」受講年度の開始時点で、卒業見込みおよび
実習校種・教科における教員免許状取得見込み（※）であること
- ②実習受入校や教育委員会との手続きなどが全て完了していること

※教員免許状取得見込みとは

卒業見込みがあり、以下「『教員免許状取得見込み』関係科目」表の「教育職員免許法施行規則に規定する科目の本学必要単位数（27 単位）」および「(教) 学校教育総合演習」（大学が独自に設定する科目）・2 単位）を修得している状態

「教員免許状取得見込み」関係科目

教育職員免許法施行規則に規定する科目			科目名	履修区分	配当 回生	単位 数	
科 目		各科目に含めることが必要な事項					
教科及び 教職に関する科目	教育の基礎的理解 に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	(教) 教育原理	必修	1 以上	2	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	(教) 教職概論	必修	1 以上	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営 的事項(学校と地域との連携及び学校 安全への対応を含む。)	(教) 教育社会学	必修	1 以上	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び 学習の過程	(教) 教育心理学	必修	1 以上	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及 び生徒に対する理解	(教) 特別支援教育概論	必修	1 以上	2	
		教育課程の意義及び編成の方法(カリ キュラム・マネジメントを含む。)	(教) 教育課程論	必修	2 以上	2	
	道徳、総合的な学 習の時間等の指導 法及び生徒指導、 教育相談等に関す る科目	総合的な学習の時間の指導法(中学校) 総合的な探究の時間の指導法(高等学校)	(教) 総合的な学習の時間の理論と方法	必修	3 以上	2	
		特別活動の指導法	(教) 特別活動の理論と方法	必修	2 以上	2	
		教育の方法及び技術	(教) 教育方法論 (ICT 活用を含む)	必修	2 以上	2	
		情報通信技術を活用した教育の理論及 び方法					
		生徒指導の理論及び方法	(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法	必修	2 以上	2	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び 方法					
	教育相談(カウンセリングに関する基 礎的な知識を含む。)の理論及び方法	(教) 教育相談の理論と方法	必修	2 以上	2		
	教育実践に関する 科目	教育実習	(教) 教育実習事前指導	必修	3 以上	1	
	教科及び教科の指 導法に関する科目	各教科の指導法(情報通信技術の活用 を含む。)(注 1)	社会科:(教) 社会科・地理歴史科教育概論 または(教)社会科・公民科教育概論 地歴科:(教) 社会科・地理歴史科教育概論、 公民科:(教) 社会科・公民科教育概論 保体科:(教) 保健体育科教育概論	必修 「(教)〇〇 科授業法」 と同一教科 であること	2 以上	2	
			社会科:(教) 社会科・地理歴史科授業法 または(教)社会科・公民科授業法 地歴科:(教) 社会科・地理歴史科授業法 公民科:(教) 社会科・公民科授業法 保体科:(教) 保健体育科授業法	必修 「(教)〇〇 科教育概 論」と同一 教科である こと	3 以上	2	
	大学が独自に設定する科目		(教) 学校教育総合演習	必修	3 以上	2	
	合計(1教科あたり)						29

（注 1）教科の指導法は教育実習と同一教科で履修してください。

14. 介護等体験について

(3) 実習校について

原則として、各自が中学校や高等学校を訪問して依頼し、承諾を受けることで実習校を確保します。ただし、教育委員会からの配当によって実習校が決定される場合もあり、また、本学附属校出身者についても取り扱いが異なります。詳細は、教育実習前年度に受講する「(教) 学校教育総合演習」で説明します。

義務教育課程（小学校および中学校）の教員免許状申請時には、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」により、7日間以上の介護等体験の証明書が必要となります。介護等体験とは、18歳に達した後に行う、特別支援学校や社会福祉施設等において、7日間以上にわたる介護などの体験のことを指します。

本学では、介護等体験を「大学が独自に設定する科目」の一部として単位化しており、小・中学校の免許状の取得を希望する場合は、履修指定科目となります。介護等体験の申し込み手続きの説明や事前指導については、2回生以上配当の「(教) 介護等体験（事前指導）」において行います。介護等体験は、3回生以上配当の「(教) 介護等体験実習」として履修します。したがって、「(教) 介護等体験実習」を履修するためには、原則、前年度に「(教) 介護等体験（事前指導）」の単位を修得していることが必要となります。

なお、「(教) 介護等体験（事前指導）」（2回生以上配当）は、「(教) 介護等体験実習」（3回生以上配当）と連続して受講すべき科目であることから、翌年度3回生以上配当科目の受講に必要な条件（20単位要件）を満たす見込みがない場合には、その受講を認めません。

<介護等体験の免除について>

以下の（1）～（3）に該当する人は介護等体験が免除されますので、教職教育課に「免除申告書」を提出してください。なお、介護等体験が免除されるかどうか分からない場合は、事前に教職教育課の窓口で確認・相談をしてください。

- （1）介護等体験特例法が施行される以前（1998（平成10）年3月31日以前）に、大学・短大に在学した者であって、卒業までの間に小学校または中学校教諭の専修、一種または二種のいずれかの免許状取得のための所要資格を得た者
- （2）介護等に関する専門的知識及び技術を有すると認められる者
保健師、助産師、看護師、准看護師、盲・ろう・特別支援学校教員、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士又は義肢装具士の免許・資格を既に有している者（取得見込みの場合は介護等体験が必要）
- （3）身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者
身体障害者手帳に、障害の程度が1級から6級であるとして記載されている者

15. 「(教) 学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「学校ボランティア」について

本学では、近畿地区の教育委員会や小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などと連携し、教師を目指す皆さんを対象とした「(教) 学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「学校ボランティア」を実施しています。教師を目指すためには、教職に関する理論や教科に関する知識を身につけるだけではなく、教師の仕事の実際や児童・生徒の様子について、体験的に知ることが重要です。

3回生より受講することができる「(教) 学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は、学校での現場体験活動を含んだ科目で、授業補助や学習支援、発達障害を持つ子どもへの支援など、教師の仕事幅広く体験し、学ぶことができます。

「(教) 学校インターンシップⅠ」（2単位）は研修時間の合計が40時間以上、「(教) 学校インターンシップⅡ」（3単位）は70時間以上、「(教) 学校インターンシップⅢ」（4単位）は100時間以上の現場体験活動を含み、いずれも事前・事後指導（講義）の受講が必須です。

また、「学校ボランティア」は、単位授与は行いませんが、学校における特定の活動を支援する中で、児童・生徒と関り、教師の仕事について理解を深めることができます。ぜひ積極的にこの制度を利用してください。

16. 教育職員免許法等の改正と適用カリキュラムについて

2025年度入学者の皆さんは、本学修要覧に記載されたカリキュラムに沿って履修していくことになります。

2019年度に教育職員免許法の改正が行われ、2019～2021年度入学者の皆さんはそれに対応するカリキュラムとなっています。一方、2022年度には教育職員免許法施行規則の改正が行われ、2022年度以降の入学者の皆さんはそれぞれの入学年度に対応するカリキュラムとなっています。このように、入学年度により、学修要覧に記載されている教職課程のカリキュラムや履修方法、科目名称等が異なりますので、必ず、自らの入学年度の学修要覧を参照して履修するようにしてください。

2. 教職課程（子ども社会専攻）

子ども社会専攻では、小学校教員養成課程を設置しています。専攻の専門科目の中で、免許状取得のために必要な科目を受講し、単位を取得することで、小学校教諭一種免許状が教育委員会より授与されます。必要な科目が1つでも不足すると免許状を取得することはできませんので、免許取得を希望する学生は、履修方法を熟読し、間違いのないように履修計画を立ててください。

中央教育審議会の答申でも指摘されているように、近年、教員には授業をつくる力や児童・生徒を指導する力に加え、社会の国際化や情報化時代に対応した知識や能力、社会的なコミュニケーション能力などが求められています。さらに、2017（平成 29）年に改訂された学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」や、「社会に開かれた教育課程」の実現なども盛り込まれました。

社会諸科学を総合的に学ぶ産業社会学部では、免許状取得に必要な科目のほかにも多様な科目が設置されており、これらのコンセプトに合う教学を展開しています。このように、小学校教員免許を希望する学生にとって、子どもをめぐる諸課題について理論的かつ実践的に学ぶことができる子ども社会専攻は、これからの教員に求められる知識や能力を獲得するための最適な学びの場だといえます。免許状取得に必要な科目のみならず、子ども社会専攻の様々な科目をはじめ、産業社会学部の他専攻に開設されている科目なども履修することで、現在の教員に求められている幅広い知見を獲得するようにしてください。

最後に、小学校教員養成課程に所属する学生の皆さんにとって、4年間という長いようで短い学生生活は、教員として必要な基本的な知識や力量を獲得していく期間でもあります。幅広く科目を受講し、各授業に積極的に参加する必要があることはいまでもありませんが、さらに、進んで本学の設置する様々なプログラムを活用したり、課外活動や社会での活動に参加したりと、多彩な経験も積みながら、充実した学生生活をすごしてもらいたいと思います。子ども社会専攻から、次世代の子どもや学校を支える教員が一人でも多く旅立ってくれることを期待しています。

1. 履修イメージ

	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
演習系科目	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	プロジェクトスタディⅠ	プロジェクトスタディⅡ	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ	ゼミナールⅣ 卒業研究 (教) 教職実践演習 (小学校)
初等教育実習関係				(教) 初等教育実習事前指導	(教) 初等教育実習Ⅰ (2 週間)		(教) 初等教育実習Ⅱ (2 週間)	
							(教) 初等教育実習Ⅲ (4 週間)	
科目講義系	大学指定の科目							
介護等体験				(教) 介護等体験 (事前指導)	(教) 介護等体験実習			

2. 教員免許状取得の基礎資格および必要単位

「教育職員免許法」および「教育職員免許法施行規則」により教員免許状の取得に必要な基礎資格と必要単位数が定められています。基礎資格とは、各自が所属する学部において卒業に必要な単位を修得し、学士の学位を取得することです。免許状の種類毎の必要単位数は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」、「教科及び教職に関する科目」を各自の入学年度に応じた科目表にしたがって修得する必要があります。また、小学校教諭免許状の取得には、法律で定められた介護等の体験を行うことが必要となるため、本学では「(教) 介護等体験 (事前指導)」および「(教) 介護等体験実習」を小学校教諭一種免許状教職課程の履修指定科目としています。

本学における教員免許状の取得に必要な基礎資格と必要単位数は下表の通りです。法定上の必要単位数はこれとは一部異なります。

免許に必要な単位

必要 単位	免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目				教科及び教職に関する科目					介護等体験 ※ 1	合計	
	日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	教諭の教育の基礎的理解に関する科目等			教科及び教科の指導法に関する科目				大学が独自に設定する科目
					教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法および生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	教科に関する専門的事項	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			
本学で必要な単位	2	2	2	2	12	10	7	36	0 ※2	2	75	
法令上必要な単位	2	2	2	2	10	10	7	30	2	—	67	

※ 1 「介護等体験」は免許状申請時に必要な「学力に関する証明書」には記載されませんが、免許状取得に必要となります。

※ 2 P.102 (5) 「大学が独自に設定する科目」の履修を参照。

3. 履修方法

小学校教諭一種免許状取得に必要な各科目は、履修可能となる配当回生でできるだけ速やかに修得するようにしてください。履修時期が遅れると、他の様々な科目との時間割重複等が発生する可能性があり、履修計画に大きく影響する（卒業までに免許状取得に必要な全科目を修得できない等）ことがありますので、充分注意してください。

(1) 「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」の履修

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6		産業社会学部で修得すべき科目	
科目	単位数	科目名	履修区分
日本国憲法	2	日本国憲法	必修
体育	2	スポーツと現代社会	2 単位 選択必修
		スポーツのサイエンス	
		スポーツ方法実習Ⅰ	
		スポーツ方法実習Ⅱ	
外国語コミュニケーション ※いずれの言語についても、単位回復科目は該当しません。 ※〇〇語はドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語のいずれかが該当します。	2	英語 1	2 単位 選択必修
		英語 2	
		英語 3	
		英語 4	
		〇〇語・基礎	
		〇〇語・展開	
		〇〇語・表現Ⅰ	
		〇〇語・表現Ⅱ	
		〇〇語中級コミュニケーションⅠ	
		〇〇語中級コミュニケーションⅡ	
		〇〇語中級表現読解Ⅰ	
		〇〇語中級表現読解Ⅱ	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ	2 単位 選択必修
		情報リテラシーⅡ	
		社会統計学	
		社会調査情報処理	
		計量社会学	

(2) 介護等体験

科目名	単位数	配当回生	履修方法
(教) 介護等体験（事前指導）	1	2 以上	履修指定
(教) 介護等体験実習	1	3 以上	履修指定（「(教) 介護等体験（事前指導）」の単位を修得済みでなければ、受講登録不可）

義務教育課程（小学校および中学校）の教員免許状申請時には、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」により、7 日間以上の介護等体験の証明書が必要になります。介護等体験とは、18 歳に達した後に行う、特別支援学校や社会福祉施設等において、7 日間にわたる介護などの体験のことを指します。

本学では、介護等体験を単位化しており、履修指定科目となります。介護等体験の申し込み手続きの説明や事前指導については、2 回生以上担当の「(教) 介護等体験（事前指導）」において行います。介護等体験は 3 回生以上担当の「(教) 介護等体験実習」として履修します。したがって、「(教) 介護等体験実習」を履修するためには、原則、前年度に「(教) 介護等体験（事前指導）」の単位を修得していることが必要となります。

介護等体験の免除について

以下の（１）～（３）に該当する人は介護等体験が免除されますので、教職教育課に「免除申告書」を提出してください。なお、介護等体験が免除されるかどうか分からない場合は、事前に教職教育課の窓口にて確認・相談をしてください。

- （１）介護等体験特例法が施行される以前（1998（平成 10）年 3 月 31 日以前）に、大学・短大に在学した者であって、卒業までの間に小学校または中学校教諭の専修、一種または二種のいずれかの免許状取得のための所要資格を得た者
 - （２）介護等に関する専門的知識及び技術を有すると認められる者
保健師、助産師、看護師、准看護師、盲・ろう・特別支援学校教員、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士又は義肢装具士の免許・資格を既に有している者（取得見込みの場合は介護等体験が必要）
 - （３）身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者
身体障害者手帳に、障害の程度が 1 級から 6 級であるとして記載されている者
- また、上記のほか、既に介護等体験を実施済みで、実習を終了したことを証明する証明書を有している場合は、産業社会学部事務室まで申し出てください。

※介護等体験証明書を授与されたにも関わらず「(教) 介護等体験実習」の単位を修得できない場合は、免許状一括申請の対象とはしません。

(3)「教諭の教育の基礎的理解に関する科目等」の履修

「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の履修

教育職員免許法施行規則に規定する科目区分等			科目名	単位数	配当 回生	履修 区分	最低必要 単位数
科 目	各科目に含めることが必要な事項	単位数					
教諭の教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	子どもと教育の歴史	2	1 以上	必修	12
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	現代教職概論	2	2 以上	必修	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	現代教育社会論	2	1 以上	必修	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	児童・発達心理学	2	2 以上	必修	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論（小学校）	2	3 以上	必修	
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	学校カリキュラム論	2	2 以上	必修	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論	2	2 以上	必修	10
		総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法	2	2 以上	必修	
		教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法論（ICT 活用を含む）（小学校）	2	2 以上	必修	
		生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導の理論と方法（小学校）	2	2 以上	必修	
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	学校カウンセリング論	2	3 以上	必修	
	教育実践に関する科目	教育実習※	（教）初等教育実習事前指導	1	2 以上	必修	5
			（教）初等教育実習Ⅰ	2	3 以上	選択※	
			（教）初等教育実習Ⅱ（事後指導を含む）	2	4 以上	選択※	
			（教）初等教育実習Ⅲ（事後指導を含む）	4	4 以上	選択※	
		教職実践演習	（教）教職実践演習（小学校）	2	4 以上	必修	2

※教育実習の履修については P.102 の「4 教育実習」を参照してください。

教職実践演習について

教職課程の他の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて皆さんが身につけた力が、教員として、最低限必要な資質能力として有機的に統合され形成されたかを最終的に確認する科目です（4 回生秋学期配当）。教員免許状取得後の初年度赴任の教員として職務遂行が可能となるために欠けている部分はないか、教育実習をはじめとするこれまでの学修状況を振り返りつつ、教師としての使命感、社会性、生徒指導、教科指導の面において求められる力を再確認するとともに、自らの課題を解決する姿勢と手法を身につけることをねらいとします。

教職実践演習の受講資格

「（教）教職実践演習（小学校）」を履修するためには、以下の要件を満たしていることが必要です。要件を満たしていない場合には、履修は認められません。

「（教）教職実践演習（小学校）」受講年度において、卒業見込みおよび教員免許状取得見込みであること。

(4)「教科に関する専門的事項」、「各教科の指導法」の履修

- 「教科に関する専門的事項」、「各教科の指導法」は小学校教員としての基本的な力量形成のために、全ての科目を履修することを推奨します。
- 免許状取得のための必修科目とは別に、「算数」「初等理科」を学ぶにあたって、基礎となる内容を学ぶために「数学探究」「理科探究A」「理科探究B」（いずれも発展科目）を開講しています。

教育職員免許法施行規則に規定する科目			産業社会学部で修得すべき科目					
科目区分		各科目に含めることが必要な事項	単位数	科目名	単位数	配当 回生	履修 区分	最低必要 単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語(書写を含む。)	30	初等国語(書写を含む)	2	1 以上	必修	36
		社会		初等社会	2	2 以上	必修	
		算数		算数	2	1 以上	必修	
		理科		初等理科	2	2 以上	必修	
		生活		生活	2	3 以上	選択※	
		音楽		音楽Ⅰ	2	2 以上	必修	
				音楽Ⅱ	2	3 以上	選択※	
		図画工作		図画工作	2	2 以上	選択※	
		家庭		家庭	2	2 以上	選択※	
		体育		初等体育	2	2 以上	必修	
	外国語	初等英語	2	2 以上	必修			
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	国語(書写を含む。)	初等国語科教育法	2	2 以上	必修		
		社会	初等社会科教育法	2	3 以上	必修		
		算数	算数科教育法	2	2 以上	必修		
		理科	初等理科教育法	2	3 以上	必修		
		生活	生活科教育法	2	2 以上	必修		
		音楽	音楽科教育法	2	3 以上	必修		
		図画工作	図画工作科教育法	2	3 以上	必修		
		家庭	家庭科教育法	2	3 以上	必修		
		体育	初等体育科教育法	2	3 以上	必修		
外国語		初等英語科教育法	2	3 以上	必修			

※生活、音楽Ⅱ、図画工作、家庭の中から 1 科目を選択必修

(5)「大学が独自に設定する科目」の履修

本来、法令では「大学が独自に設定する科目」の必要単位数が定められていますが、本学では上記の(3)「教育の基礎的理解に関する科目等」内の「教育の基礎的理解に関する科目」の最低必要単位数(12単位)、および(4)「教科に関する専門的事項」、「各教科の指導法」の最低必要単位数(36単位)を修得することで、「大学が独自に設定する科目」の必要単位数を満たしたものととして扱います。

4. 教育実習

教育実習とは、小学校の実際の学校教育の現場に実習生として配属され、教育活動に参加することです。この教育実習は、教壇に立って実際に授業を行う経験を得るだけでなく、教育活動の全般にわたって理解を深め、教員として必要な知識や技能、態度などを身につけることが目的です。

教育実習は、実習受入校の厚意と協力によって可能となっているものであり、大学の責任ある指導と実習生の真に教職を目指す姿勢が求められます。また、実習受入校は、あくまでも卒業後の進路に教職を第一志望として考えている人を対象に実習指導を行います。資格取得のみを目的とした安易な姿勢で教育実習を行うことは、実習受入校の先生や児童に大きな迷惑をかけることとなります。したがって、教育実習の履修にあたっては、自らの進路計画を踏まえ、十分な心構えで臨まなければなりません。

教育実習は、「(教)初等教育実習事前指導」、各種ガイダンス、実習校での実習、事後指導からなる一貫したものです。したがって、その全てを受講し、所定の手続きを行う必要があります。また、以下の受講資格を満たし、実習受入校や教育委員会との手続きなどが全て完了していることが必要です。

【教育実習の受講資格】

(1)「(教)初等教育実習Ⅰ」(3回生実習)

前年度末までに下記1)～3)の単位を修得する必要があります。

- 1)「(教)初等教育実習事前指導」の単位を修得していること。
- 2)「子どもと教育の歴史」「現代教職概論」「道徳教育論」の単位を修得していること。
- 3)1・2回生担当の「教科及び教科の指導法に関する科目」のうちの必修科目について、それぞれの教科の「教科」または「指導法」のどちらか一方の単位を修得していること。
- 4)ただし教職課程への取り組みが不十分であると判断される場合には、上記の条件を満たしていても、実習への参加を認めない場合がある。
- 5)3回生時の教育実習に参加できないと判断される「相当の理由」が認められる場合は、所定の受講資格要件が整い次第「(教)初等教育実習Ⅲ」の履修を認める。

(2)「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」、「(教)初等教育実習Ⅲ(事後指導を含む)」(4回生以上での実習)

- 1)受講年度において、卒業見込みであること。
- 2)「(教)初等教育実習事前指導」の単位を修得していること。
- 3)「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、「特別支援教育概論(小学校)」を除く全ての科目について単位を修得していること。
- 4)「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち、「学校カウンセリング論」を除く全ての科目について単位を修得していること。
- 5)「教科及び教科の指導法に関する科目」のうちの必修科目について、それぞれの教科の「教科」または「指導法」のどちらか一方の単位を修得していること。
- 6)ただし教職課程への取り組みが不十分であると判断される場合には、上記の条件を満たしていても、実習への参加を認めない場合がある。

※原則として、実習実施前年度に各自が小学校を訪問して依頼し、承諾を受けることで次年度実習校を確保します(内諾活動)。ただし、教育委員会からの配当によって実習校が決定される場合もあります。決定方法の詳細は、ガイダンス等で説明を行いますのでその際に必ず確認してください。

5. 教職課程の辞退手続き

子ども社会専攻は、原則、全員が小学校教諭一種免許状の取得を目指す課程です。教職課程の履修を辞退する場合には、産業社会学部事務室に辞退願を提出してください。

6. 「(教)学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」について

本学では、近畿地区の教育委員会や小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などと連携し、教職を目指す皆さんを対象とした、「(教)学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を用意しています。教師を目指すためには、教職に関する理論や教科に関する知識を身につけるだけでなく、教師の仕事の実際や児童・生徒の様子について、体験的に知ることが重要です。

3 回生より受講することができる「(教)学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は、学校での現場体験活動を含んだ科目で、授業補助や学習支援、発達障害を持つ子どもへの支援など、教師の仕事幅広く体験し、学ぶことができます。

「(教)学校インターンシップⅠ」(2 単位)は研修時間の合計が 40 時間以上、「(教)学校インターンシップⅡ」(3 単位)は研修時間の合計が 70 時間以上、「(教)学校インターンシップⅢ」(4 単位)は研修時間の合計が 100 時間以上の現場体験活動を含み、いずれも事前・事後指導(講義)の受講が必須です。

7. 教育職員免許法の改正と適用カリキュラムについて

2025 年度入学者の皆さんは、本学修要覧に記載されたカリキュラムに沿って履修していくことになります。

2019 年度に教育職員免許法の改正が行われ、2019～2021 年度入学者の皆さんはそれに対応するカリキュラムとなっています。一方、2022 年度には教職職員免許法施行規則の改正が行われ、2022 年度以降の入学者の皆さんはそれぞれの入学年度に対応するカリキュラムとなっています。このように、入学年度により、学修要覧に記載されている教職課程のカリキュラムや履修方法、科目名称等が異なりますので、必ず、自らの入学年度の学修要覧を参照して履修するようにしてください。

8. 教員採用試験受験にあたって(教職支援センター・PSTルームの利用について)

教員になるには、教員免許状を取得するとともに、各都道府県等の実施する教員採用試験に合格しなければなりません。本学では、教職支援センターを設置し、教員志望者に対する対策講座の開講や、情報資料・参考書等を豊富に揃えており、教員採用に関する具体的な相談・指導助言に応じています。また、初等教職課程履修者のために PST ルームも設置しています。教員志望の人はできるだけ早い段階から積極的に利用してください。

3. 社会調査士課程

1. 「社会調査士」とは

社会調査士は、インタビュー調査やアンケート調査などの調査手法を学び、調査結果を分析・指摘するという社会調査に必要な能力をもった「社会調査の専門家」のことです。

産業社会学部では、1997年から社会調査士課程を開設しています。在学中に社会調査士課程の必修科目を全て履修し、卒業時に大学を通じて社会調査協会へ申請すれば、同協会より「社会調査士」の資格が認定されます。

2. 「社会調査士課程」履修者の募集

(1) 応募資格

産業社会学部 1 回生

(2) 定員

60 名

(3) 募集・選考

春学期（6月上旬頃）に募集ガイダンスを行い、応募（「登録申請書」）を受け付けます。

定員を超えて応募があった場合は「登録申請書」に書かれた志望理由と 1 回生春学期の成績により選考します。

3. カリキュラム

本課程では、社会調査研究の関連科目を中心に、下記の社会調査士課程必修科目 16 単位を修得することが必要です。

社会調査士課程必修科目（16 単位）

科目名	単位数	配当回生	履修方法
社会調査論	2	1 以上	必修
計量社会学	2	1 以上	必修
社会統計学	2	1 以上	必修
社会調査情報処理	2	1 以上	いずれか 1 科目 2 単位必修 ※社会調査情報処理は履修指定科目
情報リテラシーⅡ（SP クラス） （※ 1）	2	1 以上	
質的調査論	2	1 以上	必修
社会調査士Ⅰ（1 回生 秋セメ）	2	1 のみ	必修、履修指定科目
社会調査士Ⅱ（2 回生 春セメ）	2	2 のみ	必修、履修指定科目
社会調査士Ⅲ（2 回生 秋セメ）	2	2 のみ	必修、履修指定科目

（※ 1）「情報リテラシーⅡ」は講義内容が SPSS に関するクラスに限ります。

4. 履修にあたって

社会調査士課程の中核的科目である「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」「社会調査士Ⅲ」は、少人数のクラスで、調査実習をとまなう授業です。これらの科目は、1 回生秋学期から 2 回生秋学期まで同一クラスを連続して受講する必要があります。「社会調査士Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を受講する上記期間中の「休学」「留学（立命館大学の留学プログラム）」により継続して受講できない場合や、「社会調査士Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のいずれかで F 評価となった場合は、社会調査士課程の継続はできません。

5. 「社会調査士」資格認定

所定の単位を全て修得し、調査報告書を作成・完成させた履修者に対して、産業社会学部長が認定する「社会調査士課程修了証」を卒業時に卒業証書とともに交付します。

産業社会学部で「社会調査士課程修了証」の交付をうけた者は、産業社会学部を通じて「社会調査協会」に対して資格認定申請を行うことにより、全国標準の「社会調査士資格」を取得することができます（別途、同協会に対する認定申請手数料が必要）。

6. 大学院社会学研究科での継続学修（専門社会調査士資格の取得）

「社会調査士」資格は産業社会学部での学修を通じて取得できる資格ですが、「社会調査協会」は、より高度の社会調査の専門家として「専門社会調査士」資格を設けています。本学は、大学院社会学研究科にこの資格を得るために必要な科目を設置し、大学院でこの「専門社会調査士」の資格を取得することを可能としています。なお、「専門社会調査士」資格を取得するには、同協会が認定する学部における「社会調査士」の資格取得が前提となります。

4. 社会福祉士課程（人間福祉専攻）

社会福祉の相談・援助業務に関する専門職である社会福祉士は国家資格です。本学の課程で所定の科目を卒業までに全て修得することにより国家試験の受験資格が得られ、卒業年度または卒業後の試験に合格することにより社会福祉士の資格を得ることができます。

社会福祉士資格は名称独占資格であり、国家試験合格者のみが社会福祉士を名乗ることができます。ただし、この資格がなければ社会福祉の相談・援助業務に就けないというものではありません。

国家試験受験資格取得のためには、次の「本学での開講科目」を全て修得する必要があります。

1. 開設科目

法律に定められる指定科目	本学での開講科目	単位	配当回生	履修方法
医学概論	医学一般	2	2 以上	必修
心理学と心理的支援	心理学	2	2 以上	必修
社会学と社会システム	入門社会学	2	1 以上	必修
社会福祉の原理と政策	社会福祉概論	2	1 以上	必修
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査論	2	2 以上	必修
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	2 以上	必修
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	2 以上	必修
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	2 以上	必修
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2 以上	必修
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論	2	2 以上	必修
福祉サービスの組織と経営	福祉経営論	2	2 以上	必修
社会保障	社会保障論	2	2 以上	必修
高齢者福祉	老人福祉論	2	2 以上	必修
障害者福祉	障害者福祉論	2	2 以上	必修
児童・家庭福祉	児童福祉論	2	2 以上	必修
貧困に対する支援	公的扶助論	2	2 以上	必修
保健医療と福祉	医療福祉論	2	2 以上	必修
権利擁護を支える法制度	権利擁護と成年後見	2	2 以上	必修
刑事司法と福祉	司法福祉論	2	2 以上	必修
ソーシャルワーク演習 ※課程履修者のみ履修可能	ソーシャルワーク演習	2	2 以上	必修
ソーシャルワーク演習（専門） ※課程履修者のみ履修可能	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	4	2 以上	必修
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	4	3 以上	必修
ソーシャルワーク実習指導 ※課程履修者のみ履修可能	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2 以上	必修
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4	3 以上	必修
ソーシャルワーク実習 ※課程履修者のみ履修可能	ソーシャルワーク実習Ⅰ	1	2 以上	必修
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	3 以上	必修

- ・社会福祉士課程のカリキュラムは、1 回生時に課程履修の許可を得た者以外の新規履修はできません。
- ・2 年にわたる演習・実習指導・実習の一体的・連続的な履修を基本とするため、「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の3 科目、および「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の3 科目は、それぞれ同一年度に受講することを原則とします。
- ・「ソーシャルワーク実習Ⅱ」を受講するまでに、「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」「地域福祉論」「老人福祉論」「障害者福祉論」「児童福祉論」「公的扶助論」「司法福祉論」を修得することが望ましいです。
- ・社会福祉士課程を履修する方は、長期の留学（交換留学、デュアルディグリープログラムなど）

2. 国家試験受験までの流れ

に参加することは可能です。ただし、4年間で課程の科目を修得することが困難になります。教職課程、そのほか、他の資格課程やプログラムを並行して履修することは可能ですが、時間割の都合上、4年間で全ての課程・プログラムの科目の履修を保障するものではありません。

・「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」「ソーシャルワーク実習Ⅱ」のいずれかの科目が不合格（F評価）となった場合、次学期開始までに課程履修継続願いを提出しなければ課程辞退とみなします。

開設科目のうち「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」「ソーシャルワーク実習Ⅱ」は、課程履修者として許可された者のみ履修することができます。課程履修者の選考は、志望理由や課題レポートを評価し、最大で40名まで課程履修を認めることがあります。課程履修者の選考に関する提出書類（エントリーシート、レポート等）や選考基準については、1回生7月および10月頃に開催する募集ガイダンスにおいて説明します。

他の科目については、人間福祉専攻の専門科目または学部基礎専門科目であり、各自の時間割や履修計画に基づき、卒業時までには全ての科目を修得してください。

1回生～	必要な科目の履修を開始
1回生春学期・秋学期	社会福祉士課程募集ガイダンス 課程履修者の選考
以下、課程履修許可者のみ対象	
2回生春学期	実習系科目の履修開始 実習先の決定、社会福祉士課程履修料（第一次）納付
2回生夏期休暇中	ソーシャルワーク実習Ⅰの実施（60時間が基本）
2回生秋学期	実習のまとめ、次年度実習先の決定
3回生春学期	社会福祉士課程履修料（第二次）納付
3回生夏期休暇中	ソーシャルワーク実習Ⅱの実施（180時間以上）
3回生秋学期	実習のまとめ
4回生春学期	国家試験受験対策の開始
4回生秋学期	（9月下旬）国家試験出願（2月上旬）国家試験受験 （3月上旬）国家試験合格発表

課程履修に関する手続きについては、社会福祉実習指導室前掲示板／manaba＋Rで案内の上、ガイダンスを実施して説明します。ガイダンスには必ず出席してください。

3. ソーシャルワーク実習について

社会福祉士国家試験受験資格を得るためには、実習施設で2回生時に60時間以上、3回生時に180時間以上の計240時間以上の実習が必要です。実習は、2回生時と3回生時の主に8月から9月（夏期休暇中を中心に）にかけて実施します。

実習先の都合等により、授業開講期間に実習せざるを得ない場合は、授業を「公欠」として取り扱います。なお、課外活動やアルバイト、個人的事情により実習期間や実習施設を変更することはできません。

※実習までのガイダンスや指導の中で実習教育を受けるには不適切と判断された場合は、たとえ科目を履修していても実習に参加できないことがあります。

4. 課程履修に関する費用について

※参考：2024年度実績
社会福祉士課程履修料
（第一次）49,000円
（第二次）49,000円

社会福祉士課程の履修にあたっては、実習指導および実習に関する費用に充てるため、2回生春学期に社会福祉士課程履修料（第一次）を、3回生春学期に社会福祉士課程履修料（第二次）を、各々、納入しなければなりません。なお、いったん納入された費用は、課程履修を辞退するなどの事情があっても、返還されません。

その他、国家試験出願手数料の納付、実習先への交通費・食費、実習が宿泊を伴う場合の費用負担などその他個人負担が必要になります。

5. 社会福祉実習指導室

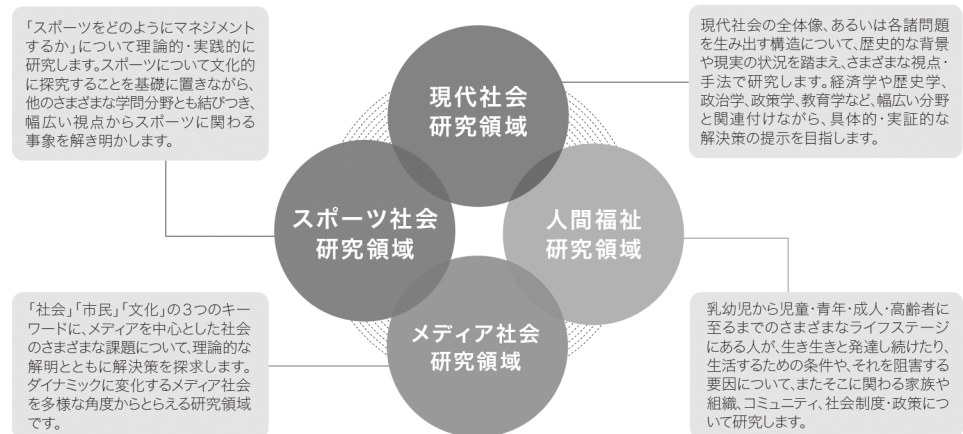
以学館1階に、「社会福祉実習指導室」を設置しています。実習に関する相談や学習指導、実習先の決定や実習の実施、国家試験対策のサポート、福祉全般についての相談などを行っています。

5. 立命館大学大学院 社会学研究科 応用社会学専攻

1. 社会学研究科とは

社会学研究科は、産業社会学部の基盤の上に、1972年に設置されました。現代社会が提起する諸問題を社会学と既存の学問諸分野との協同によって解明し、社会的に要請される実践課題にこたえる研究者と専門職業人の育成を目的・理念としています。

社会学研究科のカリキュラムは4研究領域からなり、広範囲な社会問題を対象としながら個々の研究テーマをバックアップしています。



最新の情報は社会学研究科ホームページ (<https://www.ritsumei.ac.jp/gss/>) に掲載しています。

2. 入試について

立命館大学大学院 入試情報サイト (<https://www.ritsumei.ac.jp/gr/>) に入学試験要項を掲載しています。また年に数回、大学院入試説明会を開催しています。

3. 大学院科目早期履修制度

立命館大学の学部生で立命館大学大学院への進学を希望する者（あるいは本学大学院入学試験に合格した者）を対象として、「大学院科目早期履修制度」を実施します。

これは、本学学部生に大学院科目を早期に履修する機会を提供することで、大学院進学へのモチベーションを高め、目的意識と計画性をもって大学院進学への準備を十全に行ってもらうことを期すものです。大学院進学を視野に入れ、大学院入学前の時期を有効に使うことでさらに学習を進めたいと考えている方は、本制度を積極的に活用してください。

<早期履修制度募集要項について>

公開時期：1月下旬～

公開場所：manaba+R「産業社会学部生のページ」

4. その他

大学院進学や大学院科目早期履修制度について質問・相談等は、産業社会学部事務室大学院担当までお問い合わせください。

6. (任用資格) 社会福祉主事

1. 社会福祉主事とは

都道府県・市町村に設置する福祉に関する事務所において、生活保護法、児童福祉法、母子及び父子並びに寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法に定める援護、育成または更生の措置に関する事務を行うことを職務とします（社会福祉法第18条第3項、第4項、第5項）。

具体的には、福祉事務所のケースワーカー、社会福祉施設での生活指導員など、また社会福祉協議会などの福祉団体での仕事に従事します。

なお、社会福祉主事の詳細については厚生労働省ホームページを参照してください。

2. 社会福祉主事任用資格の取得

社会福祉主事は、所属の学科・専攻に関係なく指定科目を修めて卒業すれば、任用資格が取得できます。

社会福祉法第19条第1項第1号は、任用のための条件として、大学において厚生労働大臣が指定している社会福祉に関する科目を修めて卒業した者と定めています。具体的には、指定されている複数の科目の中から3科目以上修得することが必要です。

産業社会学部で開講している科目の中で、指定科目は以下の科目です。

法律に定められる指定科目	本学部での開講科目
社会福祉概論	社会福祉概論
社会福祉調査論	社会調査論 社会福祉調査論
社会福祉行政論	社会福祉法制
社会保障論	社会保障論
公的扶助論	公的扶助論
児童福祉論	児童福祉論
身体障害者福祉論	障害者福祉論
老人福祉論	老人福祉論
医療社会事業論	医療福祉論
地域福祉論	地域福祉論
心理学	心理学
社会学	入門社会学 ※1
倫理学	倫理学
医学一般	医学一般
社会福祉援助技術論	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ※2 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ ※2 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ ※2 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ ※2

※1 「入門社会学」という科目名では、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目「社会学」の読み替え範囲に該当しませんが、個別、読み替え科目として認定を受けています（厚生労働省照会 社援基発0803第3号 令和2年8月3日）。

※2 「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」、「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」の4科目を全て取得することで「社会福祉援助技術論」に読替えることができます（大学等確認変更届出書 令和2年9月28日）

3. 就職活動の際の注意事項

社会福祉主事は任用資格であり、公務員として採用された後、特定の業務に任用されるときに必要な資格です。したがって、任用されてはじめてその資格を名乗ることができるものであり、指定科目を履修して卒業するだけでは社会福祉主事の資格を名乗ることはできません。

Ⅶ. 正課学修の援助制度 (小集団教育推進補助費)

1. 小集団教育推進補助費

立命館大学では、小集団クラスや自主ゼミを対象として以下の補助・援助を行っています。積極的に活用し、学習を深めるために役立ててください。

立命館大学では、学びの基礎単位となる基礎演習等、小集団科目を教学の基軸におき、①「小集団教育の単位」と②「大学自治の単位」としての性格をもつものとして位置づけています。小集団教育推進補助費は、この2つの位置づけをもつクラス・ゼミの集団的学習と自治活動への援助を主要な目的とし、各クラス・ゼミなどで使用できます。

小集団科目については、自主的・集団的な学習活動で必要となるレジュメや資料をプリントステーション（※）を利用して印刷することができ、これらの経費も「小集団教育推進補助費」として補助しています。

また、産業社会学部では上記とは別に小集団科目の一部においてアクティブラーニングを援助するための各種支援制度を設けています。必要に応じて担当教員に相談してください。

※ キャンパス内に設置されたプリントステーションでプリントが可能なIDをクラス・ゼミごとに配付します。ただし、プリント枚数には上限があります。

【制度詳細・利用方法】

manaba+Rの「産業社会学部生のページ」→「産業社会学部の履修」→「小集団教育推進補助費」

2. 自主ゼミ援助制度

授業（正課）や課外で学んだことをさらに発展させ、その研究成果をまとめていくため、産業社会学部内のメンバーで組織された学習グループ（自主ゼミ）に対して援助（教室等施設貸与、活動援助など）を行う制度です。募集申請方法はmanaba+R等でお知らせします。

3. 学生施設

以学館内には、産業社会学部生が活用できる以下の施設・設備があります。

〈地階〉

・Creative Lab.2

産業社会学部生専用のパソコンおよび自学習ルーム（発話可）。

〈1階〉

・コミュニケーションラウンジ

学生同士がくつろげるスペース。コピー機、飲料自動販売機も設置。

〈2階〉

・さんしゃイノベーションコモンズ

小グループでディスカッションできるブースに区切られたコモンズスペース（予約利用制）。

VIII. ハラスメントの防止

1. 本学のハラスメントに対する姿勢

立命館大学は、全ての学生・大学院生と教職員が個人として尊重され、いきいきと学び、教育・研究をし、安全で快適に、活動できるコミュニティを創り出すことが、学生・大学院生の学びと成長のために、また大学が社会的使命を果たすために重要であると考えています。これまで本学が取り組んできた人権尊重の立場を一層明確にするとともに、「いかなるハラスメントも容認しない」取り組みをさらに発展させ、2007年7月に「ハラスメント防止委員会」を設置し、「ハラスメント防止に関する規程」ならびに「ハラスメント防止のためのガイドライン」を制定しました。

「ハラスメント」とは、教職員が他の教職員、学生もしくは関係者に不利益な処遇を与えたり、相手の活動に係る環境を害する人権侵害の言動、または学生もしくは関係者が学生もしくは教職員に不利益な処遇を与えたり、相手の活動に係る環境を害する人権侵害の言動をいいます。

具体的には以下に挙げる区分や要件に該当する行為になります。

(1) 「セクシュアル・ハラスメント」

相手の意に反し、性的な言動により、相手に不利益な処遇を与え、またはその活動に係る環境を害する行為（適正な権限の行使にあたるものを除く。）

(2) 「アカデミック・ハラスメント」

教育研究上の優位な立場に基づく言動（性的な言動を除く）により、相手に対し、当該教育研究上の関係において不利益な処遇を与え、またはその修学もしくは研究に係る環境を害する行為（教育研究上必要かつ相当な範囲内のものを除く。）

(3) 「パワー・ハラスメント」

職務上もしくはその他の地位、人間関係などの優位性を利用して、適正な範囲を超えて指導や注意を行うことにより、精神的・身体的苦痛を与え、相手の就労上もしくはその他の利益や権利、人格、尊厳を侵害する言動または職場やその他の環境を悪化させる行為（業務上や学活動上必要かつ相当な範囲内のものを除く。）

(4) 「その他のハラスメント」

各種の活動と関連して、不適切な言動により、相手に対し、不利益な処遇を与え、またはその活動に係る環境を害する行為

立命館大学では、ハラスメントに関する相談に対応するために、「ハラスメント防止委員会」のもとに、相談員を配置しています。解決することが困難なとき、どうしてもいかにわからず困っているときは、相談員に相談してください。解決に向けて、親身になってサポートをします。また友人や知人が悩んでいるときには相談員がいることを伝えてあげてください

ハラスメントは起こって欲しくないことですが、意図せずに加害者や被害者になることがあるものです。ハラスメントは、教員と学生・院生の間にも、学生・院生同士においても起こりえます。人権尊重と教育を受ける権利の保障のために良好な人間関係や環境を作り出すことは大変重要であり、産業社会学部および社会学研究科は、ハラスメントの防止に真剣に取り組んでいます。

2. ハラスメント相談員

ハラスメントに関する相談は、産業社会学部・社会学研究科のハラスメント相談員、または学部事務室の相談員（職員）にご相談ください。相談の受付は、電話やメールでも可能です。あなたにとって、最も利用しやすい方法、場所で、相談の申し込みを行ってください。なお、産業社会学部・社会学研究科以外にも、学生オフィス、キャリアオフィス、共通教育課、スポーツ強化オフィス、保健センター等の各オフィスに相談員が配置されていますので、そちらに相談することもできます。相談員の氏名・部署・連絡方法は、以下のホームページをご覧ください。

「立命館大学ホームページ」→「在学生の方へ」→「学生生活のサポート」→「ハラスメントの相談」→「ハラスメント相談員について（学内）」または

<http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/gl/jinji/harass/gakunai/soudan.html>

なお、相談員には、相談者のプライバシーを保護するための「守秘義務」があります。あなたの了解を得ず、他者に伝えることは決してありません。安心して相談してください。

Ⅸ. カリキュラムマップ

1. カリキュラムマップ

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

産業社会学部は、社会諸科学に関する教育研究を通じて、①国内外の現代社会における諸問題に関する鋭い感受性を持ち、②学際性と専門性を兼ね備え、③積極的に社会に働きかけて社会問題を解決していくことができる人間を育成することを目的として、その卒業時点において学部学生が身につけておくべき最低限度の能力（教育目標）として下記を定めている。これらの能力の獲得は、本学部のカリキュラムが規定する所定単位の取得と卒業研究の合格により、その達成とみなし、学部卒業の際には学士（社会学）を授与する。

<関心・意欲・態度>

- DP1. 現代社会における国内外の諸問題に鋭く関心を寄せることができる。
- DP2. 異なる領域や文化をもつ多様な他者の意見に耳を傾けることができる。

<思考・判断>

- DP3. 独自の研究テーマと適切な「問い」を設定できる。
- DP4. 適切に設定した「問い」を適切な「方法」で探求することができる。

<技能・表現>

- DP5. 日本語で論理的に記述し、的確に発表し、討議を行うことができる。
- DP6. 少なくとも一つの外国語を適切に運用し、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
- DP7. 情報機器を適切に運用することができる。

<知識・理解>

- DP8. 社会学をはじめとする社会科学的な基礎知識を社会問題の解明や解決に活用することができる。
- DP9. 学際的で幅広い教養を獲得し、社会問題の解明や解決に活用することができる。

次からのカリキュラムマップでは、外国語科目・専門科目・発展科目の主な科目について、それぞれの科目の教育目標を示しています。（◎は特に強く位置付けているもの）

外国語科目

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
英語 1・2	2	1 以上			○				○			
英語 3・4	1	1 以上			○				○			
初修外国語（基礎・展開）	2	1 以上			○				○			
初修外国語（表現Ⅰ・Ⅱ）	1	1 以上			○				○			
日本語Ⅶ	1	1 以上			○				○			

学部基礎専門科目

<基礎専門科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
基礎演習Ⅰ	2	1のみ			○	◎	◎	○		○		
基礎演習Ⅱ	2	1のみ			○	◎	◎	○		○		
情報リテラシーⅠ	2	1のみ								◎		
入門社会学	2	1以上	●	◎	◎						◎	◎
プロジェクトスタディⅠA	2	2のみ				◎	◎	○		○		
プロジェクトスタディⅡA	2	2のみ				◎	◎	○		○		
社会経済学 ※	2	1以上		○	○						○	○
社会学史 ※	2	1以上		○	○						○	○
産業技術論	2	1以上		○	○						○	○
現代史	2	1以上		○	○						○	○
社会心理学	2	1以上		○	○						○	○
現代政治論 ※	2	1以上		○	○						○	○
社会学理論 ※	2	1以上		○	○						○	○
コミュニケーション理論	2	1以上		○	○						○	○
地域社会論 ※	2	1以上		○	○						○	○
社会保障政策	2	1以上		○							○	○
ソーシャルデザイン入門	2	1以上		○	○	○						
国際社会入門	2	1以上		○	○						○	○
異文化理解フィールドワーク	2	2以上		○	○				○			○
現代教育社会論	2	1以上		○	○						○	○
社会調査論 ※	2	1以上		○	○						○	○
社会統計学	2	1以上		○	○						○	○
社会調査情報処理	2	1以上		○	○					◎	○	○
計量社会学	2	1以上		○	○						○	○
質的調査論	2	1以上		○	○						○	○
企画研究	2	2以上		○	○						◎	◎
専門特殊講義Ⅰ	2または4	1以上		○	○						○	○
専門特殊講義Ⅱ	2または4	2以上		○	○						○	○
専門特殊講義Ⅲ	2または4	3以上		○	○						○	○

※現代社会専攻・メディア社会専攻・スポーツ社会専攻・人間福祉専攻で開設。

<ベーシックスキル科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
社会学の基礎 ※	2	2以上									○	○
政治学 ※	2	2以上									○	○
日本史Ⅰ ※	2	2以上									○	○
日本史Ⅱ ※	2	2以上									○	○
外国史Ⅰ ※	2	2以上									○	○
外国史Ⅱ ※	2	2以上									○	○
地誌学 ※	2	2以上									○	○
哲学 ※	2	2以上									○	○
倫理学 ※	2	2以上									○	○

※現代社会専攻・メディア社会専攻・スポーツ社会専攻・人間福祉専攻で開設。

I. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

II. 産業社会学部での履修

III. ゼミナール・卒業研究

IV. 産業社会学部の特色ある学び

V. 学部横断プログラム

VI. 資格取得・キャリア形成

VII. 正課学修の援助制度

VIII. ハラスメントの防止

IX. マッピング

現代社会専攻

<専門導入科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
現代と社会	2	1 以上	●	○	○						○	○
産業社会学	2	1 以上		○	○						○	○
多文化共生論	2	1 以上		○	○						○	○
都市論	2	2 以上									○	○
社会文化論	2	2 以上		○	○						○	○

<専門展開科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
ゼミナールⅠ	2	3 以上	P.54~ を参照	○	○	◎	◎	○		○		
ゼミナールⅡ	2	3 以上		○	○	◎	◎	○		○		
ゼミナールⅢ	2	4 以上		○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
ゼミナールⅣ	2	4 以上	●	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
卒業研究	4	4 以上	●	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
現代社会専門特殊講義	2または 4	2 以上									○	○
労働社会学	2	2 以上									○	○
日本経済論	2	2 以上									○	○
企業社会論	2	2 以上									○	○
NPO・NGO 論	2	2 以上									○	○
社会政策論	2	2 以上		○							○	○
社会階層論	2	2 以上									○	○
現代労働論	2	2 以上									○	○
比較政治論	2	2 以上									○	○
現代市民社会論	2	2 以上									○	○
国際社会経済学	2	2 以上		○							○	○
現代経済論	2	2 以上									○	○
景観デザイン論	2	2 以上									○	○
住民自治論	2	2 以上									○	○
環境形成論	2	2 以上									○	○
環境論	2	2 以上									○	○
環境社会論	2	2 以上									○	○
環境経済学	2	2 以上									○	○
資源エネルギー論	2	2 以上									○	○
国際環境政策論	2	2 以上									○	○
比較宗教論	2	2 以上			○						○	○
アジア文化論	2	2 以上									○	○
社会思想	2	2 以上									○	○
比較文化論	2	2 以上			○						○	○
社会倫理学	2	2 以上									○	○
家族社会学	2	2 以上									○	○
自我論	2	2 以上									○	○
生命倫理学	2	2 以上									○	○

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
臨床社会学	2	2 以上			○						○	○
エスニシティ論	2	2 以上									○	○
比較ジェンダー論	2	2 以上			○						○	○
社会病理学	2	2 以上			○						○	○

I. 産業社会学部の
人材育成目的・教育目標

II. 産業社会学部での履修

III. ゼミナール・
卒業研究

IV. 産業社会学部の
特色ある学び

V. 学部横断
プログラム

VI. 資格取得・
キャリア形成

VII. 正課学修の
援助制度

VIII. ハラスメント
の防止

IX. カリキュラム
マップ

メディア社会専攻

<専門導入科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
現代とメディア	2	1 以上	●	○	○						○	○
現代メディア史	2	1 以上		○	○						○	○
メディア技術史	2	1 以上									○	○
メディア社会論	2	2 以上									○	○
メディア文化論	2	2 以上		○	○						○	○

<専門展開科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
ゼミナールⅠ	2	3 以上	P.54~ を参照	○	○	◎	◎	○		○		
ゼミナールⅡ	2	3 以上		○	○	◎	◎	○		○		
ゼミナールⅢ	2	4 以上		○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
ゼミナールⅣ	2	4 以上	●	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
卒業研究	4	4 以上	●	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
メディア社会専門特殊講義	2または 4	2 以上									○	○
ジャーナリズム論	2	2 以上			○						○	○
パブリックアクセス論	2	2 以上									○	○
活字メディア論	2	2 以上									○	○
国際ジャーナリズム論	2	2 以上									○	○
メディア倫理	2	2 以上			○						○	○
ニュース論	2	2 以上									○	○
グローバルメディア論	2	2 以上									○	○
スポーツメディア論	2	2 以上									○	○
広告論	2	2 以上									○	○
音声メディア論	2	2 以上									○	○
コミュニケーション政策論	2	2 以上									○	○
広告文化論	2	2 以上									○	○
コミュニティメディア論	2	2 以上									○	○
スポーツ変動論	2	2 以上									○	○
メディアリテラシー論	2	2 以上									○	○
映像表現論	2	2 以上									○	○
観光文化論	2	2 以上									○	○
映画と社会	2	2 以上									○	○
表象文化論	2	2 以上									○	○
子どもとメディア	2	2 以上									○	○
マンガ文化論	2	2 以上									○	○

スポーツ社会専攻

<専門導入科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
現代とスポーツ	2	1 以上	●	○	○						○	○
スポーツ史	2	1 以上		○	○						○	○
ウェルネス論	2	1 以上									○	○
スポーツ社会学	2	2 以上		○	○						○	○
スポーツ文化論	2	2 以上		○	○						○	○

<専門展開科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
ゼミナールⅠ	2	3 以上	P.54~ を参照	○	○	◎	◎	○		○		
ゼミナールⅡ	2	3 以上		○	○	◎	◎	○		○		
ゼミナールⅢ	2	4 以上		○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
ゼミナールⅣ	2	4 以上	●	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
卒業研究	4	4 以上	●	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
スポーツ社会専門特殊講義	2または 4	2 以上									○	○
スポーツ政策論	2	2 以上									○	○
スポーツメディア論	2	2 以上									○	○
スポーツ産業論	2	2 以上									○	○
スポーツとジェンダー	2	2 以上									○	○
子どもとスポーツ	2	2 以上									○	○
障害者とスポーツ	2	2 以上									○	○
余暇の社会史	2	2 以上									○	○
スポーツ人類学	2	2 以上									○	○
武道論	2	2 以上									○	○
スポーツ規範論	2	2 以上									○	○
現代余暇論	2	2 以上									○	○
グローバルスポーツ論	2	2 以上									○	○
比較スポーツ論	2	2 以上									○	○
身体表現論	2	2 以上									○	○
スポーツ変動論	2	2 以上									○	○
スポーツマネジメント論	2	2 以上									○	○
スポーツ法学	2	2 以上									○	○
スポーツ行政論	2	2 以上									○	○
スポーツボランティア論	2	2 以上									○	○
地域スポーツ論	2	2 以上									○	○
スポーツ指導論	2	2 以上									○	○
スポーツクラブ論	2	2 以上									○	○
衛生学	2	2 以上									○	○
学校保健	2	2 以上									○	○
ヘルスマネジメント論	2	2 以上									○	○
スポーツバイオメカニクス	2	2 以上									○	○
生理学	2	2 以上									○	○
スポーツ心理学Ⅲ	2	2 以上									○	○

I. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

II. 産業社会学部での履修

III. ゼミナール・卒業研究

IV. 産業社会学部の特色ある学び

V. 学部横断プログラム

VI. 資格取得・キャリア形成

VII. 正課学修の援助制度

VIII. ハラスメントの防止

IX. カリキュラムマップ

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
スポーツ教育論実習Ⅰ	1	2 以上									○	○
スポーツ教育論実習Ⅱ	1	2 以上									○	○
スポーツ教育論実習Ⅲ	1	2 以上									○	○
スポーツ教育論実習Ⅳ	1	2 以上									○	○

子ども社会専攻

<専門導入科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
子どもと社会	2	1 以上	●	○	○						○	○
子どもと教育の歴史	2	1 以上									○	○
現代学校教育論	2	1 以上									○	○
現代教職概論	2	2 以上		○	○						○	○

<専門展開科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
ゼミナールⅠ	2	3 以上	P.54～ を参照	○	○	◎	◎	○		○		
ゼミナールⅡ	2	3 以上		○	○	◎	◎	○		○		
ゼミナールⅢ	2	4 以上		○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
ゼミナールⅣ	2	4 以上	●	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
卒業研究	4	4 以上	●	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
子ども社会専門特殊講義	2または 4	2 以上									○	○
学校カウンセリング論	2	3 以上									○	○
特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法	2	2 以上									○	○
特別支援教育概論（小学校）	2	3 以上									○	○
スクールソーシャルワーク論	2	2 以上									○	○
児童・発達心理学	2	2 以上									○	○
道徳教育論	2	2 以上			○						○	○
学校カリキュラム論	2	2 以上									○	○
教育方法論（ICT 活用を含む）（小学校）	2	2 以上									○	○
生徒指導・進路指導の理論と方法（小学校）	2	2 以上									○	○
生涯学習論	2	2 以上									○	○
子ども・若者と社会病理	2	2 以上									○	○
学校文化・学校空間論	2	2 以上									○	○
子どもと遊び	2	2 以上									○	○
生命倫理学	2	2 以上		○							○	○
現代若者論	2	2 以上									○	○
グローバル教育論	2	2 以上									○	○
国際教育援助論	2	2 以上									○	○
いのちの教育	2	2 以上		○							○	○
学校制度と法規	2	2 以上									○	○
比較市民教育論	2	2 以上									○	○
自我論	2	2 以上									○	○
家族社会学	2	2 以上									○	○
メディアリテラシー論	2	2 以上									○	○
子どもとメディア	2	2 以上									○	○
マンガ文化論	2	2 以上									○	○
身体表現論	2	2 以上									○	○
子どもとスポーツ	2	2 以上									○	○
家族関係論	2	2 以上									○	○
子どもと ICT	2	2 以上									○	○

I. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

II. 産業社会学部での履修

III. ゼミナール・卒業研究

IV. 産業社会学部の特色ある学び

V. 学部横断プログラム

VI. 資格取得・キャリア形成

VII. 正課学修の援助制度

VIII. ハラスメントの防止

IX. マップキュラム

<教科教育>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
初等国語（書写を含む）	2	1 以上									○	○
初等社会	2	2 以上									○	○
算数	2	1 以上									○	○
初等理科	2	2 以上									○	○
生活	2	3 以上									○	○
音楽Ⅰ	2	2 以上									○	○
音楽Ⅱ	2	3 以上									○	○
図画工作	2	2 以上									○	○
家庭	2	2 以上									○	○
初等体育	2	2 以上									○	○
初等英語	2	2 以上									○	○
初等国語科教育法	2	2 以上									○	○
初等社会科教育法	2	3 以上									○	○
算数科教育法	2	2 以上									○	○
初等理科教育法	2	3 以上									○	○
生活科教育法	2	2 以上									○	○
音楽科教育法	2	3 以上									○	○
図画工作科教育法	2	3 以上									○	○
家庭科教育法	2	3 以上									○	○
初等体育科教育法	2	3 以上									○	○
初等英語科教育法	2	3 以上									○	○

人間福祉専攻

<専門導入科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
現代と福祉	2	1 以上	●	○	○						○	○
社会福祉概論	2	1 以上		○	○						○	○
人間発達論	2	1 以上		○	○						○	○
地域福祉論	2	2 以上		○	○						○	○
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	2 以上									○	○

<専門展開科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
ゼミナールⅠ	2	3 以上	P.54~ を参照	○	○	◎	◎	○		○		
ゼミナールⅡ	2	3 以上		○	○	◎	◎	○		○		
ゼミナールⅢ	2	4 以上		○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
ゼミナールⅣ	2	4 以上	●	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
卒業研究	4	4 以上	●	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎
人間福祉専門特殊講義	2または 4	2 以上									○	○
国際保健医療政策研究	2	2 以上									○	○
福祉発達史	2	2 以上									○	○
公的扶助論	2	2 以上									○	○
国際福祉社会論	2	2 以上									○	○
社会福祉法制	2	2 以上									○	○
司法福祉論	2	2 以上									○	○
バリアフリー論	2	2 以上									○	○
NPO・NGO 論	2	2 以上									○	○
福祉経営論	2	2 以上									○	○
福祉労働論	2	2 以上									○	○
権利擁護と成年後見	2	2 以上									○	○
社会福祉調査論	2	2 以上									○	○
社会保障論	2	2 以上		○							○	
精神障害リハビリテーション論	2	2 以上			○						○	○
老人福祉論	2	2 以上			○						○	○
障害者福祉論	2	2 以上			○						○	○
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	2 以上									○	○
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	2 以上									○	○
児童福祉論	2	2 以上			○						○	○
医学一般	2	2 以上									○	○
医療福祉論	2	2 以上									○	○
家族関係論	2	2 以上			○						○	○
臨床社会学	2	2 以上			○						○	○
スクールソーシャルワーク論	2	2 以上			○						○	○
特別支援教育論	2	2 以上			○						○	○
障害者教育・福祉論	2	2 以上			○						○	○
心理学	2	2 以上			○						○	○
心理臨床論	2	2 以上			○						○	○

I. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

II. 産業社会学部での履修

III. ゼミナール・卒業研究

IV. 産業社会学部の特色ある学び

V. 学部横断プログラム

VI. 資格取得・キャリア形成

VII. 正課学修の援助制度

VIII. ハラスメントの防止

IX. カリキュラムマップ

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
発達障害論	2	2 以上			○						○	○
障害者とコミュニケーション	2	2 以上			○						○	○
障害者とスポーツ	2	2 以上									○	○
心理検査法	2	2 以上									○	○
発達保障論	2	2 以上			○						○	○
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2 以上									○	○

発展科目

<キャリア形成科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
キャリア形成特殊講義	2	1 以上		○	○							○

<産業社会学部英語副専攻科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
Academic Writing 1	2	2 以上			○				○			
Academic Writing 2	2	2 以上			○				○			
Academic Reading & Discussion 1	2	2 以上			○				○			
Academic Reading & Discussion 2	2	2 以上			○				○			
Academic Presentation 1	2	2 以上			○				○			
Academic Presentation 2	2	2 以上			○				○			
Cultural Studies	2	3 以上		○	○				○		○	○
Language and Society	2	3 以上		○	○				○		○	○
Media & Society	2	3 以上		○	○				○		○	○
Global Issues	2	3 以上		○	○				○		○	○
Issues of Democracy	2	3 以上		○	○				○		○	○
Contemporary Topics	2	3 以上		○	○				○		○	○
Study Abroad Program	4	2 以上		○	○				○		○	○

<グローバルスタディプログラム>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
グローバル社会論	2	2 以上		○	○						○	○
Reading & Discussion 1	1	2 以上		○	○				○			
Reading & Discussion 2	1	2 以上		○	○				○			
English in the Media 1	1	2 以上		○	○				○			
English in the Media 2	1	2 以上		○	○				○			
Presentation Skills 1	1	2 以上		○	○				○			
Presentation Skills 2	1	2 以上		○	○				○			
English in Film 1	1	2 以上		○	○				○			
English in Film 2	1	2 以上		○	○				○			

<ソーシャルデザインプログラム>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
ソーシャルデザイン・スタディーズ入門	2	2 以上		○		○	○					
ソーシャルデザイン・スタディーズ実践	2	2 以上									○	○

I. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

II. 産業社会学部での履修

III. ゼミナール・卒業研究

IV. 産業社会学部の特色ある学び

V. 学部横断プログラム

VI. 資格取得・キャリア形成

VII. 正課学修の援助制度

VIII. ハラスメントの防止

IX. マッピング

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
情報リテラシーⅡ	2	1 以上								○		

<探究科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
理科探究 A	2	1 以上									○	○
理科探究 B	2	1 以上									○	○
数学探究	2	1 以上									○	○

<社会調査士課程に関する科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
社会調査士Ⅰ	2	1 のみ				◎	◎	○		○	○	○
社会調査士Ⅱ	2	2 のみ				◎	◎	○		○	○	○
社会調査士Ⅲ	2	2 のみ				◎	◎	○		○	○	○

<教職発展科目>

科目名	単位数	配当 回生	必修	教育目標								
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
(教) 中等社会系授業発展演習	2	3 以上									○	○
(教) 保健体育科授業発展演習	2	3 以上									○	○
(教) 教育制度論	2	3 以上									○	○
(教) 児童・生徒理解の心理学	2	3 以上									○	○
(教) 道徳授業発展演習	2	3 以上									○	○
(教) 教育相談の実際	2	3 以上									○	○
(教) 学校インターンシップⅠ	2	3 以上									○	○
(教) 学校インターンシップⅡ	3	3 以上									○	○
(教) 学校インターンシップⅢ	4	3 以上									○	○
(教) 国際理解教育論	2	3 以上									○	○
(教) 学校文化論	2	3 以上									○	○
(教) 人間と差別の教育論	2	3 以上									○	○
(教) 学級担任論	2	3 以上									○	○

2. 科目ナンバリング

科目ナンバリングの 基本フォーマット

科目ナンバリングは、授業科目に当該科目のカリキュラム上の位置づけに対応する番号を付すことで、学生が科目の系統履修および卒業要件充足の自己管理を容易にするためのものです。

X	X	X	X	X	X
科目区分		配当回生	分類番号		使用言語
①		②	③		④

① 2桁のアルファベットで科目区分を表し、卒業要件と対応させています。

【科目区分コード】

1桁目（科目区分）		2桁目（専攻区分）	
1	教養科目	G	現代社会専攻
2	外国語	M	メディア社会専攻
3	学部基礎専門	S	スポーツ社会専攻
4	専門導入科目	K	子ども社会専攻
5	専門展開科目	N	人間福祉専攻
6	発展科目	A	全専攻に跨る科目
7	その他	Z	その他（特定の数専攻のみに跨る科目および資格課程科目など）

② 1桁の数字で配当回生を表しています。

【配当回生コード】

1	学部 1 年次相当
2	学部 2 年次相当
3	学部 3 年次相当
4	学部 4 年次相当

③ 分類番号として 3 桁の数字で分類番号を表しています。

分類番号は科目ごとの区分をするための数字であり、番号自体に意味はありません。

④ 1桁のアルファベットで使用言語を表しています。

【使用言語コード】

J	日本語開講
E	英語開講
O	英語以外の外国語開講
B	複数言語での開講（クラスによって開講言語が異なる場合）
M	複数言語での開講（1 授業内で複数言語を併用して授業を行う場合）

産業社会学部 科目ナンバリング一覧

科目名称	ナンバリング
日本の近現代と立命館	1A-1-001J
ピア・サポート論	1A-1-002J
ジェンダーとダイバーシティ	1A-1-003J
市民と政治	1A-1-004J
日本国憲法	1A-1-005J
災害と安全	1A-1-006J
歴史観の形成	1A-1-007J
科学・技術と社会	1A-1-008J
実践データ科学	1A-1-009J
現代平和論	1A-1-010J
戦争の歴史と思想	1A-1-011J
平和人権フィールドスタディ	1A-2-012J
哲学と人間	1A-1-013J
人間性と倫理	1A-1-014J
論理と思考	1A-1-015J
社会思想史	1A-1-016J
科学技術と倫理	1A-1-017J
宗教と社会	1A-1-018J
メンタルヘルス	1A-1-019J
(留) 日本の文化・地理・歴史	1A-1-020J
メディアと図書館	1A-1-021J
文化人類学入門	1A-1-022J
文学と社会	1A-1-023J
現代の教育	1A-1-024J
世界の言語と文化	1A-1-025J
世界と日本の食文化	1A-1-026J
観光学	1A-1-027J
京都学	1A-1-028J
(留) 日本語学	1A-2-029J
美と芸術の論理	1A-1-030J
音楽原論	1A-1-031J
映像と表現	1A-1-032J
映像メディア実践入門	1A-1-033J
文芸創作論	1A-1-034J
国の行政組織	1A-1-035J
現代社会と法	1A-1-036J

科目名称	ナンバリング
経済と社会	1A-1-037J
企業と社会	1A-1-038J
現代の国際関係と日本	1A-1-039J
日本経済概説	1A-1-040J
現代の世界経済	1A-1-041J
現代の経営	1A-1-042J
ソーシャルデザイン論	1A-1-043J
(留) 日本の社会・政治	1A-1-044J
(留) 日本の経済・経営	1A-1-045J
エリアスタディ入門	1A-1-046J
新しい日本史像	1A-1-047J
中国の国家と社会	1A-1-048J
東アジアと朝鮮半島	1A-1-049J
ヨーロッパの歴史	1A-1-050J
アメリカの社会と文化	1A-1-051J
イスラーム世界の多様性	1A-1-052J
科学的な見方・考え方	1A-1-053J
宇宙科学	1A-1-054J
地球科学	1A-1-055J
生命科学(分子と生命)	1A-1-056J
生命科学(生物と生態系)	1A-1-057J
材料と化学	1A-1-058J
現代環境論	1A-1-059J
科学と技術の歴史	1A-1-060J
生命科学と倫理	1A-1-061J
近現代の科学技術	1A-1-062J
(留) 日本の自然・科学技術	1A-1-063J
数理の世界	1A-1-064J
情報の数理	1A-1-065J
情報科学	1A-1-066J
情報技術と社会	1A-1-067J
データサイエンス・AI 基礎	1A-1-068J
データエンジニアリング基礎	1A-1-069J
Liberal Arts Seminar	1A-1-070B
Introduction to Law	1A-1-071E
Modern World History	1A-1-072E

科目名称	ナンバリング
Japan and the West	1A-1-073E
Introduction to Economics	1A-1-074E
Kyoto and the Japanese Arts	1A-1-075E
Special Lecture	1A-1-076E
Introduction to Linguistics	1A-1-077E
Introduction to Anthropology	1A-1-078E
Introduction to Natural Science	1A-1-079E
Introduction to Humanities	1A-1-080E
Introduction to the United Nations	1A-1-081E
Introduction to Peace Studies	1A-1-082E
Introduction to Gender Studies	1A-1-083E
Introduction to Computational Linguistics	1A-1-084E
History of Computing	1A-1-085E
Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	1A-1-086E
Understanding Language	1A-1-087E
Computers in Education	1A-1-088E
Language in Politics	1A-1-089E
Introductory Course to Climate Change and Global Warming	1A-1-090E
Introductory Course to International Project Development	1A-1-091E
Understanding Visual Culture	1A-1-092E
Introduction to Food Culture	1A-1-093E
Cross Border Policy Issues	1A-1-094E
Playing with Playfulness	1A-1-095E
Introduction to Global Justice	1A-1-096E
Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	1A-1-097E
Cross-cultural Encounters 1	1A-1-098M
Cross-cultural Encounters 2	1A-1-099M
Cross-cultural Studies	1A-1-100E
Cross-cultural Seminar	1A-1-101E
Non-Verbal Communication	1A-1-102E
Academic Skills 1	1A-1-103B
Academic Skills 2	1A-1-104B
グローバル社会の体験と理解	1A-1-105B
Intensive Language Workshop	1A-1-106B
Language for Academic Communication	1A-1-107B

科目名称	ナンバリング
Area Study I	1A-1-108B
Academic Communication (Online Learning)	1A-1-109B
Area Study (Online Learning)	1A-1-110B
社会と学ぶ課題解決	1A-1-111J
学びとキャリア	1A-1-112J
仕事とキャリア	1A-2-113J
コーオブ演習（理論）	1A-2-114J
コーオブ演習（実践）	1A-2-115J
地域参加学習入門	1A-1-116J
現代社会とボランティア	1A-1-117J
現代社会のフィールドワーク	1A-1-118J
シチズンシップ・スタディーズ	1A-2-119J
スポーツの歴史と発展	1A-1-120J
スポーツと現代社会	1A-1-121J
スポーツのサイエンス	1A-1-122J
現代人とヘルスケア	1A-1-123J
スポーツ方法実習Ⅰ	1A-1-124J
スポーツ方法実習Ⅱ	1A-1-125J
教養ゼミナール	1A-1-126J
異文化間テーマ演習	1A-1-127J
超領域リベラルアーツ	1A-3-128J
単位互換科目	1A-1-129B
英語 1	2A-1-001E
英語 2	2A-1-002E
英語 3	2A-1-003E
英語 4	2A-1-004E
基本英語（単位回復）1	2A-1-005E
基本英語（単位回復）2	2A-1-006E
基本英語（単位回復）3	2A-1-007E
基本英語（単位回復）4	2A-1-008E
基本英語（単位回復）5	2A-1-009E
基本英語（単位回復）6	2A-1-010E
基本英語（単位回復）7	2A-1-011E
基本英語（単位回復）8	2A-1-012E
ドイツ語・基礎	2A-1-0130
ドイツ語・展開	2A-1-0140
ドイツ語・表現Ⅰ	2A-1-0150

科目名称	ナンバリング
ドイツ語・表現Ⅱ	2A-1-0160
基本ドイツ語（表現）Ⅰ	2A-1-0170
基本ドイツ語（表現）Ⅱ	2A-1-0180
基本ドイツ語（文化）Ⅰ	2A-1-0190
基本ドイツ語（文化）Ⅱ	2A-1-0200
基本ドイツ語（社会）Ⅰ	2A-1-0210
基本ドイツ語（社会）Ⅱ	2A-1-0220
基本ドイツ語（生活）Ⅰ	2A-1-0230
基本ドイツ語（生活）Ⅱ	2A-1-0240
ドイツ語中級コミュニケーションⅠ	2A-1-0250
ドイツ語中級コミュニケーションⅡ	2A-1-0260
ドイツ語中級表現読解Ⅰ	2A-1-0270
ドイツ語中級表現読解Ⅱ	2A-1-0280
ドイツ語中級表現読解Ⅲ	2A-1-0290
ドイツ語中級表現読解Ⅳ	2A-1-0300
ドイツ語中級表現読解Ⅴ	2A-1-0310
フランス語・基礎	2A-1-0320
フランス語・展開	2A-1-0330
フランス語・表現Ⅰ	2A-1-0340
フランス語・表現Ⅱ	2A-1-0350
基本フランス語（表現）Ⅰ	2A-1-0360
基本フランス語（表現）Ⅱ	2A-1-0370
基本フランス語（文化）Ⅰ	2A-1-0380
基本フランス語（文化）Ⅱ	2A-1-0390
基本フランス語（社会）Ⅰ	2A-1-0400
基本フランス語（社会）Ⅱ	2A-1-0410
基本フランス語（生活）Ⅰ	2A-1-0420
基本フランス語（生活）Ⅱ	2A-1-0430
フランス語中級コミュニケーションⅠ	2A-1-0440
フランス語中級コミュニケーションⅡ	2A-1-0450
フランス語中級表現読解Ⅰ	2A-1-0460
フランス語中級表現読解Ⅱ	2A-1-0470
フランス語中級表現読解Ⅲ	2A-1-0480
フランス語中級表現読解Ⅳ	2A-1-0490
フランス語中級表現読解Ⅴ	2A-1-0500
中国語・基礎	2A-1-0510
中国語・展開	2A-1-0520
中国語・表現Ⅰ	2A-1-0530

科目名称	ナンバリング
中国語・表現Ⅱ	2A-1-0540
基本中国語（表現）Ⅰ	2A-1-0550
基本中国語（表現）Ⅱ	2A-1-0560
基本中国語（文化）Ⅰ	2A-1-0570
基本中国語（文化）Ⅱ	2A-1-0580
基本中国語（社会）Ⅰ	2A-1-0590
基本中国語（社会）Ⅱ	2A-1-0600
基本中国語（生活）Ⅰ	2A-1-0610
基本中国語（生活）Ⅱ	2A-1-0620
中国語中級コミュニケーションⅠ	2A-1-0630
中国語中級コミュニケーションⅡ	2A-1-0640
中国語中級表現読解Ⅰ	2A-1-0650
中国語中級表現読解Ⅱ	2A-1-0660
中国語中級表現読解Ⅲ	2A-1-0670
中国語中級表現読解Ⅳ	2A-1-0680
中国語中級表現読解Ⅴ	2A-1-0690
スペイン語・基礎	2A-1-0700
スペイン語・展開	2A-1-0710
スペイン語・表現Ⅰ	2A-1-0720
スペイン語・表現Ⅱ	2A-1-0730
基本スペイン語（表現）Ⅰ	2A-1-0740
基本スペイン語（表現）Ⅱ	2A-1-0750
基本スペイン語（文化）Ⅰ	2A-1-0760
基本スペイン語（文化）Ⅱ	2A-1-0770
基本スペイン語（社会）Ⅰ	2A-1-0780
基本スペイン語（社会）Ⅱ	2A-1-0790
基本スペイン語（生活）Ⅰ	2A-1-0800
基本スペイン語（生活）Ⅱ	2A-1-0810
スペイン語中級コミュニケーションⅠ	2A-1-0820
スペイン語中級コミュニケーションⅡ	2A-1-0830
スペイン語中級表現読解Ⅰ	2A-1-0840
スペイン語中級表現読解Ⅱ	2A-1-0850
スペイン語中級表現読解Ⅲ	2A-1-0860
スペイン語中級表現読解Ⅳ	2A-1-0870
スペイン語中級表現読解Ⅴ	2A-1-0880
朝鮮語・基礎	2A-1-0890
朝鮮語・展開	2A-1-0900
朝鮮語・表現Ⅰ	2A-1-0910

科目名称	ナンバリング
朝鮮語・表現Ⅱ	2A-1-0920
基本朝鮮語（表現）Ⅰ	2A-1-0930
基本朝鮮語（表現）Ⅱ	2A-1-0940
基本朝鮮語（文化）Ⅰ	2A-1-0950
基本朝鮮語（文化）Ⅱ	2A-1-0960
基本朝鮮語（社会）Ⅰ	2A-1-0970
基本朝鮮語（社会）Ⅱ	2A-1-0980
基本朝鮮語（生活）Ⅰ	2A-1-0990
基本朝鮮語（生活）Ⅱ	2A-1-1000
朝鮮語中級コミュニケーションⅠ	2A-1-1010
朝鮮語中級コミュニケーションⅡ	2A-1-1020
朝鮮語中級表現読解Ⅰ	2A-1-1030
朝鮮語中級表現読解Ⅱ	2A-1-1040
朝鮮語中級表現読解Ⅲ	2A-1-1050
朝鮮語中級表現読解Ⅳ	2A-1-1060
朝鮮語中級表現読解Ⅴ	2A-1-1070
日本語Ⅶ（聴解口頭 a）	2A-1-108J
日本語Ⅶ（聴解口頭 b）	2A-1-109J
日本語Ⅶ（読解 a）	2A-1-110J
日本語Ⅶ（読解 b）	2A-1-111J
日本語Ⅶ（文章表現 a）	2A-1-112J
日本語Ⅶ（文章表現 b）	2A-1-113J
入門社会学	3A-1-001J
社会経済学	3Z-1-002J
社会学史	3Z-1-003J
産業技術論	3A-1-004J
現代史	3A-1-005J
社会心理学	3A-1-006J
現代政治論	3Z-1-007J
社会学理論	3Z-1-008J
コミュニケーション理論	3A-1-009J
地域社会論	3Z-1-010J
社会保障政策	3A-1-011J
ソーシャルデザイン入門	3A-1-012J
国際社会入門	3A-1-013J
異文化理解フィールドワーク	3A-2-014J
現代教育社会論	3A-1-015J
企画研究	3A-2-016J

科目名称	ナンバリング
専門特殊講義Ⅰ	3A-1-017J
専門特殊講義Ⅱ	3A-2-018J
専門特殊講義Ⅲ	3A-3-019J
社会調査論	3Z-1-020J
社会統計学	3A-1-021J
社会調査情報処理	3A-1-022J
計量社会学	3A-1-023J
質的調査論	3A-1-024J
情報リテラシーⅠ	3A-1-025J
基礎演習Ⅰ	3A-1-026J
基礎演習Ⅱ	3A-1-027J
プロジェクトスタディⅠ A	3A-2-028J
プロジェクトスタディⅡ A	3A-2-029J
Global Project-Based Learning	3A-1-030B
Area StudyⅡ	3A-1-031B
Global Study	3A-1-032B
日本史Ⅰ	3Z-2-033J
日本史Ⅱ	3Z-2-034J
外国史Ⅰ	3Z-2-035J
外国史Ⅱ	3Z-2-036J
地誌学	3Z-2-037J
政治学	3Z-2-038J
社会学の基礎	3Z-2-039J
哲学	3Z-2-040J
倫理学	3Z-2-041J
現代と社会	4G-1-001J
産業社会学	4G-1-002J
多文化共生論	4G-1-003J
都市論	4G-2-004J
社会文化論	4G-2-005J
現代とメディア	4M-1-006J
現代メディア史	4M-1-007J
メディア技術史	4M-1-008J
メディア社会論	4M-2-009J
メディア文化論	4M-2-010J
現代とスポーツ	4S-1-011J
スポーツ史	4S-1-012J
ウェルネス論	4S-1-013J

Ⅰ. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

Ⅱ. 産業社会学部での履修

Ⅲ. ゼミナール・卒業研究

Ⅳ. 産業社会学部の特色ある学び

Ⅴ. 学部横断プログラム

Ⅵ. 資格取得・キャリア形成

Ⅶ. 正課学修の援助制度

Ⅷ. ハラスメントの防止

Ⅸ. マリキュラム

科目名称	ナンバリング
スポーツ社会学	4S-2-014J
スポーツ文化論	4S-2-015J
子どもと社会	4K-1-016J
子どもと教育の歴史	4K-1-017J
現代学校教育論	4K-1-018J
現代教職概論	4K-2-019J
現代と福祉	4N-1-020J
社会福祉概論	4N-1-021J
人間発達論	4N-1-022J
地域福祉論	4N-2-023J
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	4N-2-024J
ゼミナールⅠ	5A-3-001J
ゼミナールⅡ	5A-3-002J
ゼミナールⅢ	5A-4-003J
ゼミナールⅣ	5A-4-004J
卒業研究	5A-4-005J
現代社会専門特殊講義	5G-2-006J
労働社会学	5G-2-007J
日本経済論	5G-2-008J
企業社会論	5G-2-009J
社会政策論	5G-2-010J
社会階層論	5G-2-011J
現代労働論	5G-2-012J
比較政治論	5G-2-013J
現代市民社会論	5G-2-014J
国際社会経済学	5G-2-015J
現代経済論	5G-2-016J
景観デザイン論	5G-2-017J
住民自治論	5G-2-018J
環境形成論	5G-2-019J
環境論	5G-2-020J
環境社会論	5G-2-021J
環境経済学	5G-2-022J
資源エネルギー論	5G-2-023J
国際環境政策論	5G-2-024J
比較宗教論	5G-2-025J
アジア文化論	5G-2-026J
社会思想	5G-2-027J

科目名称	ナンバリング
比較文化論	5G-2-028J
社会倫理学	5G-2-029J
家族社会学	5Z-2-030J
エスニシティ論	5G-2-031J
比較ジェンダー論	5G-2-032J
社会病理学	5G-2-033J
メディア社会専門特殊講義	5M-2-034J
ジャーナリズム論	5M-2-035J
パブリックアクセス論	5M-2-036J
活字メディア論	5M-2-037J
国際ジャーナリズム論	5M-2-038J
メディア倫理	5M-2-039J
ニュース論	5M-2-040J
グローバルメディア論	5M-2-041J
スポーツメディア論	5Z-2-042J
広告論	5M-2-043J
音声メディア論	5M-2-044J
コミュニケーション政策論	5M-2-045J
広告文化論	5M-2-046J
コミュニティメディア論	5M-2-047J
スポーツ変動論	5Z-2-048J
メディアリテラシー論	5Z-2-049J
映像表現論	5M-2-050J
観光文化論	5M-2-051J
映画と社会	5M-2-052J
表象文化論	5M-2-053J
子どもとメディア	5Z-2-054J
マンガ文化論	5Z-2-055J
スポーツ社会専門特殊講義	5S-2-056J
スポーツ政策論	5S-2-057J
スポーツ産業論	5S-2-058J
スポーツとジェンダー	5S-2-059J
子どもとスポーツ	5Z-2-060J
障害者とスポーツ	5Z-2-061J
余暇の社会史	5S-2-062J
スポーツ人類学	5S-2-063J
武道論	5S-2-064J
スポーツ規範論	5S-2-065J

科目名称	ナンバリング
現代余暇論	5S-2-066J
グローバルスポーツ論	5S-2-067J
比較スポーツ論	5S-2-068J
身体表現論	5Z-2-069J
スポーツマネジメント論	5S-2-070J
スポーツ法学	5S-2-071J
スポーツ行政論	5S-2-072J
スポーツボランティア論	5S-2-073J
地域スポーツ論	5S-2-074J
スポーツ指導論	5S-2-075J
スポーツクラブ論	5S-2-076J
衛生学	5S-2-077J
学校保健	5S-2-078J
ヘルスマネジメント論	5S-2-079J
スポーツバイオメカニクス	5S-2-080J
生理学	5S-2-081J
スポーツ心理学Ⅲ	5S-2-082J
スポーツ教育論実習Ⅰ	5S-2-083J
スポーツ教育論実習Ⅱ	5S-2-084J
スポーツ教育論実習Ⅲ	5S-2-085J
スポーツ教育論実習Ⅳ	5S-2-086J
子ども社会専門特殊講義	5K-2-087J
学校カウンセリング論	5K-3-088J
特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法	5K-2-089J
特別支援教育概論（小学校）	5K-3-090J
スクールソーシャルワーク論	5Z-2-091J
児童・発達心理学	5K-2-092J
道徳教育論	5K-2-093J
学校カリキュラム論	5K-2-094J
教育方法論（ICT 活用を含む）（小学校）	5K-2-095J
生徒指導・進路指導の理論と方法（小学校）	5K-2-096J
生涯学習論	5K-2-097J
子ども・若者と社会病理	5K-2-098J
学校文化・学校空間論	5K-2-099J
子どもと遊び	5K-2-100J
生命倫理学	5Z-2-101J
現代若者論	5K-2-102J
グローバル教育論	5K-2-103J

科目名称	ナンバリング
国際教育援助論	5K-2-104J
いのちの教育	5K-2-105J
学校制度と法規	5K-2-106J
比較市民教育論	5K-2-107J
自我論	5Z-2-108J
子どもと ICT	5K-2-109J
人間福祉専門特殊講義	5N-2-110J
国際保健医療政策研究	5N-2-111J
福祉発達史	5N-2-112J
公的扶助論	5N-2-113J
国際福祉社会論	5N-2-114J
社会福祉法制	5N-2-115J
司法福祉論	5N-2-116J
バリアフリー論	5N-2-117J
NPO・NGO 論	5Z-2-118J
福祉経営論	5N-2-119J
福祉労働論	5N-2-120J
権利擁護と成年後見	5N-2-121J
社会福祉調査論	5N-2-122J
社会保障論	5N-2-123J
精神障害リハビリテーション論	5N-2-124J
老人福祉論	5N-2-125J
障害者福祉論	5N-2-126J
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	5N-2-127J
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	5N-2-128J
児童福祉論	5N-2-129J
医学一般	5N-2-130J
医療福祉論	5N-2-131J
家族関係論	5Z-2-132J
臨床社会学	5Z-2-133J
特別支援教育論	5N-2-134J
障害者教育・福祉論	5N-2-135J
心理学	5N-2-136J
心理臨床論	5N-2-137J
発達障害論	5N-2-138J
障害者とコミュニケーション	5N-2-139J
心理検査法	5N-2-140J
発達保障論	5N-2-141J

Ⅰ. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

Ⅱ. 産業社会学部での履修

Ⅲ. ゼミナール・卒業研究

Ⅳ. 産業社会学部の特色ある学び

Ⅴ. 学部横断プログラム

Ⅵ. 資格取得・キャリア形成

Ⅶ. 正課学修の援助制度

Ⅷ. ハラスメントの防止

Ⅸ. マカリキュラム

科目名称	ナンバリング
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	5N-2-142J
Academic Writing 1	6A-2-001E
Academic Writing 2	6A-2-002E
Academic Reading & Discussion 1	6A-2-003E
Academic Reading & Discussion 2	6A-2-004E
Academic Presentation 1	6A-2-005E
Academic Presentation 2	6A-2-006E
Cultural Studies	6A-3-007E
Language and Society	6A-3-008E
Media & Society	6A-3-009E
Global Issues	6A-3-010E
Issues of Democracy	6A-3-011E
Contemporary Topics	6A-3-012E
Study Abroad Program	6A-2-013E
キャリア形成特殊講義	6A-1-014J
社会調査士Ⅰ	6Z-1-015J
社会調査士Ⅱ	6Z-2-016J
社会調査士Ⅲ	6Z-2-017J
理科探究 A	6A-1-018J
理科探究 B	6A-1-019J
数学探究	6A-1-020J
グローバル社会論	6A-2-021J
ソーシャルデザイン・スタディーズ入門	6A-2-022J
ソーシャルデザイン・スタディーズ実践	6A-2-023J
Reading & Discussion 1	6A-2-024E
Reading & Discussion 2	6A-2-025E
English in the Media 1	6A-2-026E
English in the Media 2	6A-2-027E
Presentation Skills 1	6A-2-028E
Presentation Skills 2	6A-2-029E
English in Film 1	6A-2-030E
English in Film 2	6A-2-031E
情報リテラシーⅡ	6A-1-032J
Academic Writing 1	6A-2-033E
Academic Writing 2	6A-2-034E
Academic Reading & Discussion 1	6A-2-035E
Academic Reading & Discussion 2	6A-2-036E
Academic Presentation 1	6A-2-037E

科目名称	ナンバリング
Academic Presentation 2	6A-2-038E
Cultural Studies	6A-3-039E
Language and Society	6A-3-040E
Media & Society	6A-3-041E
Global Issues	6A-3-042E
Issues of Democracy	6A-3-043E
Contemporary Topics	6A-3-044E
Study Abroad Program	6A-2-045E
専門ドイツ語Ⅰ	6A-2-0460
専門ドイツ語Ⅱ	6A-2-0470
専門ドイツ語Ⅲ	6A-2-0480
専門ドイツ語Ⅳ	6A-2-0490
専門ドイツ語Ⅴ	6A-3-0500
専門ドイツ語Ⅵ	6A-3-0510
専門ドイツ語Ⅶ	6A-3-0520
専門ドイツ語Ⅷ	6A-3-0530
ドイツ語コミュニケーションⅠ	6A-2-0540
ドイツ語コミュニケーションⅡ	6A-2-0550
ドイツ語コミュニケーションⅢ	6A-3-0560
ドイツ語コミュニケーションⅣ	6A-3-0570
専門フランス語Ⅰ	6A-2-0580
専門フランス語Ⅱ	6A-2-0590
専門フランス語Ⅲ	6A-2-0600
専門フランス語Ⅳ	6A-2-0610
専門フランス語Ⅴ	6A-3-0620
専門フランス語Ⅵ	6A-3-0630
専門フランス語Ⅶ	6A-3-0640
専門フランス語Ⅷ	6A-3-0650
フランス語コミュニケーションⅠ	6A-2-0660
フランス語コミュニケーションⅡ	6A-2-0670
フランス語コミュニケーションⅢ	6A-3-0680
フランス語コミュニケーションⅣ	6A-3-0690
専門中国語Ⅰ	6A-2-0700
専門中国語Ⅱ	6A-2-0710
専門中国語Ⅲ	6A-2-0720
専門中国語Ⅳ	6A-2-0730
専門中国語Ⅴ	6A-3-0740
専門中国語Ⅵ	6A-3-0750

科目名称	ナンバリング
専門中国語Ⅶ	6A-3-0760
専門中国語Ⅷ	6A-3-0770
中国語コミュニケーションⅠ	6A-2-0780
中国語コミュニケーションⅡ	6A-2-0790
中国語コミュニケーションⅢ	6A-3-0800
中国語コミュニケーションⅣ	6A-3-0810
専門スペイン語Ⅰ	6A-2-0820
専門スペイン語Ⅱ	6A-2-0830
専門スペイン語Ⅲ	6A-2-0840
専門スペイン語Ⅳ	6A-2-0850
専門スペイン語Ⅴ	6A-3-0860
専門スペイン語Ⅵ	6A-3-0870
専門スペイン語Ⅶ	6A-3-0880
専門スペイン語Ⅷ	6A-3-0890
スペイン語コミュニケーションⅠ	6A-2-0900
スペイン語コミュニケーションⅡ	6A-2-0910
スペイン語コミュニケーションⅢ	6A-3-0920
スペイン語コミュニケーションⅣ	6A-3-0930
専門朝鮮語Ⅰ	6A-2-0940
専門朝鮮語Ⅱ	6A-2-0950
専門朝鮮語Ⅲ	6A-2-0960
専門朝鮮語Ⅳ	6A-2-0970
専門朝鮮語Ⅴ	6A-3-0980
専門朝鮮語Ⅵ	6A-3-0990
専門朝鮮語Ⅶ	6A-3-1000
専門朝鮮語Ⅷ	6A-3-1010
朝鮮語コミュニケーションⅠ	6A-2-1020
朝鮮語コミュニケーションⅡ	6A-2-1030
朝鮮語コミュニケーションⅢ	6A-3-1040
朝鮮語コミュニケーションⅣ	6A-3-1050
専門ドイツ語Ⅴ（既修者）	6A-2-1060
専門ドイツ語Ⅵ（既修者）	6A-2-1070
専門ドイツ語Ⅶ（既修者）	6A-2-1080
専門ドイツ語Ⅷ（既修者）	6A-2-1090
ドイツ語コミュニケーションⅢ（既修者）	6A-2-1100
ドイツ語コミュニケーションⅣ（既修者）	6A-2-1110
専門フランス語Ⅴ（既修者）	6A-2-1120
専門フランス語Ⅵ（既修者）	6A-2-1130

科目名称	ナンバリング
専門フランス語Ⅶ（既修者）	6A-2-1140
専門フランス語Ⅷ（既修者）	6A-2-1150
フランス語コミュニケーションⅢ（既修者）	6A-2-1160
フランス語コミュニケーションⅣ（既修者）	6A-2-1170
専門中国語Ⅴ（既修者）	6A-2-1180
専門中国語Ⅵ（既修者）	6A-2-1190
専門中国語Ⅶ（既修者）	6A-2-1200
専門中国語Ⅷ（既修者）	6A-2-1210
中国語コミュニケーションⅢ（既修者）	6A-2-1220
中国語コミュニケーションⅣ（既修者）	6A-2-1230
専門スペイン語Ⅴ（既修者）	6A-2-1240
専門スペイン語Ⅵ（既修者）	6A-2-1250
専門スペイン語Ⅶ（既修者）	6A-2-1260
専門スペイン語Ⅷ（既修者）	6A-2-1270
スペイン語コミュニケーションⅢ（既修者）	6A-2-1280
スペイン語コミュニケーションⅣ（既修者）	6A-2-1290
専門朝鮮語Ⅴ（既修者）	6A-2-1300
専門朝鮮語Ⅵ（既修者）	6A-2-1310
専門朝鮮語Ⅶ（既修者）	6A-2-1320
専門朝鮮語Ⅷ（既修者）	6A-2-1330
朝鮮語コミュニケーションⅢ（既修者）	6A-2-1340
朝鮮語コミュニケーションⅣ（既修者）	6A-2-1350
ソーシャルワーク演習	7Z-2-001J
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	7Z-2-002J
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	7Z-3-003J
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	7Z-2-004J
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	7Z-3-005J
ソーシャルワーク実習Ⅰ	7Z-2-006J
ソーシャルワーク実習Ⅱ	7Z-3-007J
初等国語（書写を含む。）	6K-1-114J
初等社会	6K-2-115J
算数	6K-1-116J
初等理科	6K-2-117J
生活	6K-3-118J
音楽Ⅰ	6K-2-119J
音楽Ⅱ	6K-3-120J
図画工作	6K-2-121J
家庭	6K-2-122J

Ⅰ. 産業社会学部の人材育成目的・教育目標

Ⅱ. 産業社会学部での履修

Ⅲ. ゼミナール・卒業研究

Ⅳ. 産業社会学部の特色ある学び

Ⅴ. 学部横断プログラム

Ⅵ. 資格取得・キャリア形成

Ⅶ. 正課学修の援助制度

Ⅷ. ハラスメントの防止

Ⅸ. マッピング

科目名称	ナンバリング
初等体育	6K-2-123J
初等英語	6K-2-124J
初等国語科教育法	6K-2-125J
初等社会科教育法	6K-3-126J
算数科教育法	6K-2-127J
初等理科教育法	6K-3-128J
生活科教育法	6K-2-129J
音楽科教育法	6K-3-130J
図画工作科教育法	6K-3-131J
家庭科教育法	6K-3-132J
初等体育科教育法	6K-3-133J
初等英語科教育法	6K-3-134J
(教) 教育原理	7Z-1-001J
(教) 教職概論	7Z-1-002J
(教) 教育社会学	7Z-1-003J
(教) 教育制度論	7Z-3-004J
(教) 教育心理学	7Z-1-005J
(教) 児童・生徒理解の心理学	7Z-3-006J
(教) 特別支援教育概論	7Z-1-007J
(教) 教育課程論	7Z-2-008J
(教) 道德教育の理論と方法	7Z-2-009J
(教) 道德授業発展演習	7Z-3-010J
(教) 総合的な学習の時間の理論と方法	7Z-3-011J
(教) 特別活動の理論と方法	7Z-2-012J
(教) 教育方法論 (ICT 活用を含む)	7Z-2-013J
(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法	7Z-2-014J
(教) 教育相談の理論と方法	7Z-2-015J
(教) 教育相談の実践	7Z-3-016J
(教) 教育実習事前指導	7Z-3-017J
(教) 教育実習Ⅰ (事後指導を含む)	7Z-4-018J
(教) 教育実習Ⅱ (事後指導を含む)	7Z-4-019J
(教) 教職実践演習 (中・高)	7Z-4-020J
(教) 社会科・地理歴史科教育概論	7Z-2-021J
(教) 社会科・公民科教育概論	7Z-2-022J
(教) 社会科・地理歴史科授業法	7Z-3-023J
(教) 社会科・公民科授業法	7Z-3-024J
(教) 中等社会系授業発展演習	7Z-3-025J
(教) 保健体育科教育概論	7Z-2-026J

科目名称	ナンバリング
(教) 保健体育科授業法	7Z-3-027J
(教) 保健体育科指導法Ⅰ	7Z-2-028J
(教) 保健体育科指導法Ⅱ	7Z-3-029J
(教) 保健体育科授業発展演習	7Z-3-030J
(教) 知的障害者の心理・生理・病理	7Z-2-031J
(教) 肢体不自由者の心理・生理・病理	7Z-2-032J
(教) 病弱者の心理・生理・病理	7Z-2-033J
(教) 知的障害教育	7Z-2-034J
(教) 知的障害教育課程論Ⅰ	7Z-2-035J
(教) 知的障害教育課程論Ⅱ	7Z-2-036J
(教) 肢体不自由教育	7Z-2-037J
(教) 病弱教育	7Z-2-038J
(教) 特別支援教育実習 (事前・事後指導を含む)	7Z-4-039J
(教) 学校教育総合演習	7Z-3-040J
(教) 介護等体験 (事前指導)	7Z-2-041J
(教) 介護等体験実習	7Z-3-042J
(教) 人間と差別の教育論	7Z-3-043J
(教) 国際理解教育論	7Z-3-044J
(教) 学校文化論	7Z-3-045J
(教) 学級担任論	7Z-3-046J
(教) 学校インターンシップⅠ	7Z-3-047J
(教) 学校インターンシップⅡ	7Z-3-048J
(教) 学校インターンシップⅢ	7Z-3-049J
(教) 初等教育実習事前指導	7Z-2-050J
(教) 初等教育実習Ⅰ	7Z-3-051J
(教) 初等教育実習Ⅱ (事後指導を含む)	7Z-4-052J
(教) 初等教育実習Ⅲ (事後指導を含む)	7Z-4-053J
(教) 教職実践演習 (小学校)	7Z-4-054J

TOEIC[®]、TOEIC Bridge[®]、TOEFL[®]、TOEFL ITP[®] は Educational Testing Service(ETS) の登録商標です。
TOEIC[®]L&R-テストのL&R は LISTENING AND READING の短縮形です。
そのほか、本誌に掲載した社名、プログラム名、システム名、商品名などは一般に各社の商標または登録商標です。
これらは本誌全体に適用されます。

学生証 番 号									-	フリガナ	
										氏 名	